

クリスチャントゥディ資料集

2018年12月27日編纂

2019年1月1日改訂第2版

2022年8月15日改訂第3版

編集：井手北斗

<https://www.christiantoday.co.jp/reporter/ide-hokuto/>

<https://nehemiaharchives.blogspot.com>

https://note.com/hokuto_ide

ide@christiantoday.co.jp

Copyright © 2018-2022 Hokuto Ide All rights Reserved.

目次

1章 概説

クリスチャントゥディイに関して「何があったのか」	2
信条ではなく出自による教派差別	11

2章 日本福音同盟

世界福音同盟が日本福音同盟に送った書簡	18
首謀者は根田氏か、ニュースNジョイか JEA報告書を見る本紙への妨害	19

3章 日本基督教団

根田祥一氏の私的な怨恨によって右往左往する日本福音同盟	20
根田祥一元編集長、本紙批判声明を背後で主導した疑い	23
根田祥一氏、本紙批判声明の情報提供者であることが明らかに	24
根田祥一氏による「魔女狩り」騒動について	25
根田祥一氏、言論破壊工作の「黒幕」であることが明らかに	27
日本基督教団の議長声明に関する説明会について	29
当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ	35
クリスチャントゥディイをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて	37

4章 韓国のキリスト教界

ホン・ジェチョル代表会長が語る韓国基督教総連合会事態の顛末	39
韓国CTとニュースNジョイの因縁	45
ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」	48
ニュースNジョイ前編集局長は「NL」	54
ニュースNジョイ関連の主体思想派団体関係者、韓国軍工作摘発され処罰	59
韓国キリスト教界、本紙と創始者の疑惑解消を再確認	62

5章 オリベットアッセンブリーとクリスチャントゥディイ

キリスト教の一教派であるオリベット・アッセンブリーについて	65
救いの証し、召命、献身 井手北斗	70
編集長就任あいさつ 井手北斗	87
報道理念クリスチャントゥディイ	90
信仰告白クリスチャントゥディイ（2008年）	92
信仰告白クリスチャントゥディイ（2002年）	95

クリスチャントゥディに関して「何があったのか」

2022年6月21日火曜日

クリスチャントゥディ編集長 井手北斗

僕は、クリスチャントゥディというキリスト教のインターネット新聞の編集長をしております
井手と申します。

クリスチャントゥディに関して「何があったのか」についてお話ししたいと思います。

この記事を読む人は多少なりとも宗教、人によってはキリスト教に関係のある方々が多いと思います。クリスチャントゥディは世界中すべての国のキリスト教のすべての教派に関して、日本語で新しい出来事を報道しているメディアです。特に対象読者をキリスト教徒に絞っているわけではなく、キリスト教に関する世界・日本で起きたあらゆる出来事に関して関心をもった日本語話者が読む媒体となっております。2002年に創業し、今年5月に創業20周年を迎え、読者層の規模としては月間30万回から40万回の閲覧数を数えるほどに成長しました。ことキリスト教に関するニュースを得るという目的のためには、キリスト教界の内外である程度使われており、役に立っているとの評価も得ております。

また、そのようにして読者の皆さんに公器として、公儀として、情報を提供する仕事をしてきたつもりです。クリスチャントゥディをまだ利用したことがない方も、例えばウクライナ戦争におけるロシア正教とウクライナ正教の動きなどに関しては、一般の新聞より詳しく正確な報道をしておりますので、ニュースを通じた貢献ができると思います。クリスチャントゥディを必要としてくださる方々がおられ、またこれからお役立ちできる面があるという事実をまずお伝えします。

クリスチャントゥディには競合する新聞があります。「クリスチャン新聞」といいます。クリスチャン新聞は紙媒体をキリスト教の教会に販売する形態の新聞で、おもな読者はキリスト教徒だけです。クリスチャントゥディとは、キリスト教界内の読者を共有するという一部の点で、競合しています。某人物は、1980年からクリスチャン新聞の記者、編集長を長年つとめ、現在は顧問という肩書を持っています。彼は2004年から現在に至るまで「クリスチャントゥディを読むな。関わるな。取材を受けるな。広告を掲載するな。寄稿するな。なぜならクリスチャントゥディは悪いからだ。悪い理由はこれこれだ」という事実に基づかない情報を広め

て、クリスチャントゥディに風評被害を与えてきました。ただ、クリスチャントゥディが即座に対処できないような方法をとっていました。それは自分では直接やらずに、自分に賛同する人にやらせたからです。

彼や彼を支持する人たちのことを、実質を表すため、また便宜上、差別扇動者と呼称します。

2006年には差別扇動者は、あるキリスト教の教団の牧師を自分の賛同者にして、クリスチャントゥディを誹謗中傷するブログを書くことに協力しました。このブログの内容が事実でなく、違法なものであったため、裁判所はブログを削除する命令を出しましたが、裁判に訴えてから判決が出るまで7年もかかりました。裁判を意図的に遅らせる戦略で風評被害を長引かせようとしたからです。2013年に裁判が結審し、違法判定を受けたブログが削除され、被害も減りつつありました。また、クリスチャントゥディは新しく様々な教派から記者を雇って記事の量と質を向上させ、閲覧数も成長していました。

ところが、2017年末頃から、差別扇動者は、自身のキリスト教界における影響力を活用して、キリスト教の教団の中では日本では最大規模の日本基督教団の一部の意思決定者に入り、事実に基づかない否定的な声明を、教団総会議長に出させました。また、これに先立って、日本基督教団のある牧師を通して、クリスチャントゥディが雇った記者たちに事前にこの議長声明を出させる計画を伝え、議長声明が出る前に、クリスチャントゥディを否定する内容の従業員声明を出してクリスチャントゥディを辞めるよう脅し、それを実行させました。

また、2019年に、クリスチャントゥディに関して事実に基づかない誹謗中傷を書いた匿名の、誰が作ったか分からないブログが現れました。このブログの内容は、日本基督教団の議長声明や、辞めた元従業員が述べた、クリスチャントゥディに関する否定的な内容の根拠のような内容でした。この内容が事実無根の誹謗中傷であり、民法上の名誉権を毀損する違法行為であると判断したため、2020年、クリスチャントゥディは裁判所にこのブログの発信者を開示させる命令をブログ運営会社であるニフティ株式会社に出させるよう請求するための裁判を起こしました。事実無根の誹謗中傷は非常に多く書かれていましたが、裁判の手続きを簡易に、迅速にするため、特に酷いもの5つを選び、争点として裁判所に検討してもらいました。結果、5つの争点すべてが違法であるため、発信者情報開示命令を出す判決が出ました。ニフティは裁判所の命令に従い、発信者の住所氏名をクリスチャントゥディに開示しました。発信者は誹謗中傷の従業員声明を出して辞めた元従業員の一人でした。彼はニフティに対する情報開示請求裁判が始まってすぐに、ニフティから意見照会を受け取った時点ですぐにブログを削除していました。ブログの内容に正当性があれば、裁判で合法性を主張できたはずですが、削除した

ことで、自身の行為の不当性を示しています。その後、元従業員はブログ内容が虚偽に基づく誹謗中傷で違法行為であったことを認め、謝罪し、クリスチャントゥディと法的に和解しました。元従業員は和解する際に、自身の行為は、差別扇動者から影響を受けてやったものだと述べる文書を提出しました。また、差別扇動者は該当のブログ記事が公開されるたびに、ほぼその日のうちに、その記事を、自身のキリスト教界における権威を上乗せして、あたかも確からしいもののように、自身の SNS で拡散し、自身に近い人物らに信じ込ませ、風評被害を拡大させました。

元従業員との法的和解が成立した直後の 2021 年、クリスチャントゥディはようやく、差別扇動者を被告とする裁判を開始しました。これはすでに違法であることがニフティ相手の裁判で確定している 5 つの記事を、SNS で拡散した行為が、違法であるか、合法であるかを、裁判所に問い合わせする裁判です。過去の判例では、違法な記事を掲載することだけではなく、その違法な記事を拡散することも同様に違法であるとの判決が複数だされています。ですので、クリスチャントゥディも差別扇動者による違法な記事の拡散が違法であると考えており、これを裁判所に確認し、判決という形で、法的な評価を得ようとしているところです。この裁判について、差別扇動者は、自身がキリスト教界における権威者であることを理由に、クリスチャントゥディが差別扇動者に楯突くことは、キリスト教界全体を敵に回して挑戦していることであるとの構図を周囲の人々に見せ、自身の正当性を主張しています。差別扇動者は自分は何も悪いことをしておらず、逆にクリスチャントゥディが悪いことをしていると主張しています。違法判決が出れば、少なくとも日本の法律という観点から、差別扇動者が違法であることが示されます。この判決を通して、「クリスチャントゥディを読むな。関わるな。取材を受けるな。広告を掲載するな。寄稿するな。なぜならクリスチャントゥディは悪いからだ。悪い理由はこれこれだ」という言説が事実でなく、差別扇動者の言うとおりに関わらないくてもよい、差別扇動者の言う事を聞かずに、関わっても、関わった人には問題が起きないことが、理解できるようになればと思っております。そうすれば、安心してクリスチャントゥディの記事を読み、取材を受け、寄稿し、広告を掲載できるはずです。

この問題は、キリスト教界全体でよく知られている問題ではありません。知らない人もいます。ですが、キリスト教界の一部では深刻で重大な問題であるとも捉えられています。この記事の趣旨は、まず、この問題をとりあえずは知っていただくこと。そして、知ることで、質問の生じた方がいらっしゃれば、当事者の編集長である僕に直接質問して、回答を得ることのできる場を用意することです。

実際はもっと複雑で、ここで述べられていない詳細は多々ありますが、できるだけ簡潔に概要を書くと、上記のようになります。

さて、差別扇動者の動機についてですが、「本人が自己申告する動機」と「僕の観察した結果予想した動機」は大きく違います。

まず本人が自己申告する本人の動機は、「世界のキリスト教界が、キリスト教を偽装した異端カルトに騙されて、侵食されて利用されようとしている。その世界的異端カルトの日本での出先機関が、クリスチャントゥディである。世界のキリスト教はまんまと騙されてしまったが、日本では唯一自分だけが、その偽装を見破った。だから、自分はクリスチャントゥディが偽物のキリスト教であり、本当は異端カルトであることを宣伝して、日本のキリスト教が騙されないように、クリスチャントゥディと関係を持たないように警告を発している」というものです。実際は違うと僕は思います。事実、クリスチャントゥディは単にキリスト教を信じてる人がやってる新聞社だからです。

では、差別扇動者の実際の動機が何なのか。心の中は人には見えませんから、正確には分かりません。しかし、少なくとも以下の背景事情を考慮することはできると思います。

キリスト教、特にプロテstantの歴史として、単純化しますが、誕生の後しばらくたってから、進歩的な自由主義という主義が出てきました。そして、自由主義を採用した教派が主流派というものを構成しました。教会が複数集まつたものを教団と呼びます。教団が複数加盟する組織を連絡組織と呼びます。主流派の教団が複数あつまって 1948 年「日本キリスト教協議会」という連絡組織を作りました。主流派のキリスト教の新聞として、日本には 1946 年「キリスト新聞」という新聞ができました。新聞を作ったのは主流派の有名人たちでした。だから、主流派の人たちは、誰がどうやって作ったのか良く知っていました。新聞社を創業するのは、事務所、印刷所、販売経路に莫大な投資が必要で、当時はとても大変なことでしたので、お金を集めるのも大変でした。

主流派の信条に同意できない人たちが、福音派という保守的なグループを形成しました。福音派の教団が複数集まつて、1968 年「日本福音同盟」という連絡組織を作りました。福音派のキリスト教の新聞として、1967 年日本には「クリスチャン新聞」という新聞ができました。福音派の重要な人たちがお金をいっぱいかけて、作りました。福音派の人たちはみんな誰がどのように作ったのか、知っていました。そして、主流派のキリスト新聞とは、読者層も、論調も異なっており、重複せず、競合せず、きれいに棲み分けができていました。

クリスチャントゥディは福音派の信条を掲げ、福音派の人たちを読者層に想定しながら、2002年に最初のウェブサイトが立ち上りました。ウェブサイトを立ち上げた人は、高柳泉という人です。高柳さんは、日本バイブルバプテストフェローシップという保守的な教団の教会の教員の夫婦の元に生まれ育ち、自身も福音派の信仰を持つようになつたキリスト教徒の若者でした。彼はカリフォルニア大学ロサンゼルス校に留学し、留学中にアメリカ西海岸でシリコンバレーを中心に、Yahoo や Google など、学生がインターネットでウェブサイトを作つて起業して大成功している現象が次々に起きてゐるまさにその現場に居合わせました。また、高柳さんと一緒に聖書を学んでいた友人の福音派のキリスト教徒の学生たちが、クリスチャンポストという福音派のインターネットの英字新聞のウェブサイトを作つたことや、その集まりで聖書を教えていた韓国人宣教師の出身教団の若い信徒たちが、韓国で、クリスチャントゥディという韓国語の福音派の新聞のウェブサイトを作つたことを知りました。

高柳氏は、最初は牧師として伝道活動をしようと思ひますが、途中でやはり、自分もインターネットの新聞のウェブサイトを日本語で作つてみたいと思うようになり、知人たちの手を借りて、作りました。それが 2002 年、日本のクリスチャントゥディのはじまりです。インターネットのウェブサイト、ホームページを一個作ることですので、紙を印刷することも、販売網を作り上げることも、全く必要ありません。知識とパソコンが最低 1 台があればできることです。昔の新聞社創業にかかったような大変さはまったくありません。お金も、有名人や有力者との人脈も、一切ない学生ですら、できてしまうことでした。なので、高柳氏は、事前に福音派の有力者に頼る必要も、報告する必要も、許可を得る必要も、感じませんでした。個人のウェブサイトを一つ作るのに、誰の許可を取る必要もなく、自由に誰でもできるように、手軽な感覚で、福音派のキリスト教のインターネット新聞、クリスチャントゥディのウェブサイトを作つてしまつたのでした。

ですが、ここに問題が起きます。すでに日本には福音派のキリスト教徒を対象読者とした「クリスチャン新聞」が存在していたのです。読者層、取材源候補、廣告主候補が被つてしまいますが、被ることがまずいことなのか大丈夫なことなのか、高柳氏は考えてませんでした。学生あがりの世間知らずの青二才の、ビジネスの世界にも、福音派の暗黙のルールや権威構造にも歴史にも無知な高柳氏には、思いつきもしないことでした。このような大きなことを仕出かす前には、何も企画する前の段階で、日本福音同盟の偉い牧師先生全員と、特にすでにその領域で、新聞廣告を売り、新聞の購読料を収入としている、クリスチャン新聞を運営しているいのちのことば社に、アイディアを伝える必要があったのです。そして、事業領域が被らず、相手の収益構造に害を与えず、日本の福音派の偉い人たちの顔とメンツを立てて、賛同者としてずらりと名前を連ねていただき、根回しに根回しを重ね、万全の準備をしてから、ようやくウェブサイトを一つ作ることが必要とされていたのです。それは明文化され、文書として書かれルールではありませんでした。暗黙のしきたりであり、空気のように察して誰に言われなくとも自分から進んで当然守るべき掟でした。

高柳氏はその辺に無知でした。アメリカ留学から帰ったばかりのアメリカかぶれの日本文化もろくに尊重できない生意気な青年でした。何か事を起こす前に、事前に偉い人にお伺いを立てないことは生意気なことでした。少なくとも、ウェブサイトを「勝手に」「誰の許しも得ることなく」立ち上げ、そしてその2年後には、ウェブサイトに掲載された記事をなんと印刷してしまったのです。知り合いの若いクリスチャンから紹介してもらった、韓国の安い印刷業者に依頼して格安で印刷し、日本に紙媒体となったクリスチャントゥディをとりよせ、日本全国の教会に何の前触れもなく、配るという暴挙に出てしまいました。高柳氏本人には、暴挙であるとの自覚は全くなく、単に脳天気な善意でやっただけでしたが、福音派の偉い人たちやいのちのことば社にとっては、「勝手に」誰かがやった暴挙に見えてもおかしくないことでした。しかも、これをやらかしたのがどこの誰だか分かりません。一応、日本バイブルバプテストフェローシップの教会員の信徒の子供らしいことは分かるのですが、それ以外が全く不明です。彼に福音派の有力者の人脈は一人としていません。いのちのことば社とももちろん繋がりがありません。

インターネットを使わない人は当時沢山いました。その人達が使う主な媒体は、紙媒体でした。クリスチャントゥディはインターネットを使う非常に先進的なクリスチャンのごく少数の一部でのみ知られているウェブサイトの一つでしたが、紙媒体をいきなり、全国の教会に、無料で、勝手に、配って、メジャーデビューをしてしまいました。福音派の偉い人たち全員のメンツを潰していくのちのことば社に喧嘩を売るという、大変なことをしてかしたのですが、高柳氏本人には大変なことという意識は全くありませんでした。春気にお祝いをしていました。高柳氏は、事後、完全にもう意味がないのに、いのちのことば社を訪問し、クリスチャントゥディをはじめました。よろしくお願ひしますと、能天気に挨拶回りに行きました。完全に自分が喧嘩を売っていることに全く気づかず、単に善意で挨拶をしに行きました。当然、こっぴどく拒絶され、いのちのことば社を後にしましたが、高柳氏は、なぜあんなに冷たくあしらうのだろうかと、不思議に思ったようです。何も分かっていない若造でした。両者の認識には深い断絶があり、コミュニケーションの不在がありました、両者とも、それに気づいていませんでした。

僕はその当時、高柳氏がいた東京ソフィア教会で、聖書の学びをしていたノンクリスチャンの大学生でした。何か新聞のように見える紙を持って、教会の人たちが嬉しそうに、なにやら記念撮影をしていたのを見ていきました。自分にも一つそれをくれたので、なんだろうと思って、特に関心も持たずに、大学の寮に持ち帰り、たいして読みもせずに寮の居間に放置してました。それが、クリスチャントゥディの紙媒体1号でした。もったいないことに、寮の友人がしばらく後に捨ててしまったようです。

この暴挙は、福音派を含め、日本全国の教会である種の騒ぎになっていたようです。どの程度の騒ぎだったのかは当時から現在も人脈の殆どない僕には分かりません。今週にかけて、日本全国の教会にばらまかれたクリスチャントゥディって誰がやってるの？どういう団体がバックにいるの？人々は互いに聞いてみますが、誰も知りません。高柳泉がやってるというのはわかりますが、彼は一信徒で、無名、無力、無人脈です。新聞を印刷媒体で作るというのは、高柳氏は周囲の協力を得てできたのですが、実際に高柳氏が費やしたコストと、人々が紙媒体の出来栄えを見て想定したコストの間に大きな隔たりがあり、人々は実際よりも多大な投資が必要であったと考えました。それは福音派において、作り出されたクリスチャン新聞の創刊における多大なコストの記憶がそうさせたのでしょう。バックに相当な資金力を持つ団体があるに違いないと、妄想をたくましくする人までいました。実際は前回の新聞設立から何十年も時間が経過しており、記事作成から印刷終了までパソコンを有効に活用して非常に低コストでできるほどに技術革新が進んでいたのです。しかし、技術革新の事情には特に疎い、高齢のクリスチヤンが多数派を占めるキリスト教界には、そのような想定ができるはずもありません。

「こんなでかい事業を一青年信徒にできるはずがない。そんなのは偽装で、どうせでかい汚いカネでやったに違いない」と、下衆の勘織りがはじまりました。実際は汚くもなんともない単なる青年がやらかしたこの現象に、汚いカネと事情を想定し、難癖をつけて否定するための調査を始めた人がいました。勝手な無料のクリスチャントゥディの創業によって、読者シェアも、広告主も、購読収入も、いきなり脅かされることになった、クリスチャン新聞の当時編集長だった某氏です。日本にはクリスチャントゥディに関する情報が全く無いので、おそらく韓国人の知り合いに聞いたのでしょう。韓国にも同じ名前のインターネットの福音派のキリスト教新聞がありました。韓国クリスチャントゥディでした。そして、韓国クリスチャントゥディが創業したのと同じ時期に、進歩的な論調のキリスト教を取り扱う **News N Joy** という名前のウェブサイトができていました。**News N Joy** によると、韓国クリスチャントゥディの創業者は昔統一協会に関わったことがあり、現在はキリスト教の牧師をしている人物であるということが分かりました。また、全く無知な高柳氏が借りていた日本のクリスチャントゥディの事務所の住所は、渋谷区神泉町の松濤ビルという名前の建物でした。近くの渋谷区松濤という地区は、知る人ぞ知る統一協会の日本の本部事務所がありました。「松濤」というキーワードを使って、何者かが、クリスチャントゥディの事務所は統一協会の事務所と住所が同じであるとのデマをばらまきました。統一協会の事務所の場所など全く知らなかった高柳氏はこれはまずいと思いましたが、どうしようもありません。

もちろん、住所が一致しないことはちゃんと見たら誰でも分かるのですが、下衆の勘織りに基づいた風評はすでに回覧されはじめてしまいました。次々に新しい風評が開発され、回覧されました。例えばクリスチャントゥディの創業資金は統一協会から出たものであるとのデマなどです。差別扇動者の一人は統一協会の被害者が統一協会から靈感商法で奪われた金銭を賠償請

求して取り戻す裁判にも詳しい人物でした。そこで、決定的な事件が起きました。日本福音同盟に加盟している全ての教団に、以下の内容の FAX が届いたのです。

日本福音同盟 Japan Evangelical Association

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内

TEL 03-3295-1765 FAX 03-3295-1933 E-mail office@jeanet.org

2004 年 6 月 17 日

JEA 加盟団体各位

JEA 協力団体各位

主の御名を賛美いたします。

最近、いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥデイ』に関して、さまざまな問い合わせが皆さまからございました。数ヶ月間、調査結果を待っておりましたが、一昨日、韓国の新聞社「韓国基督公報」を通じて次の内容の事が明らかになりました。

記

韓国クリスチャントゥデイ新聞の常任理事、張在炯牧師は、統一協会の核心メンバーであることが判明。このことについての記事が韓国のオンライン新聞である News N Joy に出ている。基督公報の取材によれば、海外ネットワークとして日本と中国に力を入れているらしい。張在炯牧師は現在合同福音教団の総会長ですが、韓国基督教総連合会から異端として調査中である。

(クリスチャン新聞提供)

上記の調査報告を深刻に受けとめ、JEA は今後、『クリスチャントゥデイ』の取材を一切受けないことといたしました。その事を関係者の皆様にご報告いたします。

主にありて

理事長 小川国光

総主事 具志堅聖

張在亨牧師は統一協会に関わったことはありましたが、入信すらしていない人で、元々キリスト教徒の家庭で生まれ育ち、キリスト教の神学校を卒業し、牧師になった人物で、統一協会と関わったのも、統一協会の人たちにキリスト教の教理を伝えていただけでしたが、差別扇動者の一人は、2004 年の時点で、彼が統一協会の幹部であると断定する書き方の情報を、日本福音

同盟に伝えていたのでした。それを事実検証せず、鵜呑みにして、誤解してしまった日本福音同盟は、大騒ぎして、上記の FAX を日本全国にばらまいてしまったのでした。統一協会はキリスト教ではない異端であると考えられていますので、異端が作った新聞が、キリスト教を名乗って、日本全国の教会にばらまかれたのだから、きっと悪い意図があるに違いないと思う人もいたはずです。この事実でない情報は、差別扇動者の思い込みによるミスによるものか、意図的なものは、定かではありませんが、結果的にクリスチャントゥデイに大きな風評被害をもたらしました。

その後、どうもクリスチャントゥデイと統一協会は関係ないという事実が明らかになってきました。しかし、そのままクリスチャントゥデイには落ち度がないことになってしまふと、統一協会という冤罪を被せた責任が生じてしまいます。新しい風評が開発されました。それは、確かにクリスチャントゥデイは統一協会ではないが、韓国クリスチャントゥデイを創業した張在亨という牧師を、統一協会の教祖みたいに崇拜する異端教理を信じている人間が運営している新聞だという珍説でした。しかし、その珍説にでもすがらないと冤罪を被せた責任が待っています。背に腹は代えられません。「とにかく、異端なのだから、偽物のキリスト教なのだから、キリスト教じゃないのだから、クリスチャントゥデイを読むな、取材を受けるな、記事を寄稿するな、広告を掲載するな、創刊祝賀挨拶を取り下げる、すでに書いた記事を取り下げる」と、営業妨害のオンパレードでした。現在もそれは続いている。

ただ、そのような事実無根の誹謗中傷は、プロテstantoのごく一部の偉い人たちを中心にして知られているにすぎず、大部分の信徒や教会では、知られていないものでした。なので、読者の中には、そんな風評を一回も耳にすることなく、創業から現在まで、クリスチャントゥデイを愛読されている方々も多くいらっしゃいます。ただ、偉い人たちが騒ぐので、みんな風評を真に受けてしまったんだと、クリスチャントゥデイの人たちも、風評被害を過大評価してしまった面はあります。しかし、過小評価もできません。ニュース価値のある記事は、だいたい大きな団体に取材することで書くことができるからです。しかし、大きな団体の意思決定者の偉い人々は、差別扇動者の風評回覧によって、関係謝絶状態になってしまいました。ニュース価値のある出来事を取材しにくくなつたクリスチャントゥデイは、それまでも報道していた海外のキリスト教の報道に力を入れることになり、その面で注目されていきました。また、差別扇動者の影響が及ぶのは、実は東京を中心とした関東圏であることも分かってきました。関西や沖縄などでは、風評に惑わされず、クリスチャントゥデイをキリスト教の新聞社として扱い、読者として読み、取材も問題なく受け、広告も出向する人々がいました。そのような地方のキリスト教にも、クリスチャントゥデイは支えられています。

信条ではなく出自による教派差別

2022年5月26日木曜日

クリスチャントゥディ編集長 井手北斗

私はクリスチャントゥディ編集長の井手と申します。自己紹介として、証しを書きましたので、よろしかったらご一読ください。

また、クリスチャントゥディを通して私が何をしようとしているのか、クリスチャントゥディの目的は何か、キリスト教メディアとして、どのような方針で報道活動をしようとしているのか、お知りになりたい方は、編集長就任の挨拶にそのことを書きました。

編集長に就任してからもう1年半ほど経過しますが、その間、報道の指揮を取り、記事の編集をする以外に、自分でもいくつか記事を書きました。記事の対象の選び方、報じ方、論説の内容などに、私の信仰内容が反映されるような記事を書こうと意識したつもりです。クリスチャントゥディという「木」を判断する際の「実り」の一つとして、判断材料の一つとしていただければと思います。

私のした仕事の中で特に私の信仰をより強く反映するものとして紹介したいのですが、日本宣教の推進に寄与するために私は「教会と駅」という宣教地図のプロジェクトを始めました。

このプロジェクトは海外の福音派でも話題になり、Global Community of Mission Information Workers から機関誌への寄稿を依頼されたり、オックスフォード宣教研究所から講演を依頼されたりしました。

仕事内容には、私の信仰が間接的に反映されてはいますが、より直接的に反映するものもあります。日々の生活を通して、信仰的なことを考えたことを私は note.com に書いてきました。個人的な信仰的思索の記録をこちらに残してありますので、また別の判断材料として、検証していただければと思います：https://note.com/hokuto_ide

上記に上げたように公開した記事や信仰的な表明などを皆さんのが精査した結果、確かな論拠をもって、私個人や、私が編集長を務めるクリスチャントゥディは異端である、カルトであるとの確固たる判断をくだされるのであれば、反論はしますが、そのご意見は尊重します。ただ、これらをの実りを見て、異端でもカルトでもないと判断されたら、これを「キリスト教に偽装した嘘」などとは思わず、額面通り受け取っていただければ幸いです。こういう言い方をしないといけないくらい、十数年にも渡って、クリスチャントゥディにかかわる人々は、イエス・キリストを信じるという信仰告白を嘘呼ばわりされて来たのです。変な言い方かもしれないが、ご了承下さい。

クリスチャントゥディについて主張されていることを簡単にまとめると、「本当は異端カルトなのに、異端カルトじゃないふりをして正体を隠して、外見上、表面上は、一般のキリスト教の教会を装っている、裏では秘密教理として異端教理を口伝で、印刷しないで、証拠を残さないように教えている。我々はそれを知っているが、お前らは知らない。お前らは騙されてるだけだ。あいつらは嘘つきなのだ。我々だけがその嘘を見抜いた」そういう主張です。

クリスチャントゥディのスタッフや、あいのひかり教団の人たちを含め、当事者はみんな違うと言う。当事者はみな「自分たちはイエス・キリストを信じる」と信仰告白している。しかし、「いや、お前らは嘘をついている。お前らはイエス・キリストを信じていないのだ」と言う。それだけにとどまらず、「あそこの教会のふりをした奴らは、イエス・キリストを信じると口では言うが、本当は心では信じてない異端だから、キリスト教ではないので、交流するな。徹底的に仲間はずれにせよ。俺のこの主張に反対や疑惑を持つやつは皆クリスチャントゥディに騙されているのだ」と、言う。

そうやって、クリスチャントゥディに関わる人達や、あいのひかり教団の人たちが、いくら「イエス・キリストを信じる」と信仰告白をしても、「クリスチャンではない。キリスト教徒ではない。キリスト教徒のふりをして、正体を隠した異端だ」と呼び、村八分にする。それ以外の教派や教団との関係を持てないようにする。キリスト教の団体に加盟できないようにし、キリスト教の行事に参加できないようにし、キリスト教の出版社で本を出せないようにし、共に礼拝に参加できないようにし、友人関係を作れないようにし、結婚できないようにする。会うことも、話すことも、単に知ることすら、忌避させるように仕向ける。

何かと似ていませんか？汚い出自という言われない理不尽な物語により、交友、婚姻、仕事においいて差別する。そうです。部落差別です。信条によらない出自に基づいた新しい教派差別制度をキリスト教の中でせっせと作って既成事実化しようとしてるんです。クリスチャントゥディはそういうのを約20年間、福音派村という村でやられ続けてきました。福音派の偉い人々は誰も差別扇動者を止めようとしませんでした。

もちろん信仰告白を額面通りに受け取ってくださった方々もいらっしゃいました。峯野先生は、クリスチャントゥディの会長になってくださいました。堀内先生もクリスチャントゥディに積極的に協力されました。宮村先生は編集長になってくださいました。福音派で有名な先生方です。しかし、そうやってクリスチャントゥディに関与することで、少なからず攻撃されてました。ただ、差別扇動者を直接的に止めるっていうのは、誰もできなかったことです。逆に、差別扇動者に同調し、村八分の呼びかけを広める人々は多くいました。

そういううちに、福音派の外から、2018年あたりに差別扇動者に明確に反することを言う人たちが出てきました。溝田さんとか白田先生とかです。彼らは福音派ではありません。主流派です。最初は僕もなんでだろうと不思議に思ってました。今では神様が呼んでくださったと思ってます。「福音派の中で自浄できないから、外から人を起こしてでも福音派に喝を入れてるのかな」と。僕は自分のことを福音派と思っています。一番距離的に近い身内のはずの

福音派から、最も差別され攻撃されていますが、彼らはやはりいちばん近い身内だと思っています。なので、非常に情けない話です。

僕の証しに出てくるN先生に会いに行った時、クリスチャントゥディと福音派のことをひとしきり話したら、自分の話をしてくれました。当時N先生をリンチしたのはT大学の神学生ですし、それをもみ消してなかったことにしたのはT大学の教授会です。福音派の大スキャンダルです。そして、福音派の教会全部にこれから卒業するN先生を決して牧師として雇うなという手紙を送ったのも、T大学です。

クリスチャントゥディに対して現在起きている福音派の差別と同様の差別を何十年も前に、N先生は経験していました。なぜか、そのN先生の教え子が僕だったわけです。神学校を卒業しても絶対牧師になれない未来を奪われたN先生に留学を勧めたのが宮村先生です。そして、アメリカの神学校の図書室で、偶然N先生は、古屋安雄牧師と出会います。N先生の事情を聞いた古屋先生が、某大学の教会の副牧師として、N先生を呼ぶことにしました。

日本で決して牧師になれないはずだったN先生が牧師になったのはそういう奇跡的なことがあったからです。古屋先生の本を見ると分かることだと思いますが、古屋先生自身は、福音派ではありません。主流派の方です。しかし、主流派の中では、福音派に最も理解を示してくださる方の1人だったと思います。そのような古屋先生をN先生に出会わせてくださったのも、神様であると僕は信じます。N先生は、二度と福音派はこりごりだと言ってました。僕はT大学はN先生に謝罪すべきだと思います。N先生と話したときも、これは公にすべきですと、強く話したのですが、N先生はもういいから自分は関わらないと言ってました。本当は誰かが記事に書いて報道すべきだとも思いましたが、まだその時は僕は編集長でもなかったですし。1人の大学院生として、学部時代の恩師に会った時の話なのでこれくらいに留めましょう。

何が言いたいかというと、福音派の村八分は、クリスチャントゥディにはじまったことじゃなくて、前から似たようなことをしていたということです。しかも、その被害者が某キリスト教系の大学の教授兼牧師だったN先生と、その教え子である僕だった。しかも、N先生は宮村先生の教え子です。宮村先生はクリスチャントゥディの編集長になった後、一部の福音派の人々から攻撃されるようになり、著作集も途中からあまり売れなくなりました。人脈を切るようなまねもされ、自分の教え子たちからも罵られ散々な目にあいました。

なんか、3代にわたってこういうことが起きてるんです。宮村、N先生、井手。こういう系譜の末席になぜか自分がいるわけで、その意味を考えるに、「細縄の鞭になれ」ということかなと、勝手に自己理解をします。N先生は福音派から「去る」という選択をしましたが、僕は去ろうとは思いません。どう考えても僕は福音派だし、それ以外の自分のアイデンティティーがないので。なので、福音派全部を敵にまわしても、自分は福音派だと主張し続けると思います。これは、「人間のグループとしての福音派」と、「信条としての福音派」の違いです。信条として、僕は福音派なんです。

早い話、これです：<https://www.christiantoday.co.jp/statement.htm>（クリスチャントゥディの信仰告白）

信仰告白

1. 私たちは、新旧約聖書が 66 卷から成り、靈感された神の言葉であり、原典において何ら誤りがなく、信仰と生活の唯一の規範であり、正典であることを信じる。
2. 私たちは、神が唯一全能であり、父と子と聖霊の三位格をもつ三位一体であり、永遠に存在される方であることを信じる。
3. 私たちは、アダムが神のかたちに創造され、サタンの誘惑により罪の中に墮落し、その罪により全人類に罪が入ったことを信じる。
4. 私たちは、主イエス・キリストが眞の神にして聖霊によって処女マリヤからお生まれになつた眞の人であること、罪のないこと、奇跡の御業を行われたこと、私たちの罪のために身代わりとなって十字架上で死なれ、肉体をもって復活されたこと、天にのぼり大祭司として御父の右に座しておられること、彼ご自身が栄光のうちに再び来されることを信じる。
5. 私たちは、救いとは、罪の許し、キリストの義の転嫁、行為によらずただ信仰により得られる永遠のいのちであることを信じる。
6. 私たちは、信じた者と信じなかつた者が復活し、信じた者は永遠のいのちと喜びに至り、信じなかつた者は永遠の刑罰に至ることを信じる。
7. 私たちは、教会すなわちキリストの体が、救われて生まれ変わつた者、聖霊によって新生した者によって構成され、これらの人々のためにイエス・キリストが天において私たちをとりなし、再び地上に来られることを信じる。
8. 私たちは、イエス・キリストの再臨は切迫したものであり、イエス・キリストご自身が目に見えるかたちで来られることを信じる。
9. 私たちは、罪の中に墮落した人間が聖霊による新生を通してのみ救われることを信じる。
10. 私たちは、イエス・キリストが全世界に出て行って全ての国民に福音を宣べ伝え、信じた者たちにバプテスマを施すように教会にお命じになったことを信じる。

「人間のグループとしての福音派」もこれと基本的には同じ信仰告白を持ってるわけですが、クリスチャントゥディが同じ信仰告白をすると、認めたくない。仲間じゃなくて、ヨソモノだと規定したい。けど、信条が同じだから、ヨソモノだと呼びにくい。そういえば彼らは、海外に関係している。アメリカだったり、韓国だったり。出自です。信条は同じだけど出自がダメだと言えば良い。汚い出自という物語を作つて差別を正当化すればよいじゃないかと。

大韓イエス教長老会合同福音教団は韓国の福音派の教団です。韓国の福音派の教団である合同福音が宣教師を日本に派遣しました。韓国から日本に宣教師が派遣される方式でよくあるのが、日本にすでにある教会に混ざつてその教会の働きを手伝つて協力する形で、派遣するやり方です。また、新規に教会開拓をするにしても、教派的に近い日本の教会や教団と連絡を取り合つて協力しながらやる方式が多いと思います。

合同福音の人は日本の教会に知り合いがいませんでした。知り合いの知り合いくらいはいたでしょうが、そういうつてをたどることをしないで、日本にただ宣教師を送り、信徒ゼロの状態から、路傍伝道をしてノンクリスチャンの人に福音を宣べ伝え、新規教会開拓をしました。それで教会に来た人々は全員ノンクリスチャンです。

ノンクリスチャンの人たちが日本の教会のことを全く知らない韓国人宣教師から、聖書のこと、キリスト教のことを学び、クリスチャンになりました。例外的にクリスチャンホームで育つた人も3人くらいいますが、それ以外は全員ノンクリスチャンの家庭を背景を持つ人達でした。僕もその1人です。なので、信条的には、福音派ではあるのですが、人脈的には全く断絶された陸の孤島的な教会でした。それが東京ソフィア教会などの、合同福音系の開拓教会です。

なので、日本の福音派の人たちが、東京ソフィア教会のような教会を見ると、たしかに信条的には同じなのですが、違う点が多いことがありました。今では日本の他の教会のことを学び、用語も日本のものに改定し、あいのひかり教団の教会は以前と比べるとずいぶん日本の教会らしくなったと僕は感じています。

日本の教会は、戦後直後に大量に信徒になった人が1世の世代を構成し、その後ノンクリスチャンを路傍伝道、友人伝道、家族伝道して、クリスチャンになるように教会に導く動きが激減し、現在の世代はほとんど皆2世、3世のクリスチャンホーム育ちで、日本のキリスト教文化を常識として育っています。合同福音系は、ほぼ100%ノンクリスチャン家庭育ちの1世で、韓国的なキリスト教文化しか知らないで育っています。

なので、例えば教会用語にしても、合同福音の開拓教会では、当時用語が韓国の教会用語を日本語に直訳したものが多く用いられており、日本の教会用語とは異なる言い回しや異なる用語を使っていた場合もありました。宣教師も日本人信徒も、日本の教会文化を知る人は誰も居ないので、それで誰も不思議に思わず、そのままになっていました。

合同福音の宣教師が初めて来日したのが1997年です。その後教会開拓をほそぼそとやってきました。合同福音はアメリカにも宣教師を派遣して、教会開拓をしていました。学生伝道もしていて、大学の近くで路傍伝道して、興味関心のある学生と共に聖書研究をする宣教師もいました。高柳泉さんは、日本バイブルバプテストフェローシップの教会員の家庭で育ったクリスチヤンでしたが、米国カリフォルニア大学に留学していた時、近くで路傍伝道していた合同福音の宣教師に出会い、聖書を学びたいので、聖書研究に参加していました。場所が重要なのですが、そこはシリコンバレーです。

当時のシリコンバレーは今もですが、学生が在学中に立ち上げたウェブサイトが元となって Yahoo や Google をはじめとするインターネット系のベンチャー企業、（今風に言うとスタートアップ企業）が雨後の筈のように大量にできていました。なにせ会社をつくるのに事務所も資本金も何もいらないわけですから、アイディアとパソコンの技術さえあればいくらでも新規性の高い事業を始める事のできる情報産業の革命が起きていた震源地だったわけです。

高柳さんのいたカリフォルニア大学でも同じでした。高柳さんと一緒に聖書研究をしていた学生たちも何かネット起業してみようという流れになりました。合同福音の宣教師たちは、韓国では張在亨牧師をはじめとして、合同福音の信徒たちが韓国クリスチャントゥディをネット起業したことを知っていますから、キリスト教のインターネット新聞について彼らにも話したことがあったと思います。それじゃあ、自分たちもアメリカで英語のキリスト教のインターネット新聞を作ってやってみようじゃないかと。学生起業をしてできたのが、米クリスチャンポストです。

ウェブサイト一つ作るのはそんなに大変なことじゃないですかね。知識さえあれば学生にも充分できることです。そのようにしてクリスチャンポストができる様子を高柳さんは隣で一緒に見て体験したわけです。自然に日本のキリスト教界にも、同じようなインターネットで読めるキリスト教の新聞があれば良いだろうなと思ったそうです。それで、留学が終わり、日本に帰ってきてクリスチャントゥディのウェブサイトを作って、創業したというわけです。

合同福音の開拓教会は、1997年から2002年まで日本の他の教会とは特に交流もなく、ほそぼぞと宣教師が路傍伝道してるだけの教会だったわけですから、合同福音の存在が日本の福音派に知られていないのは当然だったわけです。日々の生活と路傍伝道と日本語の勉強などに集中するのに精一杯で、他の教会と交わりを持つ時間や余裕がなかったというのもあるかもしれません。合同福音の存在は全く福音派には知られていなかった。クリスチャントゥディのウェブサイトを作る計画を高柳さんは特に別の教会の人相談したり、支援してもらおうともしてなかった。自分たちでできることの範囲内だと思っていたのでしょう。

韓国クリスチャントゥディのウェブサイトを立ち上げたインターネットに詳しい合同福音の信徒たちがある程度最初の作業を助けてくれたら、あとは自分でなんとかできる。そういう始まりの仕方だったわけです。合同福音が日本で行ってきた宣教、教会開拓の働き、高柳さんがクリスチャントゥディを日本で始めるに至った経緯。こういうのを全く知らない状態で、日本の福音派の教会はクリスチャントゥディのウェブサイトが「突然」できたことを知ります。

「突然」というのは、根回しがないという意味でもありますし、超教派の設立準備委員会が存在しないという意味でもありますし、日本福音同盟やいのちのことば社の許可がないという意味もあります。

「クリスチャントゥディ」というウェブサイトができたが、誰に聞いてもそのことを知る人がいない」そういう状況が生じたわけです。日本のキリスト教界は狭いですから、人脈づたいに知ろうとすれば基本的に何でも知ることができます。にも関わらず、誰に聞いても誰も知らない。これはおかしい。そうなるのは理解できます。

しかし、考えてみるとおかしいですよね。ウェブサイト一つ作るのに誰かの許可を得る必要なんてないわけでしょう。高柳さんがいのちのことば社の指揮命令系統に属しているわけでもないわけで。

つまり、福音派は俺たちの縄張りだから、勝手なことは許さんという不文律があったということじゃないでしょうか。

しかし、そんな律法は聖書にはないですよね。

仮にも聖書のことばを信仰と生活の唯一の規範とする福音派なわけですから、「福音派は俺たちの縄張りだから、勝手なことは許さん」とは口が裂けても言えない。だから、統一協会系だの、異端教理を秘密口伝で信じてるだの、カルトだの、クリスチャントゥディが存在してはいけない「正当な理由」を組み立てるしかなかったのではないでしょうか？



WORLD EVANGELICAL ALLIANCE

2011年12月13日

JEA理事長 安藤 能成様
JEA総主事 品川 謙一様
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル615

理事長安藤先生、総主事品川先生へ、

日本福音同盟の皆様、ご挨拶申し上げます。私はCRASH Japanと日本の諸教会が災害支援のために尽力してくださっていることを以前から存じておりました。どうか私達があなたがたのために祈りを継続していることをお知りください。

私がこの手紙を書くことになった主な理由はダビデ張在亨博士に関して日本に流言があるからです。博士について私は長年に渡って知っています。WEAと張博士との関係について知恵と理解を提供したいと私は願っています。彼の教会が統一協会とつながっているという流言についてですが、その疑惑は全く事実ではありません。むしろ張博士は優れたキリスト教指導者であり、WEAの北米理事会のメンバーとして、またひとりの友人としてWEAに欠かすことのできない人物です。

ソウルで2014年に開催されるWEAの総会を準備する中で、張博士は韓国キリスト教総連合会(CCK)の世界宣教委員会委員長として重要な役割を果たしています。ですので、総会が成功するためには日本のキリスト教指導者の皆様が、彼について、また彼の働きについてより良く理解していただく必要があります。CCKから張博士が潔白と証明する公文が送付されたと聞きました。故に私はこの件に関して誤解のないようにしていただきたいと望んでいます。

ご理解いただき、解決のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

深い感謝とともに

ジェフ・タニクリフ牧師/博士
世界福音同盟CEO・総主事

[印刷](#)

2018年12月19日16時39分

首謀者は根田氏か、ニュースNジョイか　ＪＥＡ報告書に見る本紙への陰湿な妨害

クリスチャン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（ＪＥＡ）に提供した事件。根田氏の主な情報元となった韓国のメディア「ニュースNジョイ」がこのほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治団体「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになり、現地では保守派のキリスト教団体を中心に同メディアを糾弾する動きが急速に強まっている。

本紙はこれまでもＪＥＡに対し、本紙に関する虚偽の情報を基にした決議について謝罪と訂正を求めてきたが、ＪＥＡは18日、2004年に発表した本紙への立場を変更しないことを確認するとの報告書を、加盟団体に向けて発表した。根田氏がＪＥＡに提供した虚偽の情報は、本紙が統一協会と関係があるとする内容となっており、本紙は著しく名譽を毀損された。

本紙が2013年に勝訴した民事訴訟で東京地裁は、本紙が統一協会や異端の教義を信奉しているなどとする表現について、真実ではないと判断し、被告に対して名譽棄損表現の削除と95万円の賠償金などの支払いを命じた。このような明確な判決にもかかわらず根田氏は、判決後も「引き分け」などと主張してきたほか、日本基督教団の総会議長名義で1月に発表された本紙などに関する声明については、根田氏による講演（2016年9月）がそのきっかけであり、声明発表までの動きにも根田氏が深く関与していたことがすでに明らかになっている。

本紙に対する陰湿な妨害を主導するのが、根田氏なのか、それともニュースNジョイなのか。本紙は首謀者に対し、必要に応じて法的措置を含む適切な対応を行っていく。

■ 関連記事：ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」　韓国メディアが報道

根田祥一氏の私的な怨恨によって右往左往する日本福音同盟

カルトウォッチ掲載

2020年7月19日

クリスチャントゥデイ編集長 井手北斗

<https://cultwatch.jp/konda-shoichi-rejected-by-wea/>

日本福音同盟の広報を検証した結果、掲載された植木英次氏の文章にはある重要な情報が書かれていませんでした。2019年世界福音同盟の総会で植木英次氏が世界福音同盟の国際理事として再選されなかったという事実。植木氏不再選の経緯と理由。植木氏はこれらについて全く触れていません。なぜ言及できなかつたのでしょうか。

これ以外にも不可解なこととして植木氏の書いた1300文字のうち本来大部分を占めてもおかしくない2019年WEA総会の内容が130文字しかない点が挙げられます。なぜ詳報できなかつたのでしょうか。

2019年WEA総会に関する植木氏の報告を見てみましょう。

WEA国際理事会において、私は張氏に関して日本で起きていることを証言し、国際理事たちに理解を深めてもらいました。このようにWEA内の浄化が進んだ結果、ジャカルタで開催された2019年WEA総会では、張氏関係者の出席はありましたが、影をひそめた存在となりました。

植木氏はあたかもオリベット・アッセンブリー関係者が排除されつつあるかのように読み取れる表現で書いていますが、実際は逆に国際理事会で植木氏が不適切なロビー活動をしたと国際理事たちに理解されました。WEAの国際理事たちは福音主義のキリスト者である張氏をあたかも正統を装った異端であるかのように仕立て上げる根田氏の言説を却下したのでした。その結果根田祥一氏の影響を受けた植木氏を排除することでWEA内の浄化が進んだのでした。また、植木氏の述べたこととは異なり実際は、2019総会でもオリベット・アッセンブリー関係者は他の参加団体に比べても多く招待されており、WEAとの関係も以前より深まっていたのでした。

The WEA leadership includes a senior leadership team consisting of the office of the Secretary General and department heads, a governance board, leaders in respective Regional and National Alliances and WEA networks, also known as commissions, initiatives and task forces.

[STAFF](#)
[INTERNATIONAL COUNCIL](#)

Council Members



REV. DR. GOODWILL SHANA
Chairman
Association of Evangelicals in Africa,
President



REV. DR. FRANK HINKELMANN
Vice-Chair
European Evangelical Alliance
President



KENNETH ARTZ
Treasurer
National Association of Evangelicals
(USA), Member



REV. DR. BRIAN WINSLADE
Secretary
Senior Pastor, Hamilton Central
Baptist Church in New Zealand



REV. DESMOND AUSTIN
Trinidad and Tobago Council of
Evangelical Churches
President



BASSEM FEKRY
General Secretary
Evangelical Fellowship of Egypt



MARTA GÁSPARI
ACIERA, Public Relations Coordinator



DR. DAVID GURETZKI
Evangelical Fellowship of Canada
Interim President



JOHN E. LANGLOIS
Lawyer & Member Emeritus of the
International Council



DR. MARIO LI-HING
Association of Evangelicals in Africa,
Chairman



BP. NOEL PANTOJA
Philippine Council of Evangelical
Churches, National Director



DR. SNEHAL PINTO
Ryan International Group of
Institutions in India Director



YAMINI RAVINDRAN
Lawyer & Religious Liberty Director
Asia Evangelical Alliance



PALMIRA SANTOS
National Director of Youth for Christ
Angola



BP. EFRAIM M. TENDERO
Secretary General / CEO

▲ 2019年総会後の WEA 国際理事一覧

「WEAの国際理事会で根田氏の主張を代弁したが退けられ、根田氏の目論見を代行したが失敗した。国際理事の一人としてオリベット・アッセンブリーの排除を目的とした活動をしたが、逆に自分が排除された」と正直に書くことができないのはなぜでしょうか。

張在亨牧師らオリベット・アッセンブリーの関係者は、根田氏を始めとする一部の人物らの主張するように「福音主義のキリスト教を偽装した異端」ではなく、WEAの国際理事らの理解するように「世界宣教のために貢献することを願う福音主義のキリスト者」だからです。

またこれを認めてしまうと根田氏の説を根底から覆すことになってしまい、根田氏が十数年に渡って投入してきた時間も努力も全く無意味であったどころか有害だったことになるからです。根田氏の説がもし正しいのなら WEA も当然受け入れるはずでしょう。しかしこれまでも、そして今回の 2019 年総会でも根田氏の説は却下されました。植木氏の文は大部分を 2019 年総会で実際に何が起きたかについての事実に触れることを避けつつこの矛盾を言い繕うものとなっています。

根田氏は本当に「福音主義のキリスト教を偽装した異端を告発している」のでしょうか。

それとも逆に「告発を偽装して福音主義のキリスト教に異端の冤罪を被せて破壊しようとしている」のでしょうか。

植木氏の排除を通して根田氏の説を却下した WEA 国際理事会の見解は後者でした。

根田氏は日本のキリスト教界で複数の団体の意思決定者に誤った情報を提供し、私的な怨恨に基づいて気に入らない相手を滅ぼそうとする意思決定をとらせてきました。火のないところに自ら放火して煙を立てるよう特定の人物や団体に問題があるかのように見せかけ、自分こそがその問題に気がついた第一人者であり、問題の解決方法を知っているというふりをして、ごく一部の日本福音同盟や日本基督教団の意思決定者にターゲットへの誤った認識と憎しみを植え付け、危機感を煽りました。意思決定者らは根田氏が右を向と言えば右に、左に行けと言えば左に行くかのように動いてきました。彼らは根田説を無検証に信じるように誘導され、事実かどうかよりも根田説に合致するかどうかで事の真偽を判定し、行動したのでした。歴代の JEA 総主事らや今回の植木氏もそのような根田氏の被害者だと言えます。

根田氏の手法はニホンキリストキヨウ村という村社会ではある程度効果を発揮したかもしれません。しかし村社会の外にある WEA においては不発に終わりました。村社会の外では通常「根田氏の言うことだから信じる」のではなくて「事実かどうかをはっきり検証して信じる」からです。

張在亨牧師やオリベット・アッセンブリー関係者らの信仰は、世界宣教のために協力する働きの中で各地の福音主義者らによって長年の検証を受けています。信仰に基づく本物のキリスト者なのか、偽装した偽物なのか。事実に基づく本当の告発なのか、怨恨に基づく偽装した偽の告発か。WEA など日本国外のキリスト者には判別することができなくて、根田氏とその説に賛同する一部の人にだけ判別することができるのでしょうか。

これを機会に考えてみてはいかがでしょうか。

[印刷](#)

2018年2月16日08時43分

根田祥一元編集長、本紙批判声明を背後で主導した疑い

日本基督教団の議長声明（1月27日付）が発表された。議長個人の名義で出された声明ではあるが、本紙に対して提起された疑惑について、発表前に本紙への問い合わせではなく、一方的に発表がなされた形だ。このような声明に対して多方面から疑問の声が上がっており、本件に関するさまざまな情報が本紙に寄せられている。

その1つが、クリスチャン新聞元編集長で現編集顧問の根田祥一氏が、同教団に対して情報提供しているというものだ。しかし、根田氏による情報は10年以上前のものとみられ、すでに数年の調査、法的な過程を通して、疑惑を裏付ける客観的な証拠とはなり得ないことが分かっている。それにもかかわらず、今回の声明はあたかも今年、新たな問題が見つかったかのような体裁で出された。

複数の情報提供者からは、根田氏が日本基督教団・統一原理問題全国連絡会に資料と称するものを持ち込み、複数の会合で発表したり、韓国の牧師とも連携したりして、声明発表の下準備をしたという話すら出ている。

既存のキリスト教界における権威（教権）に関わる少数に情報を持ち込むこと。密室会議を通して正規の意思決定プロセスを経ずに公文や声明を出させること。そして、声明などが出ると、客観的な第三者を装って自身の新聞でそれを報じること。これらは、2004年に日本福音同盟（JEA）を利用した事件から始まり、パターン化している手法に見える。

本紙社長の矢田喬大は、「信仰告白を通して明確に否定しているし、自分もそのようなことを信じていない。このように再三にわたって公に信仰告白として表明してきたにもかかわらず、その信仰告白を否定するのは、信教の自由を脅かす人権侵害かつ名誉毀損であり、会社からすれば教団の名を利用した他紙に対する言論の自由の侵害である」との立場を明らかにした。また、議長声明も事実に基づいたものではないと全面的に否認した。

議長の「個人声明」に関する情報の供給元が根田氏であるのか。根田氏が情報を歪曲または創作した事実はあるのか。調査報道する計画である。本紙は、根田氏が統一原理問題全国連絡会と共に競合紙となる本紙に対し、名誉毀損と営業妨害を行った事実が判明した場合、法的な責任を問うことも検討している。

[印刷](#)

2018年2月17日10時35分

根田祥一氏、本紙批判声明の情報提供者であることが明らかに

クリスチヤン新聞の根田祥一編集顧問が、本紙を批判する日本基督教団の議長声明に関与した疑いを報じてすぐ、同教団の統一原理問題全国連絡会（以下、連絡会）に関わる齋藤篤牧師（同教団深沢教会）は、フェイスブック上で「根田祥一氏が、これまでの取材や調査で得た情報や資料を提供してくださったのは事実」と認めた。事実であれば、根田氏の関与を連絡会自らが公に認め、事態が表面化したことになる。

一方、齋藤牧師は「背後で主導されたことは一度もありません」と主張。根田氏が情報提供したこと自体には問題がないとする認識を示した。しかし、ある弁護士の話によると、根田氏が本紙と競合関係にある新聞社の幹部である以上、連絡会が利害当事者の根田氏から情報提供を受けることは、「利益相反行為（Conflict of Interest）」となる可能性があるという。そのため、議長声明が根田氏の情報を基にして出されたのであれば、それは法理的に見て、声明が客観的、論理的な根拠を失ったことになる。

記事を受けての反応には、「新聞社の編集顧問なのに、なぜ情報を持ちながら自分の新聞で報じないのか」「報道によって事実の究明をすべきだ。それを、教団を通して何かをやろうとする意図が釈然としない。報道倫理に問題があるのではないか」などがあった。

根田氏は和光大学出身で、2014年にはキリスト教の新聞社の編集顧問として、日本共産党の機関紙「しんぶん赤旗」のインタビューに応じるなど、進歩的な人物だと知られている。このような人物が、他教団に競合紙を非難する情報を提供した動機が問われている。

教団が特定の言論との接触を禁止することは、深刻な言論の自由の侵害である。また、連絡会を用いて、一方の当事者からの情報をのみを用いて、もう一方の利害当事者を批判することは、不公平だとの声も上がっている。

[印刷](#)

2018年2月18日16時37分

根田祥一氏による「魔女狩り」騒動について

クリスチヤン新聞（2月16日付）のコラム「落ち穂」で、本紙に対する記事が掲載された。本紙に対して何かあれば、紙面を通して問題提起をすればよく、それには本紙も紙面で応じる。そうすれば読者が真偽を見極めるだろう。同コラムには「『来臨のキリスト』と信じさせているとの情報の確度が増した」とある。しかし一連の騒動は、信仰の弱い人を説得・懷柔し、被害に遭ったかのように思い込ませ、その上で、その証言を使ってあたかも今年新たな問題が出てきたかのように脚色し、騒ぎ立てているだけのように見える。

キリスト教において信仰告白は核心であるから、問題提起されるたび、本紙は明確に信仰告白を提示してきた。来臨のキリストなどの荒唐無稽な教理など信じていないと言う者に対し、「いや、あなたは本当は信じているはずだ」と主張したり、すでにイエス・キリストを信じているのに「イエス・キリストに立ち返るのを祈る」と言ったりを繰り返す姿勢には、あきれるしかない。

本紙は、SNSの規模だけを見てもクリスチヤン新聞の100倍のフォロワーを持つほどに成長したが、そのようなことから来る不安によるのか。創業以来16年にわたり読者の検証を受けてきたメディアに、このような魔女狩り騒動を再び起こすのは、そうするしかない切迫した理由があるのだろうか。

本紙従業員の声明についても扇動的な臭いがする。その声明に出ているように、これは日本基督教団の議長声明などを発端としたものであり、従業員たちが声明を出す前から、根田氏の動きがあったことが明らかになっているではないか。従業員たちは声明で、本紙社長と編集補佐（現副編集長）が会見を「拒否し続けた」としている。しかし、本紙は信仰告白をサイト上にも掲載しており、書面による送付も含め、すでに何度も提示してきたのであり、対応の方法について観点の違いがあっただけだ。

本紙は声明を出した幾人かの従業員だけで運営されているわけではない。他にも、役員や顧問、論説委員、翻訳者、コラムニスト、寄稿者、コンテンツ提供者など、多くの人々がいるのに、まるですべての従業員が問題提起しているかのように煽るのは、現実に合わない。

本紙の元編集長については、その時点ですでに契約は満了しており、本紙社長が「解雇すると言い渡し」た事実はなく、社長と副編集長以外「全員を解雇する予定」などとは一言も話して

いない。元編集長が社長不在の場で誤った情報を従業員たちに伝え、さらに従業員たちが役員に伝え、誤解が拡散した。そして、それが声明にまで記載されるに至った。

また声明に名を連ねた記者4人中2人はフリーランスで、営業1人は業務委託という契約だった。社外の騒ぎに負担を感じてか、先日役員とも会い、退職の意を表明した。本紙が彼らを強制的に退社させたとか、解雇したなどとする主張こそが「フェイクニュース」だ。根田氏にしてみれば、競合紙に問題が起こるのを望んでのことだろうが。

さらに、従業員声明については、社外の人物が作成に深く関与したという情報がある。事実であれば、大きな法的問題に飛び火する可能性がある。社外の何者かが、従業員声明が出るよう企て、従業員たちに教唆し、さらには草案自体を作成した可能性も出ており、現在調査を進めている。事実であれば、これは言論の自由を侵害する犯罪行為であり、一連の騒動の深刻さがここにある。

■ 創業以来サイト上に掲載し続けている本紙の信仰告白

[印刷](#)

2018年2月20日15時06分

根田祥一氏、言論破壊工作の「黒幕」であることが明らかに

本紙に対する言論破壊工作に関する数多くの情報が寄せられる中、本紙の記事（2月17日付）を受け、日本基督教団統一原理問題全国連絡会（以下、連絡会）に関わる齋藤篤牧師（同教団深沢教会）が同日、根田祥一氏（クリスチャン新聞編集顧問）と連絡会に関する新事実を明らかにした。根田氏が2016年9月に連絡会で講演したことが発端となり、本紙に対する「検証」を始めたという。根田氏は、議長声明の草案が議論されたとされる昨年10月の連絡会にも参加しており、根田氏がきっかけ作りから、議長声明に至るまで連絡会に関与し続けてきたことが明らかになった。

齋藤牧師は自身のフェイスブックに次のようにつづっている。

「根田祥一さんは、2016年9月1～2日にかけて開催された、日本基督教団統一原理問題全国連絡会で、クリスチャントゥデイについての講演をされました。（中略）その際に、クリスチャントゥデイについての情報を、裁判判決をはじめ、クリスチャン新聞などの記事を通して、わたしたちに情報提供してくださいました。わたしの申し上げる『情報提供』とはそのことです。ですから、根田氏が情報を提供してくださったということは、本当のことです。（中略）根田氏による講演がきっかけとなって、日本基督教団統一原理問題連絡会が、本格的な検証を始めたことは事実です」

齋藤牧師は、根田氏の情報提供が直接的に議長声明の作成につながったとする「飛躍した表現」としているが、連絡会が動き出す「きっかけ」が根田氏であったことは「事実」とはっきり認めた。

根田氏は、本紙が勝訴した2013年の裁判についても「引き分け」と歪曲して伝え、白を黒にするような行為を続けてきた。そして今回、裁判の判決を否定し、根田氏の主張のみ反映された議長声明まで出させた。

根田氏は、競合紙である本紙が統一協会と関係があるとする誤情報を04年に発して以来、10年以上にわたって本紙の破壊工作を続けているが、齋藤牧師はそれに加担しているといえそうだ。本紙従業員らに頻繁に接触し、本紙社長らの退任を求めた従業員声明には、齋藤牧師自身が草案作成を含め深く関与した疑いが出ている。これは明らかな営業妨害であり、齋藤牧師にはこの疑惑に対する明確な説明責任が問われている。

根田氏と共に謀し、従業員声明の作成に携わったとすれば、これこそ深刻な言論破壊工作であり、営業妨害だ。また、連絡会の名に泥を塗ることになる。さらに、議長声明についても齋藤牧師が主導したという疑惑があり、これについても説明を求めたい。

一連の言論破壊工作の「黒幕」といえる根田氏に対しても、説明責任が問われている。情報によると、根田氏自身も本紙従業員らに接触し、社長放逐の画策を教唆したとされている。競合紙の体制を覆そうとするクーデター的な画策をしていったのであれば、法的、倫理的観点から見ても言い訳のできない行為だ。

さらに根田氏は、教権を利用し、「日本のキリスト教会全体を敵に回す」などと脅迫して、本紙の役員たちに圧力をかけようとしていた。これが言論を破壊しようとする犯罪行為でなくして、何なのだろうか。今、「あなたがたが暗闇で言ったことはみな、明るみで聞かれ、奥の間で耳にささやいたことは、屋根の上で言い広められる」（ルカ12：3）の聖句が示す通りの局面が繰り広げられている。

本紙は根田氏に対し、異端捏造と言論破壊工作について公開的に謝罪するよう求める。さもなくば、すぐにでも法的責任を問わざるを得ない。

[印刷](#)

2018年3月5日20時48分

日本基督教団の議長声明に関する説明会について

日本基督教団統一原理問題全国連絡会は2月23日、日本キリスト教会館（東京都新宿区）で、同教団の総会議長名義で1月に発表された本紙などに関する声明についての説明会を開催した。クリスチャン新聞は3月11日号で、説明会の内容を詳報。事実誤認もあるが、本紙社長や副編集長の発言もある程度取り上げるなど、比較的中立な立場で伝えた。同紙の編集陣が正常化しつつある兆しともいえる。

今回、議長声明が出された契機について、連絡会側は説明会ではつきりと、同紙編集顧問の根田祥一氏による講演会（2016年9月）がきっかけだったと明らかにした。根田氏は、本紙に「疑惑」を持っているのであれば、日本基督教団のような大きな教団を利用して声明を出させるなど、教界の権力を利用するような方法を取るべきではない。ジャーナリストを自認するのであれば、紙面を通して訴えるべきだ。同紙は紙面で、本紙に説明責任を果たすよう伝えたので、本紙は以下の通り説明する。

裁判の結果について

クリスチャン新聞は説明会に関連して、13年に本紙が勝訴した民事訴訟について「引き分け」と伝えた同紙記事についても触れた。東京地裁は被告に対し、名誉毀損表現の削除と95万円の賠償金などの支払いを命じた。被告側は控訴を断念し、本紙の勝訴が確定したが、それを「引き分け」と解釈するのは無理がある。「引き分け」ならば、なぜ賠償金の支払いが命じられたのか。自身の主張に有利なものだけを針小棒大に伝える根田氏の報道は、キリスト教界を混乱させるもので、新しい疑惑をまた作り出そうとする意図しか感じられない。

説明会で提示された判決（東京地裁の判断）の要旨は以下の通りだ。

*

① 張在亨氏が再臨主であるかについては、K氏所有の「東京ソフィア教会における講義ノート」の内容から、その可能性があるものの、実際に張在亨氏が再臨主であると明確に記された部分はなく、張在亨氏が再臨主であることが教え込まれていたという客観的な証拠もない。

② ACM脱会者からのメールによる証言は、張在亨氏が再臨主であったことを示す記載があるものの、脱会者を名乗る人物が特定できることから、客観的な証拠とはなりえない。

③ 韓国基督教総連合会の異端対策委員会は、張在亨氏疑惑について「嫌疑なし」と結論し、それを世界福音同盟も追認していることから、張在亨氏が再臨主であるとの異端的教義が信奉され、教え込まれていることを認めるには不十分である。

*

このように明確な判決が出されているのに、なぜこれを蒸し返し、「再臨（来臨）のキリスト」などという疑惑提起を繰り返し、説明責任を果たせと求めるのか。裁判では幾つか「証拠」とされるものが提出されたが、いずれも「客観的な証拠」とは認められず、張氏を「再臨（来臨）のキリスト」などと信じる「キリスト教として同一の線に立つことはできない」信仰が教え込まれていたことは否定された。白は白であり、黒は黒だ。

それにもかかわらず、いまだにそれを言いふらすのは、司法判断を軽視、あるいは無視する行為だ。「説明する必要がない」と本紙が今まで取っていたスタンスは、「判決文を見よ」という意味である。この問題に関する説明は、今回が最後のものであり、再び繰り返しとなる疑惑提起をしないよう願う。

クリスチャン新聞にはその他、本紙がキリスト教メディアの世界的ネットワークの一部であることを問題視するような記述もあるが、それ一体何が悪いのか。国境で隔てられることなく、主にあって1つの働きのために協力する。それは、多くのキリスト教団体がしていることだ。

「張在亨牧師グループ」という表現について

議長声明は、本紙などを「張在亨牧師グループ」とし、すべて一体であるかのように表現している。しかし、互いは同じキリスト教信仰という点では共通しているものの、それぞれは法人、また組織としてはまったく独立している。それを知りつつも「グループ」などと主張するのは、そのように言わなければ本紙を誹謗する理由を探せないため、貧弱な根拠を作つてそれにすがらざるを得ないからに他ならない。「張牧師グループ」などというものは存在しない架空のものだ。

クリスチャン新聞を発行するいのちのことば社も、スウェーデンの宣教の働きに端を発したものではないか。スウェーデンならよくて韓国はだめだとでもいうのだろうか。日本基督教団のある牧師は、今回の問題の根底に、韓国人宣教師が開拓した教会を色眼鏡で見る人種差別的な意識があるのではないかと指摘さえしている。

東京ソフィア教会は、張氏が当時代表を務めていた韓国の教団に所属する宣教師によって開拓された教会だが、それを「張牧師グループ」の教会とする認識自体が非常におかしい。「パウロが伝道したら、パウロの教会になるのだろうか。キリストの血によって贖（あがな）われた

教会が、なぜ『張牧師グループ』の教会になるのか。そうした発想自体が非聖書的だ」と、ある牧師は指摘している。

東京ソフィア教会とK氏のノートについて

東京ソフィア教会に問題があるから、同教会に通った人間が関与した新聞も問題だという理論は、すでに崩壊している。同教会で「キリスト教として同一の線に立つことはできない」信仰が教えられていたという「疑惑」については、ある「講義ノート」の記述が発端となった。しかし、ノートの持ち主であるK氏は、異端対策講義を記したものだったと述べ、明確にそれを否定している。裁判でも、ノートが「張氏が再臨主であることが教え込まれていたという客観的な証拠」にはならないと否定されており、疑惑はこの時点ですでに解消されている。また、当時同教会に通い、同じ講義を受けたという2人の存在も最近になって明らかになった。この2人も当時の講義内容を記録したノートを所有しており、訴訟時に証言者として出ていれば、さらに厳しい判決となつたに違いない。

東京ソフィア教会はかつて早稲田大学の近くにあったが、一連の嫌がらせのため閉鎖せざるを得ず、元信徒たちは早稲田奉仕園の一室を借りて主日礼拝を守るなど、あちこちに散らされた。しかし、疑惑が解消されたということで今年に入って再結成の動きも見られる。東京ソフィア教会に関する事柄で不明なことがあれば、今後は再結成された同教会に直接問い合わせるべきだ。同教会に関する問題をまるで本紙の問題であるかのように歪曲し、間違った印象を与えるようとしてはならない。

証言者Aさんについて

裁判の結果、「再臨（来臨）のキリスト」疑惑は否定されたが、連絡会は今回、約15年前に教会に通っていたというAさんを連れ出してきた。説明会では、Aさんと、連絡会に関係する牧師とみられる男性数人が登場するビデオが上映された。上映されたのは30分ほどに編集されたものだったが、Aさんが進んで証言したというよりは、インタビューを企画した人たちが意図を持って十数年前の信仰について話を聞く場面が展開した。

その証言によると、「張在亨牧師は来臨のキリストであるとの信仰に誘導する聖書講義」があったというが、これは主観的なものにすぎない。それが教会単位の信仰告白であったのか、あるいは個人がそのような雰囲気を経験しただけなのかが不明であり、個人の非常に主観的な証言だと見られる。

また、Aさんは本紙社長もそのような信仰を持っているだろうと話したが、他人の信仰を推論して述べるのは、客観性が欠如したものだ。こうした問題提起に関し、本紙社長はそれを明確に否定した。本紙社長は説明会で明確に正当なキリスト教信仰を告白しており、現在所属する

教会の牧師や信徒らがその証人だと語った。また本紙においても、2008年にこの問題に関する信仰告白を掲載した通りだ。

■ 本紙の信仰告白（2008年）

まず、Aさんが当時通っていたという教会の信徒が何人であったかを明らかにしてほしい。本紙が確認したところ、2、3人の開拓教会だったようだ。これが事実であれば、集団生活や組織的な無償労働などはあり得ない話になる。Aさんにインタビューした人たちは、当時信徒が何人いたのか、正確な事実確認から始めるべきだ。しかも、Aさんの夫はそのような信仰を持っていなかつたと、Aさん自身が手記で明らかにしている。これはどう説明するのか。

さらに説明会には、Aさんと同じ教会に通い、同じ聖書講義を受けていたという女性のBさんも参加した。Bさんは、Aさんが苦労していたことは知っていたとしつつも、Aさんが非正統的な信仰を持っていたことはこの日初めて知ったと言い、自身はそのような信仰は持っていないと否定した。

当時2、3人の教会で、そのうち1人が否定したとすれば、Aさんの証言に大きな疑問符が付く。たとえ、Aさん個人が誤った認識を主観的に持っていたとしても、関係する教会全体がそのような信仰を持っていたとする証拠にはならない。それだけでなく、直接関係のない本紙に対してまで「キリスト教として同一の線に立つことはできない」とするのは、まったく論理の飛躍だ。

Aさんのケースと同じように、意図的な質問をもって歪曲された回答を得ようとした騒動は米国や韓国、香港でもあった。これらはすべて、本紙が記事の翻訳などで提携している海外紙と競合関係にある現地紙が主導した疑惑提起であった。

米国での証言は競合紙がすべて匿名で伝えたため、説得力に乏しいものだった。問題とされたのは、パラチャーチやフェローシップのような小グループで聖書研究をする中であった討論の話であり、その内で幾人かの間違った信仰を持った漠然とした匿名の証言者がいたにすぎない。現地の競合紙はこれを、証言者が通っていた教団や教会の共通の信仰告白であるかのように扇動したが、匿名の証言者が顔を出さなかったことで論議が終結した。

韓国と香港ではいずれも現地の調査委員会による厳密な調査の結果、証言者の話が虚偽であったことが分かっている。韓国では、ある男性が実名で証言したが、韓国基督教総連合会（CCK）による長期間にわたる調査によって、張氏の疑惑については「嫌疑なし」という結論が出ており、一連の調査結果は前述の裁判でも採用されている。また香港では、ある女性が記者会見に登場したが、会見後に女性の夫がこれを覆す証言をし、女性の証言を否定。女性の話が虚偽であったことが明らかになっている。

Aさんがいたとされる教会は、正式な教会の形態もできていない幾つかのパラチャーチのようなものだった。その2、3人のうちの1人であるAさんの話だけを基に、特定の教団全体や本紙を「グループ」と表現してひとくくりにし、全員が間違えた信仰を持っているかのように作り上げる行為は根本的に否定されなければならない。

しかも、張氏本人が一貫して「私は再臨主ではない」と繰り返し、長期間にわたって否認している。それにもかかわらず、Aさんの主観的な信仰だけをもって強弁するのは、論理的ではなく、異端捏造の陰謀としか言いようがない。

元従業員について

本紙前編集長は契約満了であり、解雇を言い渡したり、解雇したりした事実はない。声明に署名した他の従業員らは、本紙社長と副編集長（当時・編集補佐）の処遇をめぐる要求が通らないと分かると、2月中旬に自ら複数の条件要求と共に退職願いを提出した。同26日に開かれた取締役会で、受け入れ可能な条件要求と退職願いの受理が確認され、27日付で契約解除を通知している。

クリスチャン新聞は「28日付」「全員が契約社員」と伝えているが、いずれも間違い。契約社員は6人のうち2人のみで、他は業務委託（フリーランス）などだ。

また、同紙は従業員声明の内容として、本紙社長（同紙では「編集長」と誤記）と副編集長が「創設当初からいる」と伝えているが、本紙の創設が2002年であるのに対し、社長は05年、副編集長は07年からの勤務で、いずれも事実と異なる。

会見については、本紙の主張のみを伝える会見は根本的な解決にはならないとして、代表権のある本紙会長と社長が早急な開催に同意しなかっただけだ。

齋藤篤牧師による虚偽発言について

連絡会の世話人の1人で、根田氏と説明会の事前打ち合わせを綿密に行っていたとされる齋藤篤氏（日本基督教団深沢教会牧師）に対しては、本紙元従業員らが出た声明に関与した疑いがある。

説明会で本紙社長が問いただすと、齋藤氏は「関与していない。（事前に）内容の確認もしていない」と返答した。しかし本紙には、齋藤氏の回答と明らかに矛盾する複数の証拠がある。それらは、声明公開前に齋藤氏が関与したこと示す非常に具体的な証拠だ。それ故、齋藤氏は、多数の教界関係者が参加した場で、公然と虚偽の発言したことになる。

世話人の1人である豊田通信氏（同教団仙台五橋教会牧師）は、齋藤氏の疑惑を伝えた本紙記事について訂正するのかを尋ねたが、本紙の「疑惑」を追求する前に、まずは調査委員会を組織して身内の疑惑を丁寧に調べてもらいたい。

根田、齋藤の両氏による共謀について

本紙が得た情報によると、根田、齋藤の両氏はこれまでも、説明会の直前だけでなく、議長声明や従業員声明が出された前後にも打ち合わせをしていた。つまりこれは、公益を図るべき連絡会が、本紙競合紙の編集顧問と共に謀し、本紙を不当に攻撃している疑いがあるということだ。日本基督教団は、これがどれほど深刻な問題であるのかを認識すべきだ。

議長声明は、本紙に対し正式な問い合わせや確認など一切なく出された。疑惑があるのであれば、両者から公平に話を聞き、中立な立場で追求すべきだ。連絡会は、声明を出す前に両者の話を聞いたのか。一方の話だけを聞けば、白が黒にさえなり得る。これはあたかも調査する検察官が、自ら裁判官の座にも着き、弁護側の主張を聞かずに判決を下すのと同じことだ。これは魔女裁判の典型的な手法であり、日本基督教団は知つてか知らずか、まさに同じことをしているといえる。

今後の対応について

宗教改革500年を記念した直後に、本件のような事態に直面していることを積極的に捉え、希望を持ってキリスト教メディアとしての責任を果たしたく願っている。

その上で、本紙に対する営業妨害を含む言論破壊工作に対しては、法的追及を行う予定だ。首謀者が誰で、誰が利用され、具体的にどのような工作があったのか、また教界権力を利用した魔女狩り、齋藤氏の虚偽発言についても、本紙は確実な証拠を基に追及していく。

- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状
- 当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ
- クリスチャントゥディをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

[印刷](#)

2018年3月5日20時48分

当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ

株式会社クリスチャントゥデイは2月23日、日本基督教団の正教師（牧師）2名を含む3名の方々から、下記の文章「謝罪と告白」（起草者：溝田悟士氏）を受領しました。3名の方々からの心のこもった誠意あるお気持ちに心から感謝致します。3名の許可の下、受領した文章を掲載致します。



株式会社クリスチャントゥデイ 御中

謝罪と告白

私たち三人は、クリスチャントゥデイの方々に対して、「異端の疑惑」があるという理由だけをもとに、あなた方をよく調べもしないままに、あなた方の言い分も公平に聞かず、あなた方の報道をも避けて見ようとせず、あなた方を避け続けました。

しかし、あるとき自分自身を省み、あなた方のことを公平に調べるようにとの機会を、主なる神が私たちにお与えくださいました。その真実を求める声に従って、クリスチャントゥデイの方々とは直接に接触することなく、この「疑惑」について調べてまいりました。

今日まで非常に長い期間にわたる苦しい調査でした。ここで、私たち三人は、あなた方クリスチャントゥデイに対し、また、私たちが信じる主なるイエス・キリストに対し、懺悔（ざんげ）と和解を申し入れます。

「疑惑」は対立ではなく対話の中でしか解消せず、真実は話し合いによってしか見出されないということを、ようやく悟るに至ったからです。

私たちは、私たち自身が抱いている「疑惑」を解消するためにこそ、あなた方との真摯（しんし）な対話を求めます。

そして、知らずに犯した罪とは言え、「あなた方を避けた」ということへの非礼を、お詫びいたします。どうか、私たちのこの謝罪の気持ちをお受けください。

そして、あなたたちとの紳士的な「対話」の中で、「疑惑」のひとつひとつを、明らかにしていくことができますように、私たちが共に信じる主なるイエス・キリストの御名によって願つております。

2018年2月23日

日本基督教団 正教師 山本隆久

日本基督教団 世真留教会 牧師
正教師 白田宣弘

博士（広島大学・学術）溝田悟士

- 日本基督教団の議長声明に関する説明会について
- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状
- クリスチャントウディをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

[印刷](#)

2018年3月9日11時38分

クリスチャントゥデイをめぐる日本基督教団総会議長声明などについて

インターネットのキリスト教情報紙「クリスチャントゥデイ」の背後には、張在亭（ジャン・ジェヒヨン）牧師を「来臨のキリスト」として信奉するグループが存在する疑いがあるため、付き合いをしないという内容の声明（1月27日付）が、日本基督教団総会議長石橋秀雄の名で出された。

私は、以下の理由でこの声明が撤回されることを願う者である。

まず、背後に異端的グループの存在が疑われるというが、クリスチャントゥデイ自体が提供するコンテンツにカルト的、異端的なものを見いだせないことである。むしろ、キリスト教の福音宣教に有益な記事が多い。主イエスは「良い木は良い実を結ぶ」とおっしゃったし、弟子たちが、見知らぬ人々がイエスの名を使って悪霊を追い出しているのを見てやめさせようとしたとき、主イエスは「やめさせてはならない」とおっしゃった。また、畑にまかれた毒麦のたとえもある。

私は牧師で、イエス・キリストの御言葉に従うことを説教している。だから、クリスチャントゥデイが福音を伝えている限り、それを妨害するようなことはするべきではないと考える。

次に張牧師の「来臨のキリスト」としての疑惑は、彼自身が公に否定しており、私の理解する範囲では、イエス・キリストへの信仰を告白している。さらに、議長声明において「張牧師グループ」と呼ばれている人々、クリスチャントゥデイもまた、イエス・キリストへの信仰を公に告白している。この彼らの告白は虚偽であって騙（だま）されてはならないと、日本基督教団統一原理問題全国連絡会の方々は注意を喚起している。

しかし、私自身を振り返ると、自分自身のイエス・キリストへの信仰を他人から問われれば、「私は信じます」以上のことを行うことはできない。「あなたの信仰は虚偽だ」と言われば、どうすることもできないし、実際、虚偽と言われても仕方がないと納得せざるを得ない。こんな愚かな罪人でさえ、「イエス・キリストを信じます」という一言によって、私は救われていると信じている。イエス・キリストの御名によって、私の途方もない罪は赦（ゆる）されているのだから、張牧師をはじめとする方々もまたイエス・キリストへの信仰を告白する限りにおいて、主にある兄弟姉妹であると考える。

それは、「御言葉を宣（のべ）べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい」という御言葉に従うことであると私は信じるからである。この御言葉の実行において責められるべきは、私自身の怠慢であって、クリスチャントゥディを断罪することが、この御言葉に従うことであるとは、私には考えられないからである。

そして、この御言葉を、逆風の中にあるクリスチャントゥディとそれを支える人々に贈る。いや、「贈る」などとは、おこがましい。そうではなくて、今、この御言葉が彼らを生かし、この御言葉を彼らが証ししていることに敬意を払いたい。

2018年3月9日
日本基督教団正教師 山本隆久

- 日本基督教団の議長声明に関する説明会について
- 当社に対する「謝罪と告白」受領のお知らせ
- 日本基督教団統一原理問題全国連絡会などに宛てられた再検証連絡会による公開質問状

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかってに考え出したのだ」

2012年7月12日木曜日

ホン・ジエチョル代表会長が語る韓国基督教総連合会事態の顛末

2012年7月12日付けの韓国基督日報の記事を紹介します。原文は”홍재철 대표회장이 말하는 한기총 사태의 전말”です。<http://ny.christianitydaily.com/view.htm?code=cg&id=191289>

ホン・ジエチョル代表会長が語る韓国基督教総連合会事態の顛末 「崔三更牧師の家までのライン繋がり、韓基総が廃墟になり」



▲ホン・ジエチョル牧師が、韓基総事態の顛末を説明している。

韓国基督教総連合会ホン・ジエチョル代表会長が11日、ニュージャージー州トランストン長老教会で行われた米州韓人基督教総連合会（米基総）の総会に出席し、これまで行われた韓基総事態の顛末を伝えて関心を集めている。ホン・ジエチョル牧師はこの日、50分米基総会員に韓基総事態の核心だった韓国教会連合の誕生背景を説明し、また、韓国基督教総連合会の異端是非と関連して、この論争の発端となった原因と背景について詳細に説明した。次はホン・ジエチョル牧師のこの日の主な発言。

ここに韓基総の主要な役員が、すべて来ておられます。今日の私の声はすなわち韓基総全体の声です。7月19日に役員会と、全体の実行委員会がったので、ここであった話をそこで再び発表する上でとても重要であることを説明して申し上げたい。

崔三更牧師について

まず、崔三更牧師の件を説明を差し上げよう。韓基総、異端対策委員会を崔三更が15年したが、パイプラインを家まで接続させて、韓基総がひどい廃墟になった。だから、崔三更牧師に関連する韓基総職員を完全に追放して辞任させた。崔三更牧師に対する韓基総の立場を申し上げたい。この文書は、5大日刊紙でも発表された公式文書である。

[韓国基督教総連合会の秩序確立対策委員会の立場表明]

韓国基督教総連合会（韓基総）は、去る12月15日（木）役員会を持って、いわゆる「崔三更神学」という「三神論」と「マリア月経胎孕論」について、「深刻な異端であり、神への冒涜」という本秩序確立対策委員会（秩序委）の調査結果に出席した役員（名誉会長、共同会長、副会長）が満場一致で受けることを決意して確定した。

そこで、本秩序委では韓国教会の1200万人の聖徒と5万人の牧師の前に三神論と月経胎孕論異端思想の害悪を警戒して、いまだにそのような異端思想を悔い改めるどころか、韓基総の指導者を誹謗している崔三更牧師と彼を擁護する一部の非常識な宗教界人士に厳重に警告するため次の声明を発表する。

1. 「崔三更神学」は、極めて深刻な異端であり、神への冒涜

聖書とキリスト教の正統教義は三位一体の神と聖霊によって宿ったイエス・キリストを明確に証ししている。しかし、いわゆる「崔三更神学」という三神論とマリア月経胎孕論では、三位一体の神を、それぞれの本質を持った「三つの霊の神」すなわち三人の神だと主張しており、イエスの誕生についても、「月経なく生まれてきた言葉中にはイエスの人性が否定されてしまう」と主張している。

特に月経胎孕論の主な骨子は、「イエス・キリストがマリアの月経（血）を通って生まれた」、「イエスがマリアの月経なしに生まれたという話はマリアの肉体を借りずに生まれたという話だ」、「処女降誕はマリアがヨセフの精液によって妊娠していなかったという意味」などで、これは2千年のキリスト教の歴史上類を見ない神への冒涜とされる。「崔三更神学」は、禁断の扉を越えて、イエス・キリストの神聖性と正統キリスト教教理を毀損した。

したがって、韓国のすべての正統教会信徒はこのような「崔三更神学」に惑わされてはならず、このような主張をする者を擁護したり、交流することは、絶対にしてはならない。

2. 崔三更牧師の詭弁は、一考の価値もない

崔三更牧師は、詳細な検証と議論の手続きもなく、自分を異端と規定したと主張するが、本秩序委の役員会の委任を受けた後、彼の文章の講演など三神論・月経胎孕論のすべてのデータを調査した結果、これはとても黙過できない深刻な異端との結論が出た。

崔三更牧師はこれまで自分が異端を定罪するときにどのような方法を使用しているのかを自ら良く知っている。彼は自分が直接書いた文で「事前に当事者に会うことになればむしろ研究の純粹性が疑われる危険がある。何よりも本やテープくらい客観的な資料がどこにあるのか？問題にするなら、具体的な内容を聞いて、問題にするのが正しい。」と釈明の機会を与える必要もないとこじつけた。

しかし、本秩序委は崔三更牧師本人に弁明の機会を与えることが調査の公正性を期すものと判断し、非公開で釈明の機会を与えた。それにもかかわらず、崔牧師は、最初は自分に釈明の機会をくれと懇願したのに、後で急に態度を変えて回答を拒否し、今まで、韓基総と、この秩序委を誹謗している。さらには、韓基総キル・チャヨン代表会長に人身攻撃をし、内容証明を送り、これをマスコミに公開した。

また、統合側は、過去韓国教会を代表する牧会者である汝矣島純福音教会のチヨー・ヨンギ牧師を疑似であると規定し、解止するという非常に怪奇な事件を起こした。ところで、今度は崔三更牧師は、自分が委員長にある大韓イエス教長老会統合の異端対策委員会を利用して韓国教会の指導者であり、韓基総代表会長キル・チャヨン牧師とWCC対策委員長であり、保守系の指導者であるホン・ジエチヨ

ル牧師、さらに、同じ統合側の政治部長を務めたイ・ジョンファン牧師まで秩序委の専門委員を引き受けたという理由のために報復性異端の支持者とし規定するという笑えない寸劇を繰り広げている。崔牧師はいつまでこのように韓国の教会を混乱させるのか?今、彼は一日も早く三神論・月経胎孕論のような詐欺異端の仮面を脱いで、これ以上韓国教会の聖徒らを愚弄していないよう強く要求する。

3. チョ・ソンギ牧師と彼に追従する一部の教団総務は三神論と月経胎孕論のための独自の神学的見解をすぐに明らかにせよ

統合の事務総長チョ・ソンギ牧師は、いくつかの教団を先導して崔三更牧師の異端解除を試みているという。チョ・ソンギ牧師は12月9日午後、韓国教会百周年記念館である人々との集まりを持った後の記者会見で、13日午前、所属教団の同意もなしに、一部総務と異端対策委員長と集まつた席で崔三更牧師を庇護する発言をしたことが分かった。そのような異端の擁護行為と、それに同意した者は、今後の確認を経て、異端ないし異端の支持者として規定することを警告する。

もうチョ・ソンギ牧師と彼に追従する勢力は、これ以上後ろに隠れて、韓基総を誹謗、陰湿に攻撃するのではなく、上記の崔三更牧師の三神論と月経胎孕論の主張に同意するか速やかに公開的に立場を表明せよ。チョ・ソンギ牧師とイエ・ソンチュク総務、チエ・グイス牧師、大韓イエス教長老会合神パク・ヒョンテク牧師など、韓基総を転覆させるための会合を秘密裏に数回持っているというのに、このような行為が度を越えるなら、この際に本委員会での秩序を正すために定款によって処理することを通知する。

また、このような状況を政治的に打開しようと考えてしまい、もう何度も指摘したよう統合自体でも前職の政治部長と異端対策委員長と異端相談所長は、公式問題提起している崔三更牧師を解職して異端を厳しく処断しなければならない。そうすることで異端が異端であると区別し、宗教界の混乱と紛争を招くという不幸な汚名を脱ぎ、韓国の教会が調和と一致のために手を握って本来の使命に全力を尽くすことを要求する。

2011年12月19日

韓国キリスト教総連合会の秩序確立対策委員会

委員長キム・ヨンド牧師、書記キム・キヨンハク牧師、委員イ・スンリヨル牧師、キム・ジンチヨル牧師、ハ・テチョ長老、オム・ジョンムク牧師、カン・テグ牧師、キム・ウォンナム牧師、カン・ギウォン牧師、専門委員イ・ジョンファン牧師ほか4人

異端是非の開始について

韓教連が出てきて、韓基総の異端是非のに、なぜこんなことが発生したのか。代表会長選挙を控えて金権選挙の謀陥があった。しかし、これは裁判の過程で、相手陣営から出てきた嘘だったことが明らかになった。キル・チャヨン代表会長は、復権したし、その後に開かれた代表会長選挙で、私は255人の代議員のうち251人賛成、4人棄権で代表会長に当選した。

ところで、この前にキル・チャヨン牧師を謀陥した人々を中心にして、非常対策委が構成された。韓国教会は腐った。お金を払って選挙すると言ってキル・チャヨン牧師退陣運動を繰り広げた。ここに組織的に加担した人の中に崔三更牧師が含まれている。このときは、金権選挙無罪判決が出る前だった。そして、このときは、異端の話は出てなかった。

それなら異端の話はいつ出たのか。2014年WEA総会を韓国に誘致することにしたのがイ・ヨンギュ代表会長のときの事だ。ところがWEA七大大陸の代表が集まり、韓国での争いがあって韓国に誘致してはいけないという話が出た。もともとアフリカ大陸で、それぞれなったものだが韓国で開催することになったのだった。私が急いで収拾した。WEA側から「韓国の教会が和解できるか」と問われ私が

「できる」と言い、キル・チャヨン牧師とイ・グアンソン牧師を和解させたのだ。そして昨年9月11日10周年の時に一緒に来た。そして韓国で発足式を11月中にすることにした。

その日程を受け入れて行ってみると、その日はウォーカーヒルホテル、シェラトン、ヒルトン、ロッテなどのホテルごとに場所がなかった。期限が近づいてきたが、朝にマリオットホテルでイ・グアンソン牧師とキル・チャヨン牧師と一緒にご飯を食べているとイ・グアンソン牧師が急に提案した。キム・サムファン牧師がマリオットホテルでアガペーのイベントをたくさんするから、このホールは大きくはないが可能だと言った。だから、急いで場所を決めるようになったのだ。

礼拝をささげた後でCBSとNews N Joyが攻撃し始めた。そして崔三更牧師も攻撃し始めた。韓基総がいよいよ異端と手を結んだという主張だ。韓基総がWEAのジェフ議長に会うのに、統一協会の資金を引いて使って統一協会の建物で行事をするという主張だ。このような内容を新聞広告にまで出した。一方的にされたのだ。

だから、調査を行った、たまたま高速バスターミナルに社長をしている2年後輩がいて尋ねた。「マリオットホテルは、統一協会のか」と尋ねたところ「合っている」と言った。愕然とした。しかし、その後輩が話すには「いいえ、先輩それではこれからクリスチャンたちは、高速バスターミナルから乗ってはいけないことになります。高速バスターミナルも、文鮮明のものです。そういうことです。気が狂いそうなことです。」

ところで分かってみれば、その建物の株式の40%を統一協会が持っているということだった。元々は、その前にあった社長が株式をモルモン教に売った。マリオットという世界的なホテルチェーンに来て経営しているのだ。統一協会とは関係はなく、その高速バスターミナルの建物の40%の株式からの収益金を持って行くのだ。

だから、私たちの広告を出した。統一協会の資金が流入したという証拠を示せ。そしてあまりにも侘しきWEAを誘ったときに入った1億ウォンの出所も明らかにした。キル・チャヨン牧師の教会で1550万ウォン、イ・グアンソン牧師が1550万ウォン、私1550万ウォン、オム・シンヒョン牧師が1000万ウォン、イ・ヨンフン牧師が2000万ウォンと、私たちの共同会長が500万ウォン、200万ウォン急にお金を集めて1億ウォンを用意した。だから、ジェフ議長をはじめ、WEA関係者の板門店訪問にも一緒に歩き回って、そのままアメリカにお送りした。このような状況のとき、その時から異端という言葉がずっと出て来たということだ。

張在享牧師について

張在享牧師の教団は、韓基総が最初に作成されたときの創設メンバーに入っている教団である。張在享牧師はそこの元総会長だった。これがどのような私的な感情によるのかは分からないが、崔三更牧師と張在享牧師の戦いが始まった。だから、崔三更牧師は張在享牧師の統一協会に加入していた人士だと追求し、異端是非をした。ここで張在享牧師の異端問題が出てくるが私とは関係ないことだ。

ところが、これを7年間調査した。パク・ジョンスン牧師、イ・ヨンギュ牧師、チエ・ソンギュ牧師、キル・チャヨン牧師、オム・シンヒョン牧師、イ・グアンソン牧師このように代表会長を6代を経て、なんと7年間の戦いである。アメリカにも連絡して張在享牧師を異端に作ろうと総力を傾けた。ところで印刷物の内容を見ると、崔三更牧師が直接異端相談所長を務めながら、5時間の間対面したりした。米国の張在享牧師を呼んで直接尋問をした。

だからパク・ジョンスン牧師も嫌疑なし、イ・ヨンギュ牧師も嫌疑なし、チエ・ソンギュ牧師も嫌疑なし、キル・チャヨン牧師も嫌疑なし、イ・グアンソン牧師も嫌疑なし、オム・シンヒョン牧師も嫌疑なし。6代に渡って嫌疑なしということが延々と出たということだ。その当時の調査を誰がしたの

か。崔三更牧師が直接した。そして崔三更牧師に味方する合神のパク・ヒヨンテク牧師と異端で出てきた人々が異端対策委員会メンバーになって張在享牧師を計画的に殺そうと6年の間意図した。それにもかかわらず、日が変わって、新しい代表会長になるたびに嫌疑なしと出てくる。そして、その調査をしたのは誰だ、まさに崔三更牧師だ。キリスト教バプテストのハン・ミヨングク牧師、代わりにゴ・チャンゴン牧師などすべてが有能な人なのに、この人たちがこのまま委員長をしながら、すべて異端性がないと自ら述べた。だから、終わった。

だから、張在享牧師が「異端対策委員会委員のこれまで陥れた人々すべてを告発して、当時の代表会長ら全部を告発する」と言うからイ・グアンソン牧師が「そのようにはしないで」と言いながら、我々がすべて終わったから和解しようとして「公証をしてあげよう」と言った。だから、当時の代表会長イ・グアンソン牧師、総務キム・ウンテ牧師の名前で、異端の嫌疑がないと公証をしている。終わった。

張在享牧師は今WEA北米理事だ。全世界の7人の理事の一人である。韓基総、国際委員長にも立てられている。そのような人を崔三更牧師が一人で騒ぎながら、米国だかオーストラリアだかどこだ回つてイダン（異端、二流）であるだのサンダン（三流）だの言う。その人はイダン（異端、二流）ではない。すでに終わった。私で終わったのではなく私の先代時に代表会長6代に渡って7年の是非の最後に異端ではないと判明し、これが出たわけだ。だから私たちは一人の魂をも殺してはならない。終わったのだ。

▲この日配布された張在享牧師の韓基総、調査の過程が記録された印刷物

ビヨン・スンオ牧師について

ビヨン・スンオ牧師は異端だと決定した。今韓基総で除名をした。ところで一昨年のビヨン・スンオ牧師が異端ではないという書類を持って来た。だからキル・チャヨン牧師が全体の役員会で制動をかけて、私も制動をかけた。だから、全体の22対19で否決された。ところで、このあいだに緊急理事会が招集され、また22対19で、今回は問題ないと通過になった。この会期が終わったが、今回私が代表会長になったからだめだ。また倒さなければならたい。どうして韓基総が異端と連携したか。もういちど取って持って行き、彼の教団である白石に差し戻した。そしてこれは、異端とした。

ユ・ガヌスのタラッパンについて

合同が元の教会数は7000であり統合が4800、二番目に大きい教団が改革側6500であった。ところが、この改革の教会の4500が合同に来てしまったのだ。すると、光州を中心とした湖南出身の改革の牧師らが教勢が減って大きくかかわっていた。その首長がジョ・キヨンデ牧師であった。合同には一日の朝に1万2000の教会ができ、そこは2000教会小さくなつた。そんなに小さく見えるからまた1000教会が抜けて、群小教団になった。ところがちょうどユ・ガヌスが入ったからといってジョ・キヨンデ牧師が受け入れようとした。ところが役員会で歯止めがかかった。だめだということだ。だから、ジョ・キヨンデ牧師が提案した。伝道総会を解体させろということだ。個人的に来たら受け入れてあげようということだ。その人たちもともと統合、高神、合同の大きな神学校を出した人々である。ずいぶん長い間、70年、80年に教会が復興に苦闘する時ユ・ガヌスが伝道の秘訣を教えてくれたといえどもそこに付いて行った人々である。そうしてみるとユ・ガヌスに従っていた人々が個人的に改革教団に入ってきて、韓基総に陳情書が寄せられた。韓基総が整理をした。ジョ・キヨンデ牧師に指示をした。ユ・ガヌスを受け入れれば、あなたも異端であるとした。秩序対策委員会がこの仕事をしておりここ役員団に来た証人もいる。最初は改革側が韓基総創立教団なのにこんなことがあるのかと言つたが、私は非常に強力に出た。公文書を送った。そして韓基総に再回答が来た。韓国教会の意見を取りまとめることであるからユ・ガヌスの決定を下す9月の総会まで待ってくれというのだ。結局これも

すべてハプニングである。終わった問題だ。しかし、変な話をするのだが誰が変な雰囲気を作っているのかがわからない。

よく分からなければならないことはタラッパンというものを改革側が受け入れたことがないということだ。もしタラッパンという教団を受け入れた場合は、韓基総で相当な問題を改革側に提起することだ。ところがタラッパンというところを受け入れたことがなく、その教団の議事録を見れば、その問題に甲論乙駁してからタラッパンを受け入れることはできないと判断し、ちょうどそこにある牧師たちが正統教義を持って勉強したので個人的には受け入れることがあっても、改新大学で1年間の再教育を受ける条件で受け入れたということだ。だから、その人が1年間の再教育をも受けた。私はユ・ガヌスについては、今日のこの時間も話をする。しかし、そこに所属する多くの牧師たちが改革側の教団の神学校で再調査をして終わった。合同教団の中にも異端の核心メンバーが、我々の教団に来て教育を受けて、私たちの教団の異端対策委員会員として活動している。

そして最近行われた市庁前の国民大会で伝道総会が動員されたという人がいてユ・ガヌスが視務する教会からは一人も来なかった。改革側の総会は、4000人が自分の教団から来たという。私たちが見るのは2000人ほど来た。ところでユ・ガヌスが視務する教会は来なかった。そして5万人が集まった所で調査をして君はどこ来たのかと、いちいち調査することは非常識なことだ。そしてそれは国民大会であった。国を守る国民大会なので、カトリックの神父も人々を送って曹溪宗（仏教）からも人を送った。そこはすべての国を守る国民大会だ。そこには、枯葉剤被害者連盟、在郷軍人会、多くの愛国団体が来るのだから、その人々の宗教はキリスト教ではない。ごまんとある宗教がすべているということだ。それは、全体が集まる国民大会なのに、その問題を提起すること自体が韓国教会を陰湿に攻撃することだ。その話をいったい誰が送ったかというのだ。その問題を送信した主体が誰なのか。絶対に籠絡されてはならない。そんな話を聞いてアメリカ総会のあちこちに言っているから、アメリカの総会の人々がこんがらがった。

今後の異端対策について

今回我々は、高神、合同、統合、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド、白石など、正式な神学大学がある教団の神学者で神学委員会を構成した。これまでの異端対策委員会だった人はすべて省いた。申し訳ないが、今まで韓国の教会の異端対策委員会だという人自体が問題が多くかった。自身に問題が多く、風土がそうだった。私はとすると、皆さん、私心はない。誰側につくでもなく、聖靈様の側だ。そして崔三更牧師とも全く関係がない。崔三更牧師を政治的に殺さなければならない理由が毛頭ない。ただ、今まで韓国の教会を乱して複雑にしたこの事件を代表会長として、どのように解決するか心配だ。どんなに間違った人でも大統領になれば愛国者になるという話があるが私が代表会長となつたのだからどうすれば韓国の教会の地位を高めようか悩んで、これまでの異端対策委員をすべて外した。韓国教会に神学者たちがいないのか。異端対策委員会委員の人々がいつまでも異端鑑別の役割をするべきなのか。全部辞めさせよう。それが71の教団の総会長たちが異口同音にする話だ。今回は本当に神学者たち35人を構成したが一人として私の知っている人がいない。すべて総長を通じて推薦を受けた神学者である。その35人にここに来る直前に任命状を送った。その人たちがこれから異端の問題を研究することで、そして私が代表会長に申し上げたが、アメリカの総会でも神学者たちを選抜してください、異端対策委員会委員たちはだめだ、と。申し訳ないが、アメリカの異端対策委員会委員たちが韓国の異端対策委員会隊員たちと行ったり来たりしている。これは主の国、神の国のためにもので、我々は韓国の異端対策委員の手先ではない。本当に神の国のために神学校教授のすばらしい方々を推薦して韓国の神学者たち、アメリカの神学者たちの交流をして、何か一つの合意点が出なければならない。

Nehemiah Archives

ネヘミヤ記6章8節 「あなたはそのことを自分でかつてに考え出したのだ」

2018年12月10日月曜日

韓国CTとニュースNジョイの因縁

一見関係のない2つの別々の問題に見える「クリスチャントゥディを異端に仕立て上げてキリスト教界から抹殺しよう」という問題と、「ニュースNジョイは主体思想派のキリスト教弱体化工作のための扇動組織である」という問題。最初は何がきっかけだったのか?っていうところを見ると、つながってくるものがあります。

1. 宗教マフィア

大韓イエス教長老会統合教団の崔三更牧師という自称異端専門家、異端鑑別師を名乗る人が3人の同種の人たちと韓国の様々な教会を訪れて「あなたの教会を守るために異端対策をしてあげよう。だから異端対策費用としてXXX万ウォンを払ってください」というビジネスをしていました。中には払えない牧師や払いたくない教会がありました。「いやそんなことしなくていい。帰ってください」と言った牧師はニュースNジョイに女性スキャンダル、異端疑惑、金銭問題などを報道され、韓国のキリスト教界から「正義の名のもとに」抹殺されました。実はニュースNジョイの捏造だったのです。自分の教会の牧師が失脚し、教会が潰され、自分の教会を失った信徒は悔しさと悲しみに暮れます。崔三更牧師は異端対策費というみかじめ料を徴収する「宗教マフィア」だと呼ばれるようになっていました。

2. 作戦会議

その後韓国クリスチャントゥディが大韓イエス教長老会合同福音教団の張在亨牧師によって創立されます。記者は世間知らずの若者です。ただ正義感にあふれて突っ走る人が何人かいたようです。ある日クリスチャントゥディに電話録音の音源が届けられました。崔三更牧師とお仲間の宗教マフィアが正統教会の牧師Aをどのようにして異端に仕立て上げるのか作戦会議をする電話でした。オウンゴールですね。自分で異端捏造の手順を語ってるんですから。この時点で張在亨牧師を批判する人は韓国のキリスト教界にはだれもいませんでした。もちろん以前統一協会やその関連団体にて、そこを出て正統な教会の牧師をしている人は多くいました。ただ、暗黙の了解として互いにそのような過去は触れないというエチケットのようなものがあったようです。

韓国クリスチャントゥディにもたらされた崔三更牧師を告発する電話音源は他の多数のキリスト教メディアにもすでに送っていましたが、ニュースNジョイによる報復捏造報道を恐れて誰もこれを公開し、批判的に報道するメディアはありませんでした。何も知らないで驚愕した韓国クリスチャントゥディの記者以外は。韓国クリスチャントゥディにある記事が掲載されました。電話録音を詳細に記述し、正統な牧師をどのように異端として捏造するのか協議し、次のステップを整え、方向性を決める様子が暴露されました。他の新聞が報じないのでスクープになってしましました。韓国のキリスト教界がざわつきます。崔三更牧師やニュースNジョイなどの被害者らは内心「よくぞやってくれた」と思いつつも、「大丈夫か、標的にされたらひとたまりもないのではないか?」と心もとない思いもあったそうです。

3. 殺れ

崔三更牧師がある日いつものように異端捏造をしようとして気づくと韓国クリスチャントゥディにそのことがバレしてありました。小悪人なら焦って震えるのですが、自分のメディアを従え、自分が黒といえば

白も黒くなる権力者は一味違います。崔三更牧師は怒りに燃え、「この若造が。人の領域（シマ）あらしやがって。まあいい。こんな無名の新聞すぐに潰してやるから。」崔三更牧師はいつものようにニュースNジョイの記者に連絡をしました。「次はクリスチャントゥディだ。何か探せ。そして殺れ。」この瞬間から、崔三更牧師とニュースNジョイは韓国クリスチャントゥディと決して共存できない、どちらかが生き残り、どちらかが死ぬまで死闘を繰り広げる関係になりました。韓国クリスチャントゥディの報道が「正しい」ことになれば崔三更牧師は社会的に死ななければなりません。異端捏造の暴力という剣によって韓国クリスチャントゥディのペンを折れ。これが崔三更牧師の殺害命令だったのです。

4. ペンと剣

韓国クリスチャントゥディのあら探しをしますが、金銭問題、女性問題、どちらもクリーンでした。残る選択肢は異端捏造。設立者である張在亨牧師の経歴、発言、教えの内容、数百ページの文章をニュースNジョイ記者は漁ります。張在亨牧師は若い頃統一協会の外郭団体でキリスト教の福音宣教をしていたことがわかりました。「やった。見つけた。」ニュースNジョイの記者は使命感に溢れます。主体思想の勝利のためにまた一人牧師と、新参のキリスト教メディアを社会的に抹殺できそうだ。キリスト教の弱体化に貢献できそうだ。こうして作られたのが張在亨牧師統一協会前歴報道でした。ただ、今回の敵は違いました。安々と殺されてたまるかと血気盛んな若者が反論を報道し、ペンで対抗してきました。

5. 「客観的な第三者」

崔三更牧師が異端対策委員会の相談室長を務める韓国基督教総連合会（CCK）では、崔三更牧師の発案により張在亨牧師の異端調査が開始されました。「ニュースNジョイが疑惑を報じているから調査せよ。」と自作自演を異端対策委員会の会議で発案します。このようにして、張在亨牧師は宗教裁判に引き出されました。ニュースNジョイはこれみよがしに報道します。記事は「CCKが異端疑惑で張在亨牧師を調査」です。マッチポンプにも程があるのですが、あくまで客観的な第三者を装って大々的に報道するのが異端捏造のこつだそうです。

根田さんが日本のクリスチャントゥディを抹殺するための口実を探していたのがちょうどこのころでした。それでJEAが55の加盟教団に送ったFAXの内容が以下のように定まったということです。

日本福音同盟 Japan Evangelical Association
101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル内
TEL 03-3295-1765 FAX 03-3295-1933 E-mail office@jeanet.org

2004年6月17日

JEA加盟団体各位

JEA協力団体各位

主の御名を賛美いたします。

最近、いち報道機関として活動を始めた『クリスチャントゥディ』に関して、さまざまなお問い合わせが皆さまからございました。数ヶ月間、調査結果を待っておりましたが、一昨日、韓国の新聞社「韓国基督公報」を通じて次の内容の事が明らかになりました。

記

韓国クリスチャントゥディ新聞の常任理事、張在炯牧師は、統一協会の核心メンバーであることが判明。このことについての記事が韓国のオンライン新聞であるNews N Joyに出ている。基督公報の取材によれば、海外ネットワークとして日本と中国に力を入れているらしい。張在炯牧師は現在合同福音教団の総会長ですが、韓国基督教総連合会から異端として調査中である。

（クリスチャン新聞提供）

上記の調査報告を深刻に受けとめ、JEAは今後、『クリスチャントゥディ』の取材を一切受けないことをいたしました。その事を関係者の皆様にご報告いたします。

主にありて

理事長 小川国光
総主事 具志堅聖

根田さんは崔三更の保身と、ニュースNジョイのキリスト教弱体化工作のために用意した矢を知ってか知らずか、日本のクリスチャントゥディに向かって放ったということです。

6. コインの裏と表

張在亨牧師は韓国キリスト教総連合会の異端対策委員会において、「証拠がなく事実でなく、異端性が全くない」と判断され、無罪放免となりましたが、結果これが冤罪であるため、責任者の処罰を求めますが、CCKの指導者らに「どうか穩便にしてほしい」となだめられて偽りの告発者らを放しました。

一方崔三更牧師は後に自分が異端であることが判明してCCKを追放されました。ニュースNジョイは今まさに炎上しています。コインの表と裏のように対象的な結末に終わりましたね。神様のどんでん返しはこういうものではないでしょうか？

最後に印象的なエピソードをひとつ。

宗教裁判の検察官よろしく崔三更牧師が張在亨牧師を調査するときに、崔三更牧師は面と向かって金持ち自慢をしたそうです。自分がいかに金が多いかを誇る崔三更牧師はこう口走ったそうです。「ニュースNジョイの記者にあんたのことを調査させるのに300万ウォンもくれてやったんだよ」賄賂を払って捏造記事を書かせてたことを自分から言ってしまいました。オウンゴールです。

書いていてバカバカしくなるほどの汚い話しですが、韓国のキリスト教界の腐敗した現実です。

ニュースNジョイの問題がクリスチャントゥディの疑惑問題とはコインの裏と表の関係にあることがおわかりになったでしょうか？

共有

0 件のコメント:

[コメントを投稿](#)



ホーム



[ウェブ バージョンを表示](#)

Powered by [Blogger](#).

[印刷](#)

2018年12月5日17時57分

ニュースNジョイ、主体思想派が韓国キリスト教界に植えた「細胞組織」 韓国メディアが報道

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑を集中報道

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。その実態を報じた韓国クリスチャントゥデイの記事（5日付）を紹介する。

*

数年前に北朝鮮を称賛鼓舞するキリスト教団体があるという主張が提起され、キリスト教界に大きな波紋を起こした。アン・ビョンマン牧師（列邦教会、前大韓イエス教長老会高神教団SFC指導委員長）が「青春（原題：一つしかない祖国のために）」という北朝鮮労働党の青年赤衛隊が歌う歌を何事もなかったかのごとく制止せず、クリスチヤン青年らが歌っている共同体がある」という主張をしたのだ。当時、彼はその団体の実名を挙げなかっただめ、これについてのさまざまな推測がなされたが、最近本紙が入手した資料を通してその正体が明らかになり、特にこの団体がニュースNジョイというキリスト教メディアと深く関連しているという事実も明らかになった。

어머니 당을 위한 노래, '청춘'을 부르는 기독 청년들에게

순수한 복음으로 돌아가자

안병만 승인 2016.05.19.06145 댓글 0



5.18 민주화 항쟁 기념대회를 하루 앞두고 '임을 위한 행진곡'을 기념 곡으로 정해야 되느냐 아니나를 두고 민주세력과 정부간 줄다리기를 하면서 결국 기념 곡으로 지정되지를 못했지만 합창을 할 수 있으되 제창은 하지 않는 쪽으로 결론이 났다. 노래 하나를 두고 되니 마니 하는 아념적 기싸움을 하고 있는 미당에 필자는 '청춘'이라는 북한 노동당 청년 적위대들이 부르는 노래를 아무런 제지나 여과 없이 기독청년들이 부르고 있는 공동체가 있다는 소식을 접하면서 혼란 속에 빠지게 되었다.

▲ 안병만 목사(열방교회, 고닷 운영위원
장, 종회 SPC지도 위원장)

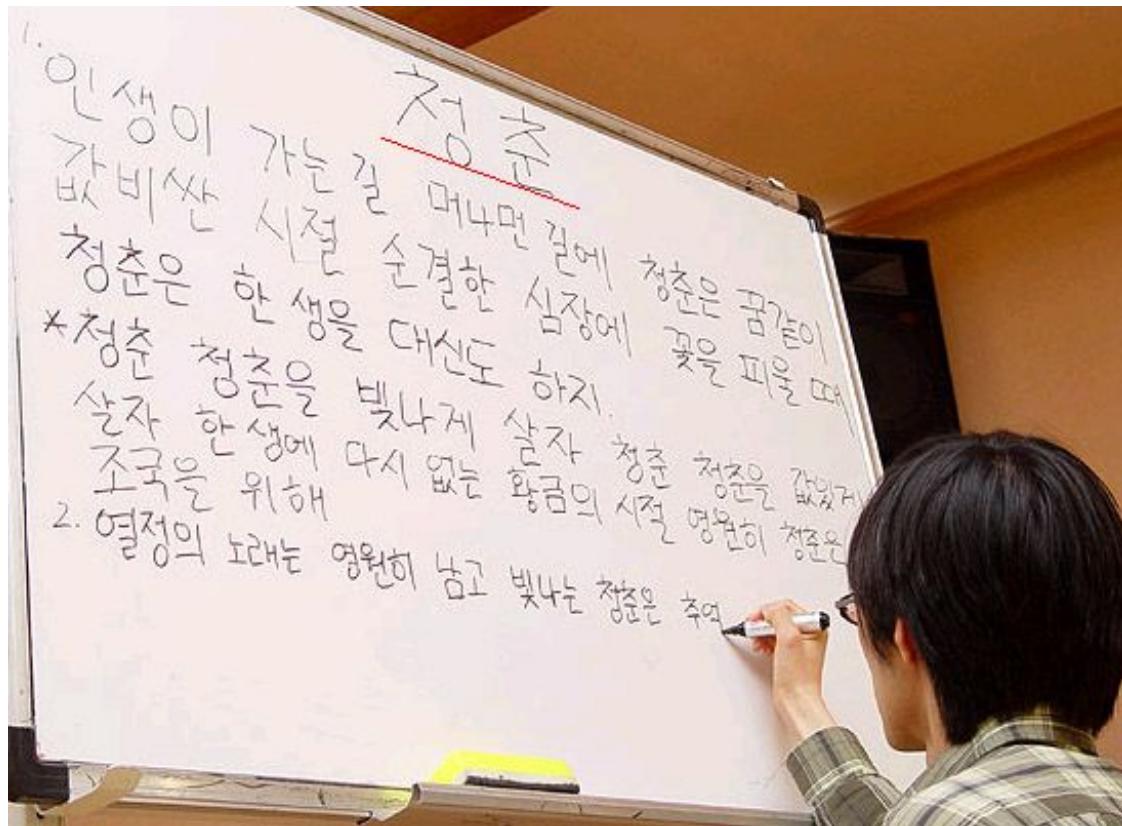


오늘의 주요뉴스

あるキリスト教メディアに掲載されたアン・ビヨンマン牧師の記事。「青春」がどのような歌なのかを一つ一つ告発している。この記事の原文はこちら（韓国語）。

十数年前、「教会改革」を旗印に発足した媒体「ニュースNジョイ（News N Joy）」についてはこれまで、過激な論調だけでなく、鮮明な親北と従北傾向が延々と物議を醸してきた。ところが、この媒体は単にこのような傾向を有することを超えて、主体思想派の民族解放（NL）戦線の勢力が、キリスト教への妨害と破壊を目的としてキリスト教界に植えた「細胞組織」との実態が関係資料から無数確認され、衝撃を与えていた。特にキリスト教界ではニュースNジョイのこのような動きは、主体思想派が教会の改革を託されたとしてキリスト教で扇動を試みた事件であり、これに対して沈黙してはいけないという世論が高まっている。

この資料によると、ニュースNジョイ元・現職記者の多くは、「美しの村」という名称の共同体の出身者で、この共同体はどの従北左派組織よりも大胆でありながら露骨に主体思想と北朝鮮の体制について称賛し鼓舞する活動を続けている。



ニュースNジョイ元編集局長ジュ・ジェイル氏は、インターネットカフェに上の写真を掲載したことがある。写真の中で一人の青年が「青春」という題名で文を書いている。

(以下、上の写真にある文の日本語訳)

青春

1. 人生が行く道 遠い道のりに青春は夢のよう
高価な時代 純潔な心臓に花を咲かせるとき
青春は一生の代わりにもなります。
*青春 青春を輝かせて生きよう 青春 青春を価値あるように生きよう
一生に再びない黄金の時代 永遠に青春は
祖国のために
2. 情熱の歌は永遠に残り 輝く青春は思い出

この「美しの村」共同体の入所式において会員らが、金日成賛歌である「青春」を歌うことが分かった。アン牧師はこの曲について「青春を母なる党である労働党と金日成父子と北朝鮮の朝鮮人民民主主義共和国のために惜しみなくささげよう」という内容だと告発した。

この「美しの村」の中心人物として知られているチエ・チョルホ氏は、2005年1月1日、妻と一緒に訪朝した際に写真を撮影したが、当該写真には「21世紀の太陽、金正日將軍万歳」という文句が鮮明に見える。この写真は、「美しの村」のインターネットカフェに「21世紀の太陽、金正日將軍万歳！！ - チョルホ、OO」というタイトルで掲載された。チエ氏はニュースNジョイが設立した教育機関であるキリスト教青年アカデミー運営委員長と教育委員長などの要職を務めた。

「美しの村」の別のメンバーであるアン・キホン氏も2005年1月11日、いわゆる「金日成賛揚碑」の横で写真を撮影した。この賛揚碑は「偉大な首領金日成同志は1974年8月19日、ここで不屈の共産主義革命闘士金正淑女史と共に1947年9月28日、金剛山を訪れたその時を感慨深く振り返ってみて、女史の高潔な忠誠心に胸が熱くなったとおっしゃった」と書いてある。

제국주의자들이 펴들어마는 사회주의나라들에서의 이른바 <인권안락수>에 대하여 말한다면 사회주의 국가가 민주주의적 질서를 유관하고 사회주의제도를 파괴하려는 적대분자를과 불순분자를에게 제재를 가하는것은 민주주의의 원칙으로부터 민주주의를 지키기 위한 정당한 조치입니다. 제국주의자들이 올호하는 <인권>은 인민들의 인권이 아니라 인민의 원칙과의 인권이며 그들이 놔리는 <자유>는 인민들의 민주주의적 자유가 아니라 제국주의자들과 그 암살대를의 치외활동의 자유입니다.

우리 공산주의자들은 자신의 당성을 숨기지 않는것처럼 민주주의의 계급성도 숨기지 않습니다. 사회주의적 민주주의는 결코 사회주의를 반대하는 적대분자를과 인민의 권리와 함께하는 복수분자를에게까지 자유와 권리 주는 초계급적 민주주의 아닙니다. 로동자, 농민, 근로민족리를 비롯한 광범한 인민대중에게는 자유와 권리 보장을 하여주고 소수의 계급적 충족을 위하여 대하께서 체제를 가하는것에 비단 사회주의적 민주주의입니다.

우리는 사회생활의 모든 분야에서 계급적 투쟁과 혁명적 원칙을 틀튼히 지키며 인민의 권리와 함께하는 적대분자를과 복수분자를 출제하여 진압하여야 합니다. 특히 <인권옹호수>의 관관일체 강화되고 있는 제국주의자들의 반공모략들에 단호한 반격을 가하여 사회주의적 민주주의를 험습하려는 은갖 시도들을 제거해 전부서로 견뎌야 합니다.

(김일성주석님, 인민정권을 더욱 강화하자, 1977.12.15)

「民主主義と人権の本質」というタイトルの内部文書の一部

さらに驚愕すべきことは「美しの村」では、露骨に「金正日將軍様」「金日成主席様」という表現を使用している点だ。特に「民主主義と人権の本質」というタイトルの内部文書は、金正日と金日成が言ったように見える内容を含んでいるが、そのうちの幾つかは、次の通りである。

「私たちは、社会生活のすべての分野で階級的立場と革命的原則をしっかりと守り、人民の利益を侵害する敵対分子と不純分子を徹底的に鎮圧しなければなりません。特に『人権擁護』の看板の下に敢行されている帝国主義者の反共謀略策動に断固とした反撃を加えながら、社会主义的民主主義を損なおうとするどんな試みも適時に粉碎し捨てなければなりません（金日成主席様、人民政権をさらに強化させよう 1977年12月15日）」

注目される部分は、前述したニュースNジョイの記者の多くが、この「美しの村」の出身という点だが、特に資料によると、彼らがニュースNジョイの記者として活動することになった背景には、自発的意志以上の「美しの村」の政策的・組織的な動きが見える。

함께 일하는 승규와 함께 <뉴스앤조이>가 우리 공동체를 비롯한 교회 내부의 개혁 세력의 전위 조직으로, 선동 조직으로 건실하게 서도록 활동할 것이다. 굽하고 조직하는 작업의 달인이 되고, 글과 신문으로 연대하는 운동기적 습속이 빠인 '꼰'이 되었으면 하는 바람이다.

지금은 '임시'라는 꼬리표가 끊었지만, 멀지 않은 미래에 나는 <뉴스앤조이> 편집 책임자가 될 것이다. 한국교회를 바라보는 안목이 더 넓고 깊어졌다는 뿐입니다.

ニュースNジョイ元編集局長ジユ・ジェイル氏が書いた文の一部。「ニュースNジョイは、私たちの共同体をはじめとする教会内部の改革勢力の前衛組織であり、扇動組織に堅実に立つように活動する」と

記している。この文で言及された「スンギュ」はイ・スンギュ C B S記者で、ニュースNジョイでも記者として働いていた。

1. 수련의 실패

을 향해 가장 부끄렀던 것은 몸과 마음의 수련을 꾸준히 하지 못한 점입니다.
살벌기의 생활이 새벽묘가수련을 중심으로 열격 훈련을 할 수 있었는데 하번기는 그러지 못했습니다. 뉴스앤조이 정책기획팀으로 파견되면서 새롭게 주어진 과제들과 기록할 날짜마다 데리고 놓고 지워하는 일들을 보주했습니다. 문주한 가운데에서도 그나마 긴장을 할 수 있었던 것은 그의 경력과 출신이 있었기 때문이었습니다. 스스로 열격 중심을 잡지 못하고, 질책과 견책을 통해 긴장을 유지하는 모습이 경직한 제 모습입니다.
내년에는 좀더 주체적이고 자발적인 수련자로 거듭나도록 노력하겠습니다.

アン・キホン氏が書いた文の一部。「ニュースNジョイ政策企画チームに派遣され、・・・」と記載されている。

ニュースNジョイ初代編集局長ジュー・ジェイル氏の場合、2007年9月6日、「ニュースNジョイは、私たちの共同体をはじめとする教会内部の改革勢力の前衛組織であり、扇動組織に堅実に立つよう活動する」とし「今は『一時的』という札が付いたが、そう遠くない将来、私はニュースNジョイ編集責任者になる」と書いた。アン・キホン氏も2004年5月31日、「派遣と去ることの交差、ニュジョ（ニュースNジョイの略）に派遣されることとなつた」と書いた。ニュースNジョイで勤務することになったことを「派遣」と自ら明らかにしたものだ。

上記の人物らに関して、金剛山統一紀行公示文には、訪問者リストが記載されているが、その中に10人余りのニュースNジョイ記者と従業員らの名前もある。この金剛山旅行公示文には、「私たちの戦闘は、結局は思想戦です。主体的な思想闘争を通して！統一の課業を成し遂げるその日まで求め続ける必要があります」と明かしている。福音による統一ではなく、主体的な思想を通じた統一という異質な主張をしているのだ。当時は、当該告知に対するいかなる反発も反対意見もなかった。

また、過去ニュースNジョイ記者だったイ・スンギュ氏もこの「美しの村」の出身で、この媒体で中枢的役割をしてきて、数年前にC B Sに転職した。彼の離職も「美しの村」の「派遣」だったのか、それもやはり「美しの村」の思想的影響を受けたのか、憶測を呼んでいる。

「美しの村」から見える親北と従北傾向は、ニュースNジョイの報道においても濾過されることはなく表れている。特にイ・スンギュ氏は、過去ニュースNジョイ記者在職時代、北朝鮮の核実験によって全国民が不安に陥っていた当時に電撃訪朝し、「私たちが同族に核を擊つことは決してあり得ない」というタイトルで、まるで北朝鮮当局を代弁するような記事を掲載し、大きな懸念と反発を買うことになった。

この他にもニュースNジョイは全般的にキリスト教に向けては、過酷なほど鋭い定規を突きつけ紛争と葛藤に焦点を合わせるが、北朝鮮の世襲独裁政権については、限りなく穏やかで寛容な報道態度を見せている。

ニュースNジョイは長老会神学大学校のキム・チヨルホン教授に対しても継続的に批判報道をしてきたが、キム教授は「運動圏」出身だが転向した後、社会に浸透している主体思想派組織

を辛辣（しんらつ）に批判し、警戒を呼び掛けている人物である。

一方、ニュースNジョイの報道で悔しい被害を受けたという教会の牧師と信徒らは、このように従北傾向を持つニュースNジョイが長い間キリスト教界に対して攻撃的記事を継続的に掲載してきたという事実に対し、大きな怒りを持っている。ニュースNジョイの指導層と運営実態について多くの情報提供が本紙に寄せられているが、その中にはヤン・ジョン・ジゴン前編集局長が主体思想派の一員であり、国家保安法違反の疑いで解散した統合進歩党の前身である民主労働党所属だったという衝撃的内容もある。ここに本紙は、その内容についてより詳細な事実確認を経て、深層報道を続ける計画だ。

[次回へ>>](#)

[印刷](#)

2018年12月6日14時28分

ニュースNジョイ前編集局長は「N L」、現局長は「幽霊会員」と力ミングアウト

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（2）

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の中政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。さらに、ニュースNジョイの指導者が自身の政治的アイデンティーを告白した際の衝撃的な内容が明らかになった。韓国クリスチャントゥデイによる集中報道第2回（6日付）を紹介する。（前回の記事は[こちら](#)）

*

本紙は5日付の記事で、「教会改革」の旗印を掲げてきた媒体「ニュースNジョイ（News N Joy）」が、実際は主体思想に追従する組織「美しの村」という名の共同体によって、キリスト教への妨害と破壊を目的として韓国キリスト教界に植えられた「細胞組織」との実態を告発した。

しかしニュースNジョイは、このような記事の内容についてまったく反論を提示できずにいる。グ・ゴンヒョ現編集局長は、ニュースNジョイが現在の「美しの村」と何の関係もないかのようなとんでもない的外れな回答をして焦点を曇らせ、煙に巻こうとしたが、ニュースNジョイの関連機関「キリスト教青年アカデミー」には、相変わらずこの「美しの村」の関係者らが主な人事に参与しており、この団体が8日に開催するイベントには、「美しの村」代表のチエ・チョルホ牧師がパネリストとして参加し、ニュースNジョイ出身者の大多数が製作に携わる「美しの村」の新聞の情報をキリスト教青年アカデミーで告知するなど、彼らはいまだに密着した歩みを見せている。

한국교회를 깨우는
독립언론

“뉴스앤조이의 길동무가 되어주세요.”

뉴스앤조이



1년 이전 기사를 검색하기 원하시면 [\[매장\]](#)을 눌러 주세요.

전체 교회 사회 이단 영상 가짜뉴스 팩트체크



ニュースNジョイのホームページ上部に掲載された紹介バナーには「道連れ」（赤下線付きの部分）という言葉が目立つ。同メディアは、他の文書などでも「道連れ」という表現をスローガンのように多く使用するが、これはまた、北朝鮮赤衛隊が体制を称賛鼓舞する歌「青春」に登場する歌詞「偉勲は青春の親しい道連れ」から取ったものか、憶測を呼んでいる。参考記事（韓国語）はこちら。（画像：ニュースNジョイホームページのスクリーンショット）

また、ニュースNジョイと「美しの村」から見えてきた主体思想派の傾向は、その程度で適当にごまかせるレベルではない。さらに、ニュースNジョイと「美しの村」はこれまで一度も、自分たちが見せてきた主体思想派性向について認めたり、反省してこれを非難したりする立場を公式に発表したことがない。

まず、ニュースNジョイのヤン・ジョン・ジゴン前編集局長が自らN L（民族解放民主主義革命派）というアイデンティティーを率直に表した文章を見てみよう。この文章を通して、本紙が以前の記事で述べた通り、ニュースNジョイ前編集局長が主体思想派の一員であり、内乱扇動などの容疑で解散した統合進歩党の前身である民主労働党所属であったという情報提供が事実と確認された。本紙は、ニュースNジョイに関連してこれまで入手した資料を検討する過程でこの事実を発見した。



양정지건
2012년 5월 10일 ·

옛사랑에 대한 글.

1. 시작은 1997년. 처음 이름은 "국민승리21"이었다. 2000년, 내 사랑은 민주노동당이라는 이름으로 세상에 나왔다. 그 때 당원이 되었다.
2. 2004년 난 당에 대한 애정을 그만 두기로 마음 먹었다. 당시 쓴 거친 나의 글. 난 스스로 NL이라 생각했는데 민노당 안에선 PD 같았다.
3. 2007년 대선 정국에서 애정은 없지만 옛정으로 보내던 당비를 끊었다. 법적으로 탈당 처리된 것이다. 사회당에 마음 가기 시작했지만 옛사랑처럼 뜨겁게 타오르진 않았다.
4. 현실 정당 안에 계파가 존재하는 건 당연한 일이다. 현재 통합진보당 안의 계파는 통합민주당의 친노니 친DJ니 하는 계파보다 훨씬 건강하다. 오직 집권 가능성만 보고 이합집산하는 새누리당 계파와는 비교도 안 된다.
5. 비례대표를 경선으로 뽑는 것 역시 보스가 점지하는 방식의 기준 정당에 비해 훨씬 민주적이다. 조중동이 핏대 올리며 물어 놓지만 그들이 지지하는 새누리당 그네 누님은 경선 없이 지목하셨다.

ニュースNジョイ前編集局長ヤン・ジョン・ジゴン氏のフェイスブックの投稿。「私は自分がNLだと思っていたのに民主労働党の中ではPDみたいだった」という内容が特に目立つ。（画像：フェイスブックのスクリーンショット）

ニュースNジョイのヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、2012年に自身のSNSに掲載した「昔の恋人への手紙」という題の記事で「2000年。私の愛は、民主労働党という名前で世に出てきた。その際、党員になった」と明らかにした。彼はまた、自身が数年後に、民主労働党への愛情を断って離党までしたと告白しながらも、その後進である統合進歩党について「現実の政党の中の派閥よりもはるかに健康である」「既存の政党に比べてはるかに民主的である」と肯定的な評価を示した。

統合進歩党は、1997年に国民勝利21という名称で始まり、以後民主労働党時代を経た後、三者合同を通して2012年から統合進歩党という名称で活動してきて、2014年に最終解散となった。国民勝利21の時点から解散当時まで主体思想派NL系列が主導的に参加し、従北論争が絶えなかった。ヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、2000年初めと中盤にニュースNジョイ記者として活動しており、後にニュースNジョイを辞め、その関連機関「大いなる光の世界（ハンビッノリ）」の事務局長を務めたりもした。2016年の初めにニュースNジョイ編集局長に復帰したが、2017年の初め、再び辞めたように見える。

ヤン・ジョン・ジゴン前編集局長は、民主労働党への愛情が冷めるようになった決定的な理由を書いた文で「脱北者の人権」問題についての見解の違いを指摘しつつも、その最も根本的な原因である北朝鮮の政権と体制の問題点については一切口を閉ざした。ヤン・ジョン氏はま

た、ＳＮＳを介して「私は自分がＮＬだと思っていたのに民主労働党の中ではＰＤ（民衆民主革命派）みたいだった」と述べた。

ヤン・ジョン氏は2015年のＳＮＳ投稿で、白頭山を「革命の聖山」と呼ぶこともした。この表現は、白頭山を金日成のいわゆる革命の歴史が始まった山と見ており、金氏一家を「白頭血統」と呼んだことによる。

金日成崇拜が疑似宗教化した主体思想が、北朝鮮のすべての領域と分野で絶対的超法規的な権威を持ったことは周知の事実である。どんな人も、理念も、組織、権威もが主体思想に逆らつては、北朝鮮社会の中で存在できない。キリスト教の信仰も同様で、北朝鮮はオープン・ドアーズが選ぶ世界最悪のクリスチャン迫害国として2002年から2018年まで悪名を連ねている。

ところで、このような北朝鮮の反教会的な、金日成の主体思想と独裁体制を信奉する主体思想派でありながら、同時に自らをクリスチヤンだと主張する勢力の信仰アイデンティティーは何であり、彼らが「教会改革」を叫ぶとすれば、その理由と実体は何なのか？これに対してあるキリスト教界関係者は、北朝鮮が大韓民国赤化の最大の障害を韓国教会であると見ており、これを打破することに重点を置いていると指摘した。実際多くの教会が、ニュースNジョイのためにむしろ教会の対立が酷くなり、宣教にとって障害になっていると訴えている。



뉴스앤조이

2015년 10월 18일 · ●

...

안녕하세요, <뉴스앤조이> 구권효 기자입니다. '왜 작은 교회인가' 기획 두 번째 연재 기사는, 제가 쓴 작은 교회 박람회 참관기입니다. 우리끼리니까 얘기하는 건데요. 저 사실 가나안 성도입니다.

ニュースNジョイ編集局長グ・ゴンヒョ氏がフェイスブックに自分自身を「幽霊会員」だと明らかにした投稿。（画像：フェイスブックのスクリーンショット）

구권호
@mastaqu
뭐든 배울 나이잖아~
가입일: 2010년 11월

트윗	팔로잉	팔로워	마음에 들어요	리스트
343	45	92	3	1

트윗 **트윗과 답글** **미디어**

구권호 @mastaqu · 2016년 3월 17일
Huawei Y6 Quiz event!! huaweievent.co.kr/huawei_y6_quiz/

구권호 @mastaqu · 2012년 3월 20일
탈북 문제는 남북 교류로 해결해야

ニュースNジョイ編集局長グ・グォンヒヨ氏のツイッター。中指を立てる姿をプロフィール写真に設定している。（画像：ツイッターのスクリーンショット）

特にソウルA教会B牧師は、自身の教会にある副牧師がいたが、この副牧師がいつからか「美しいの村」共同体に入ってしまい、教会の青年たちをキリスト青年アカデミーに連れていくようになり、以後、その青年が教会内で多くの混乱を起こし、200人余りに上った青年部がほぼ瓦解（がかい）されるまでに至ったと主張した。あいにくニュースNジョイ現職のグ・グォンヒヨ編集局長（前「福音と状況」記者）は当時、その教会の青年部リーダーだったという。

キリスト教青年アカデミーは、ニュースNジョイが設立した教育機関で、「美しいの村」代表のチエ・チヨルホ牧師が運営委員長、教育委員長を務めた。「美しいの村」所属のアカデミー講師は6・25戦争を「統一戦争」と説明するなど、非常に過激で偏向的な思想を表した。

ニュースNジョイのグ・グォンヒヨ編集局長は2015年、自ら現在教会に通っていないと誇らしげに発言した。彼は当時ニュースNジョイのフェイスブックに掲載したコメントで「内輪同士だから話すのですが。私、実は幽霊会員（カナアン信徒、가나안성도）です」と述べた。ここで、カナアンは「アンカダ（안 나가、直訳すると『行かない』）」を逆に書いたもので、クリスチヤンを自任するが教会に行かない人を呼ぶ用語だ。教会も通わない人が、キリスト教の記者を自任し、教会を改革するというのは理屈が通らない。

あるキリスト教界関係者は、このようなニュースNジョイの歩みについて「神と金日成の両方に仕えることはできない」とし「言論の自由という美名の下、主体思想派の世界観を持って教会を翻弄してはいけない。ニュースNジョイが教会の改革を叫ぶには、まず、これまで見せてきた主体思想派性向について公に徹底的断絶をし悔い改めなければならない」と述べた。

<<前回へ

次回へ>>

印刷

2018年12月7日22時54分

ニュースNジョイ関連の主体思想派団体関係者、韓国軍工作摘発され処罰

「教会改革口実にキリスト教界を扇動」疑惑集中報道（3）

クリスチヤン新聞編集顧問の根田祥一氏が編集長だった2004年、本紙に関する虚偽の情報を日本福音同盟（JEA）に提供した際、主な情報元となった韓国のキリスト教メディア「ニュースNジョイ」。その過激な論調だけでなく、鮮明な親北傾向が韓国のキリスト教界内でたびたび問題視されてきたが、このほど、さまざまな関係資料により、北朝鮮の朝鮮労働党の指導理念である「主体思想」を支持する韓国の政治運動「主体思想派」と密接に関係していることが浮き彫りになった。韓国クリスチャントゥディによる集中報道第3回（7日付）を紹介する。（前回の記事は[こちら](#)）

*

ニュースNジョイと深く関連した主体思想派民族解放戦線（NL）性向の団体「美しの村」共同体の人物が、韓国の軍隊内部で思想工作を繰り広げて摘発され、処罰された事件があったことが確認された。

[단독] 장교·사병 7~8명, 김정일 父子에 충성맹세

조선일보 | 김형원 기자

입력 2011.05.30 03:06 | 수정 2011.05.30 04:11

從北카페(사이버민족방위사령부) 가입한 장병 70여명 내사
일부 "명의도용 당해"



영관급 장교를 포함한 육·해·공군 현역 장교와 사병 70명 정도가 인터넷 종북(從北)카페 '사이버민족방위사령부'에 가입한 것으로 드러났다. 이들 중 공군 중위 강모(29)씨와 육군 소위 박모(23)씨 등 장교 2명과 사병 5~6명은 김정일·김정은 부자(父子)에게 바치는 '충성맹세문'까지 작성한 것으로 확인됐다.

朝鮮日報が当時単独で報道した記事（画像：朝鮮日報のスクリーンショット）

朝鮮日報は2011年、将校を含む陸・海・空軍の現役の将校と兵士70人ほどがインターネット従北カフェ「サイバー民族防衛司令部」に登録し、その一部は金正日・金正恩親子にささげる忠誠宣誓文まで作成した事件を単独報道して大きな波紋を呼んだ（記事〔韓国語〕はこちら）。

ところが本紙は、最近入手した「美しの村」の関連資料を逆追跡した結果、この事件の実体が明らかになった過程の全貌を把握することになった。これは「美しの村」のメンバーが主体思想派の思想を、国家安全保障を担当する軍隊内部でも韓米連合司令部にまで広めたことが摘発され、現役軍人を対象にした大々的な国家保安法違反の疑いで捜査が行われたものだった。

資料によると、「美しの村」のメンバーが軍にまで主体思想派の理念を伝えた歩みは、最終的に「美しの村」の影響によるものと思われる。本紙が報道したニュースNジョイと「美しの村」の深刻な主体思想派の思想が、国家の根幹を脅かすほどであることが、当局の捜査結果を通して実証されたのだ。

2011年の「美しの村」のメンバーであり、韓米連合司令部で約10年間勤務していたソル某氏は、国家保安法違反の容疑で韓国軍機務司令部によって押収搜索と調査を受けた後、拘束起訴された。ソル氏は教会のホームページに掲載した自己紹介文で、「美しの村」代表のチエ・チョルホ牧師が担任牧師だった時代にチエ牧師と初めて会っており、彼との交わりを通して「美しの村」に参与したと明らかにした。

また、他の「美しの村」のメンバーであり、海兵隊中尉だったキム某氏も2011年、国家保安法違反で処罰された。当時の機務司令部によるキム氏への家宅捜索の結果、不穏書籍と文書が多数発見され、キム氏は、同じ部隊の兵士ら10人と北朝鮮を称賛する会を作っていたことが分かった。

これに対して大韓イエス教長老会合同教団のある元総会長は、「現役で服務生活をし、『美しの村』共同体と一緒に生活していくとも従北行為を続けたという点、軍隊という閉鎖された空間においてまで他人に親北理念を伝播したという点、ソル某氏・キム某氏が『サイバー民族防衛司令部』のメンバーであるかどうかは明確に確認されていないが、その関連性に疑いがいく点などは、『美しの村』共同体のメンバーに親北意識、さらには従北意識がどれほど根強く埋め込まれているかをよく見せてくれたことだ」と指摘した。

この事件は、「美しの村」のメンバーが主体思想派の思想を単に自らの共同体の中で共有することを超えて、積極的に外に出て伝播してきたことを示唆している。これをきっかけに、キリスト教界内で大規模な調査を行い、主体思想派の思想を徹底的に取り除かなければならないとの世論が高まる見通しだ。現在本紙には、ニュースNジョイのキリスト青年アカデミーに参加した教会の青年部と宣教団体名簿、同課程修了者の所属教会、団体名簿などが情報提供されている。

北朝鮮人権運動の先頭に立ってきたあるキリスト教界関係者は、「キリスト教を徹底的に抹殺して、教会を破壊する金日成の主体思想を崇拜するということは、深刻な背教行為であり、その影響を受けた人々が教会の中に入ってきて福音メディアを自称して活動するということは、すさまじいキリスト教スキャンダルの事態」と指摘し、「ニュースNジョイと『美しの村』との関連性と、北朝鮮体制と主体思想に対する明確な立場表明を迅速にすることのできないのなら、結局自身らが主体思想派のキリスト教内の細胞組織であることを自認することになる」と述べた。

[<<前回へ](#) [次回へ>>](#)

韓国キリスト教界、本紙と創始者の疑惑解消を再確認

韓国クリスチャントゥデイ記事 日本語訳、原文：교계, 본지와 설립자에 대한 의혹 해소
재확인 (<http://www.christiantoday.co.kr/news/325273>)

イ・デウン記者 dwlee@chtoday.co.kr | 入力 : 2019. 09. 11 22:09

本紙と本紙設立者張在亨牧師の疑惑がすべて解消されたことが韓国的主要教団及び連合機構によって再確認された。

この疑惑は、すでに数年前韓国キリスト教界の決定と世俗法に基づいた判決などを通して事実無根であると終結したが、昨年末ニュースNジョイが本紙を陰湿な攻撃するために偽りの証人と偽りの証拠すら動員し、再点火を試みた。これに対して本紙が法的対応をするために、最近行われた主要な教団や組織の指導者との交流と対話を通して、ニュースNジョイの報道は虚偽であることが判明した。

まず、韓国教会連合（CCIK）が張牧師を異端と規定したとのニュースNジョイ報道について、本紙は CCIK 側に事実確認を要請する公文書を送った。これに対し CCIK は答申し、異端と規定したことはないと明らかにした。

これにとどまらず、CCIK のチェ・グイス事務総長は、韓国長老教総連合会のソン・テソプ代表会長と共に 8月末ロサンゼルスとニューヨークで開催された行事に出席するため、米国を訪問した時、大韓イエス教長老会合福のジャン・シファン総会長とソ・イルクォン事務総長の仲介で張牧師が奉仕する、ワールド・オリベット・アッセンブリー（WOA）本部を訪問し、張牧師と歓談の時間を持った。



▲ (左から順に) 大韓イエス教長老会合福ジャン・シファン総会長、CCIK チェ・グイス事務総長、張在亨牧師、韓国長老教総連合会ソン・テソプ代表会長、同合福ソ・イルクォン事務総長



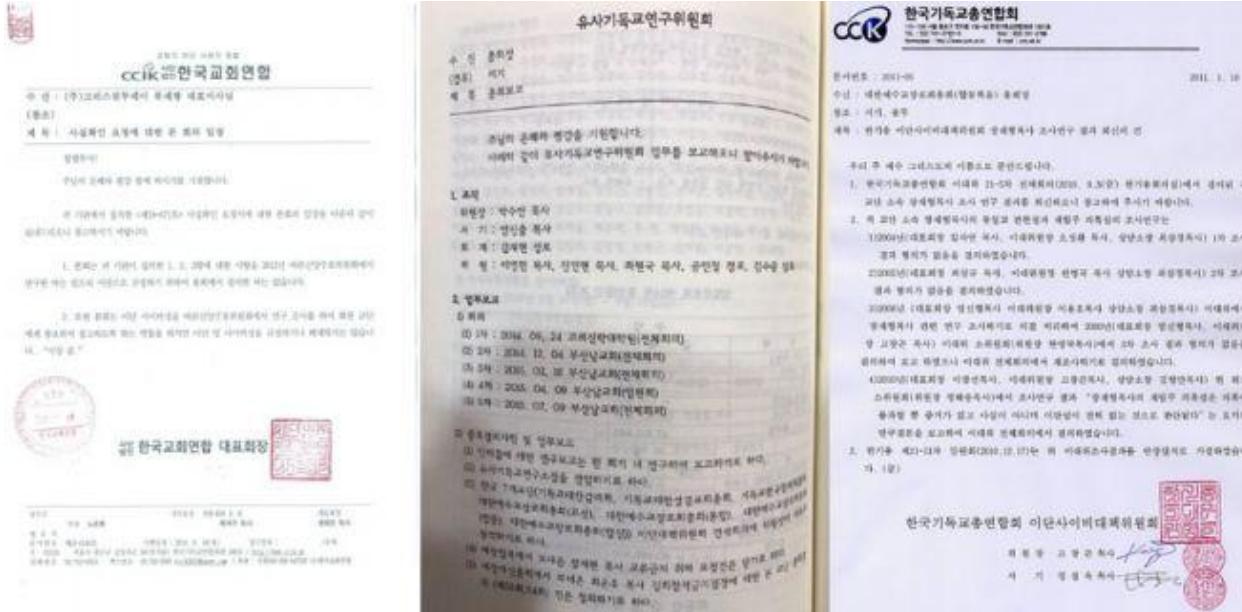
▲張在亨牧師（写真右）が、ワールド・オリベット・アッセンブリー教団を訪問した韓国長老教総連合会ソン・テソプ代表会長（写真中央）とCCIK チェ・グイス事務総長に執務室で自身の働きについて紹介

この席でチェ牧師とソン牧師は張牧師に関連する各種懸案について質疑し、張牧師はこれに率直に答え、自分の信仰を告白するとともに教団の世界宣教の働きを紹介した。これに対しチェ牧師は「WOAの宣教活動が韓国教会の宣教グローバル化をなすために絶対的に必要だ」と高く評価し、（WOAとCCIKの）双方が宣教の次元で交流の継続をすることにした。

また、ニュースNジョイは大韓イエス教長老会高神が張牧師についてはまだ問題視しているのかのように報道したが、事実確認の結果高神は、2015年9月の第65回定期総会で張牧師の所属教団である大韓イエス教長老会合福が送付した張牧師交流禁止取り下げ要求の件を受け入れることにした類似キリスト教研究委員会（当時委員長パク・スマン牧師）の報告をそのまま受け入れ、事案を終結させた。高神教団はこの事実を、同委員会の議事録と総会資料集を通して再度確認させた。

大韓イエス教長老会統合の異端対策委員会は、9月5日に韓国教会百周年記念館で本紙前現職社長が出席する中、対話の場を設けた。統合教団の異端対策委員会が本紙を相手に懇談会を持ったのは今回が初めてであり、この場では非常に意味のある生産的な対話がなされた。統合教団の異端対策委員は、特に本紙には問題がなく、張牧師の再臨主疑惑はすでに解消されたという点を明確にした。

ただし、これらの張牧師の統一教会関連可否について釈明を要求し、これに本紙は韓国基督教総連合会（CCK）が2004年と2005年の2回に渡る綿密な調査を通して「嫌疑なし」とし、現在統一教会といかなる関係もないことを明確に示した資料と張牧師の信仰告白文などを提示した。当時CCKは分裂前であり、異端対策委員会には統合教団から派遣された委員も参加し張牧師も積極的に釈明した。本紙は、統合教団の異端対策委員会が（法廷での）疎明に必要な資料を要求すれば、いつでも提供する方針であることを明らかにして懇談会を終えた。



▲ (左から順に) CCIK の公文書、高神教団総会の報告書、CCK の公文書。

本紙に対するこれと同様の誹謗と疑惑提起は、2009年 K 某牧師が、自分が属している協会の名前で記者会見を開き、再臨主疑惑を悪意を持って提起したことにより触発され、この事案が韓国キリスト教界の葛藤と分裂に政治的に利用され、本紙に大きな被害を与えた。

これは、最終的に教会法的にまた、世俗法的に真実が明らかになり誹謗者らが処罰を受けて終結したが、最近ニュース N ジョイがこれ歪曲し、再び本紙を誹謗した。しかし、今回このように韓国的主要な教団と連合機構が疑惑が終結したことを公式文書などを通して事実確認されたことにより、当該事案の終結が再確認された。

キリスト教の一教派であるオリベット・アッセンブリーについて

2019年10月18日金曜日

井手北斗

最近静岡の研修施設をワールド・オリベット・アッセンブリーの資金援助によって日本オリベットセンターとして購入することができることになり、あいのひかり教団（英名 Olivet Assembly Japan）の教団本部兼、神学校（将来）兼、修養会場（恵みシャレー軽井沢のようなところ）として使うようになりました。

どっからそんなお金が出てくるんだ？と思われる人が多いようですが、故ラルフ・ウィンター教授の助言を元に張在亨牧師が設立したオリベット大学にはMBA（経営学修士）のコースがあります。

これは私利私欲のためや自己実現のために世俗的な金儲けや事業の成功を目的とするビジネスマンや経営者を養成するための学部ではなく、ビジネスを通して商品やサービスと同時に利益を生み出し、生産された商品を一部教会や宣教に従事する献身者に寄贈し、また、サービスを無料で提供し、そしてさらに利益の一部を献金することで「副次的に世俗社会に役立つ製品やサービスを提供することで利益を上げると同時に社会貢献しつつも、製品やサービスの無料提供や献金を通してキリスト教宣教に貢献することを第一義の存在目的とする企業の経営者」を多数育成し、若くて先進的な技術に明るく、起業家精神あふれる人材を訓練し、宣教のために送り出すことを目的とした学部です。

その経営学部を卒業した学生たちが多数コストがかからないネット起業をして、もちろんほとんどは事業に失敗するわけですが、コストが掛からないので無傷で再挑戦がすぐにできますから、何年かすると成功する事業も出てくるわけです。その成功したベンチャー企業にオリベット大学を卒業した人たちがわっと入ってきて「キリスト教宣教のために心を一つにして」ビジネスをし、生産した商品やサービスを無料で教会に提供し、有料で世俗社会に提供し、利益の一部は献金して、オリベット大学神学部を卒業して牧師になった人たちによって構成された教会が集まってできた教団であるオリベットアッセンブリーの宣教に貢献してきたということです。

成功要因は

- 1) 宣教のために貢献するという起業のビジョンに賛同する献身者だけが集まつこと
- 2) 情報技術の発達によって起業にかかるコストが0になる時代であり失敗してもダメージなしで再チャレンジできること

3) 経営のプロである経営学の先達をオリベット大学という教育と訓練の場に呼んで、神学者と経営学者が宣教のために協力し、学生に徹底的に経営と神学を学ばせ訓練したこと

4) これらの相乗効果を計画的に見込んで大学、教会、企業という連携関係を構築したこと

これら4点が挙げられると思います。日本でも相乗効果を狙って产学官連携を盛んに宣伝するではありませんか。[1][2][3]オリベットがやったのはいわば産業・官庁・学問の連携の代わりにキリスト教起業家の経営する産業（産）・キリスト教宣教のために存在する神学と神学以外の宣教のための実学を教育訓練する大学（学）・教会や教団（教）の連携、造語すれば「产学教連携」を実現させたことになります。

お金の話が出たのでオリベット大学経営学部の話題になりましたが、オリベット大学において一番大事な学部は神学部です。神学の中でも宣教学はもっとも重要な分野の一つとして捉えられています。もちろん、聖書神学、組織神学、歴史神学なども当然重要な学問として学びます。ただ、神学部の学生だけが神学を学ぶのではなく、神学部以外の実学を学ぶすべての学生が必須科目として神学の単位を相当数取ることが義務となっています。それはオリベット大学という大学が、神学を学ぶ人は伝道と牧会によってキリスト教宣教に貢献する献身者として派遣され、実学と神学を学ぶ者は実学に裏付けられたプロフェッショナルな技能や職能によってキリスト教宣教に貢献する献身者として派遣されるというラルフ・ウィンター教授直伝の実践的宣教学を基礎にし、これを大学レベルの教育と職業訓練に昇華・適応させた大学だからです。

情報技術専攻の人、グラフィックデザイン専攻の人、音楽専攻の人、教育学専攻の人、言語学専攻の人、農学専攻の人、都市工学専攻の人、建築学専攻の人、ジャーナリズム専攻の人、いろいろな専門分野はありますが、全員神学は必須科目であり、職能を生かして全員キリスト教宣教のために奉仕する献身者となることを前提に入学する大学だということです。

プリンストンやハーバードなどの大学には確かに神学校や神学部があります。しかし、神学部以外の学生がキリスト教宣教のために一生を捧げる召命を受けた献身者でしょうか？そのために工学や経営学と一緒に必須な学問として神学を学ぶでしょうか？卒業後それら実学の学徒の全員がキリスト教宣教のために奉仕者として派遣されるでしょうか？むしろプリンストンもハーバードも「教会の子」と呼ばれ牧師を養成することを第一義の目的として設立され、存在していたのにいつの間にか世俗的な学問の追求を目的とした機関になってしまったのではないか？と存命中のラルフ・ウィンター教授は語っていました。そして講演の中でオリベット大学の学生や教職に問い合わせました「大学とは何か？」と。僕もその場に座ってその問い合わせを直接耳にし、自分が今学んでいる大学は何かを再確認する機会となりました。[4]

フラーやゴードン・コンウェルは素晴らしい神学校です。学校を卒業する人たちはキリスト教宣教に貢献する献身者となることが前提となっています。しかし、伝道や牧会の現場で情報技術や建築などの実践的な技能を持った献身者が万全のサポート体制を作つて支えてくれたら総合病院の心臓外科医が心臓の手術だけに専念するように、使徒たちが7名の執事を任命して自分たちは御言葉の奉仕に専念したように、シラスとテモテがマケドニアから下ってきた後のパ

ウロのように、牧師や宣教師は伝道と牧会だけに集中することができるのではないでしょうか？パウロの自立宣教が悪いというわけではありません。環境や事情によってやむを得ない場合があるのは確かでしょう。しかし、逆に分業による効率化が悪いとも聖書には書いてありませんし、むしろ肯定的に書いてあるのではないですか？

オリベット大学はまた、オリベット・アッセンブリーという教派の教派神学校でもあります。オリベット・アッセンブリーもオリベット大学も世界宣教のビジョンを共有しています。「产学教連携」の他、オリベット・アッセンブリーの世界宣教の特徴として挙げができるものがあるとすれば「仕える本部主導の都市拠点宣教」でしょう。仕える本部というのは支配する本部の対義語です。仕える者が主人であるとの言葉に従い、開拓教会が必要とする人的・金銭的・技術的な資源をできるかぎり支援し、祈り、支え、励まし、慰める本部的な場所、宣教の現場から帰ってきて充電できる場所、ペテロにとってのエルサレム教会、パウロにとってのアンティオキア教会のような場所を本部だと定義しましょう。

世界宣教を本当に世界規模で実行した人たちの歴史を見れば、世界宣教の本部とはイエズス会にとってかつてはjesus教会であり現在の総本部(General Curia of the Jesuits)[5]であり、18世紀ドイツのモラヴィア兄弟団にとってのヘルンフート (Herrnhut / ドイツ語で主の守りの意) であり[6]、アメリカの南部バプテスト連盟の国際伝道局 (International Mission Board)[7]であり、同様にオリベット・アッセンブリーという教派にとってはワールド・オリベット・アッセンブリー (WOA) の世界本部 (Headquarter / HQ) [8]に相当します。イエズス会も南部バプテスト連盟も WOA も世界本部は各大陸を枝としています。

WOA の場合は世界本部が各大陸のオリベット・アッセンブリーに仕え、各大陸のオリベット・アッセンブリーは大陸の本部として機能し、その大陸にある国のオリベット・アッセンブリーに仕え、その国のオリベット・アッセンブリーは各都市の教会での開拓、学校教育、医療や保育などの社会福祉活動、キリスト教宣教を第一義とする起業と事業経営などを行って、それぞれ財政や意思決定における独立を保ちながら救済のために協力するというビジョンがあります。もちろん都市によっては小さな賃貸の開拓教会だけが存在する場所もありますし、1000人が入る教会堂のある都市もあれば、大学のキャンパスがある都市もありますが、基本的には郊外の本部と都市の宣教拠点に分かれて連携しています。日本オリベットセンターの役割は、オリベット・アッセンブリーという福音主義のキリスト教の一教派の献身者が日本の各都市で行う開拓伝道を国の本部として、修養会の会場や教育機関として、物心両面で彼らをサポートすることです。

組織神学（キリスト教思想史）とジャーナリズム学の他に行政学を専攻した張在亨牧師は国家行政の改善や分析研究のために用いられる各種の行政学的手法や行政学的概念を世界宣教を実行する組織の組み立てのために役立てようとした。[9]世界本部と各大陸、大陸本部と国の本部、などの仕事の進め方や関係の作り方を議論する際に行政学における「スタッフとライン」の概念などを用いて世俗社会の行政における官僚主義や縦割りの弊害などの失敗例を反面教師とし、逆にニュー・パブリック・マネジメント (NPM) による成功例などは積極的に学ぶこと

を通して世俗の実学である行政学で得た見地を生かすことで、現在の WOA のネットワークの枠となるものを準備しました。

別にこれしか方法がないとか、他の方法は悪いとか主張するのが僕の目的ではありません。いろんな方法があって良いと思いますし、キリスト教界の多様性は肯定されるべきであり、否定されてはいけないと思います。ただ、ラルフ・ウィンター教授は何をしたかったのか、張在亨牧師はオリベット大学を何のために設立し、オリベット・アッセンブリーは何のために存在して、その教派の教会の献身者たちはどんな夢を持ってどんな奉仕をしていて、どんな組織形態で、どこから金が出ているのか？

知つてみると皆さんを通つてらっしゃる教会や世界の他の宣教組織と同じく、イエス・キリストによる救いを伝えているだけなのです。新しい時代という新しいぶどう酒があれば、それに合わせて入れ物である組織も新しい形態と効率的な運営法を持ち得ると思います。(マルコ 2:22)この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子らよりも抜けめがないものなので行政学も情報技術も不正の富となり得るのではないか？(ルカ 16:8-9)そのようにしてできた WOA が立つか倒れるか、義である天の父なる神様がなさるがままに任せてみてはいかがでしょう。

どのような方法であるにせよイエス・キリストの十字架と復活による罪の贖いと救いが宣べ伝えられるよう努める責任がクリスチャンには誰にでもあり、オリベット大学の教職も学生も、設立者の張在亨牧師も、設立するよう指導したラルフ・ウィンター教授も、皆一人のクリスチャンとして一人の福音主義者として、ウィリアム・ケアリー、ドワイト・ムーディー、デイヴィッド・リヴィングストンなどの先人が夢見たのと同じ世界宣教の夢を共有し、そのために祈り、大宣教命令の召命に対する個人の応答として、各人にできる最善を尽くしているだけなのです。

あなたはどう読み、どう応答しますか？

イエスは近づいて来て、彼らにこう言わされた。「わたしには天においても、地においても、いつさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」マタイ 28 章 18 から 20 節

参考文献

[1]原山優子「産学官連携とは？」産学官連携ジャーナル 2005 年 7 月号
https://sangakukan.jst.go.jp/journal/journal_contents/2005/07/articles/0507-09/0507-09_article.html

[2]文部科学省科 学技術・学術審議会技術・研究基盤部会・研究基盤部会 答申 資料 4 新時代の産学官連携の構築に向けて（審議のまとめ）「産学官連携の意義」2003 年 4 月 28 日
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu8/toushin/attach/1332039.htm

[3]経済産業省、文部科学省 共同開催 理工系人材育成に関する産学官円卓会議「理工系人材育成に関する産学官行動計画」2016年8月2日
<https://www.meti.go.jp/press/2016/08/20160802001/20160802001-1.pdf>

[4]古屋安雄「大学の神学的理念と課題」日本の神学32号1993年

https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihonnoshingaku1962/1993/32/1993_32_7/_pdf

[5]イエズス会総本部「協議会」

<https://sjcuria.global/en/general-council>

[6]相賀昇「ベルリン便り5 境界と相克を越える敬虔—ツィンツェンドルフ伯の生誕三百年を覚えて」福音と世界 2000年8月

<http://www015.upp.so-net.ne.jp/tsuzukich/sekkyou/berlin2.htm>

[7]米国南部バプテスト連盟国際伝道局「人々と各地域」

<https://www.imb.org/people-and-places/>

[8]ワールド・オリベット・アッセンブリー「会員」

<https://worldolivet.org/members>

[9]今里滋「アメリカ行政学の回顧的展望：事例研究と組織研究」法政研究. 63 (3/4), pp.417-490, 1997年3月21日九州大学法政学会

https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2074/KJ00000692697-00001.pdf

CHRISTIAN TODAY

Official Blog

キリスト教ニュースサイト「クリスチャントゥデイ」の公式ブログ

2019年12月25日水曜日

救いの証し、召命、献身 井手北斗



「以前、クリスチャントゥデイの記者をしていた。編集長だった宮村武夫先生の孫弟子でもある。宮村先生の後を継いで編集長になってくれませんか」

オファーをもらってからしばらく考え、祈った末、「あれは、このために神様が働かれた形跡だったのではないか」と思い当たる出来事が幾つか心の中に浮かんできました。その幾つかの出来事を通して、神様がこの道に自分を召し出しておられるのではないかと思うようになり、12月から編集長として働かせていただくことになりました。

新しくクリスチャントゥデイの編集長になったこの無名の若者を見て、「この人誰?何者?」と思う人もいるでしょうから、この機会に僕の証しを分かち合いたいと思います。自分の人生は、だいたい3分の1は過ぎたころだと思います。生まれる前から今まで、神様が自分に何をなしてくださったのか、振り返る機会にしたいと思います。長文ではありますが、興味のある人は一読いただければ感謝です。

「さあ、神を恐れる者は、みな聞け。神が私のたましいになさったことを語ろう」（詩篇66篇16節）

先の者

まず僕の救いの証しをします。自分は後から来た者に過ぎないのに、なぜか先に救いにあずかることになったと感じざるを得ません。僕にとっての「先の者」は母でした。母は大学時代、下宿先からバプテスト派の宣教師が開いていた英語教室に通い、聖書をテキストにして英語を学んでいました。母はイエス様の愛の教えに感動し、イエス様のように隣人を愛して生きる生き方を選びたいと願ったと言います。しかし、復活を信じることができず、クリスチヤンにはなりませんでした。

その後、教師となった母は駆け出しの時、大学時代とは別のバプテスト教会の会員である先輩教師の方にたくさん世話をねたと聞きます。その教会には幼稚園もあり、母が勤める小学校に入学してきた卒園生を、母が受け持つこともあったそうです。教師時代の母は、他の先生方がさじを投げた子どもたちを一手に引き受け、崩壊したクラスを次々に立て直していました。ヤクザも多くいた地域で、警察沙汰になる子どもたちも多くいました。いろいろな問題を抱える家庭を訪問しに行く母の姿を見ながら、幼いながらに「どこからそんなパワーが湧いてくるのだろう?」と不思議に思っていました。今考えると、イエス様が教えた隣人愛は、母の人生において、愛することが困難なときに愛を実践する動機や原動力となったのではないかと思います。

私利私欲のない愛による教育を通して、母は人の人生を変える神様の業に用いられていたのでした。教育とは無関係なエンジニアだった父まで感化され、教育による世直しを唱えて教師に転職するほどでした。母の苦労を間近で見ていたため、マタイの福音書20章にある、朝早くからぶどう園で働いた農夫の姿、「先の者」を重ね見てしまいます。そのような背景もあって、母はキリスト教に対して、僕が生まれた後も肯定的な印象を継続して持っていました。両親は僕が生まれたとき、昔の旅人が星を頼りに方角を知ったように、人の役に立つ者になってほしいと願って北斗と名付けました。事あるごとに、世の中の役に立つ、人の役に立つ人になるように教えられてきました。また、両親は実際に世の中の役に立つ仕事をして、自身の背中でそれを見せてきました。それが人として当たり前の生き方だと思って育ちました。

アフリカの飢餓

幼年期の僕の心に残っていることに、嫌いな食べ物でも残さずに食べることを教えるために、両親がアフリカの子どもたちの話をしていたことがあります。アフリカでは食べ物を食べたくても手に入らず、飢えて死ぬ子どもたちもいる。その子たちに比べれば、お腹いっぱい食べることのできる境遇にいる自分が好き嫌いを言うのは贅沢(ぜいたく)なことであり、感謝して全部食べるのが当然。そういうお話です。しかし、ひっかかるものがありました。「人が食べなかった食べ物をその子たちに送れば、その飢えという問題を解決できるではないか?なぜそれをしないで、いらないと思っている人に食べさせようとするのか?」僕はそう考えたのでした。この世界には問題があり、それがなぜか解決されないままでいることを意識させられたときでした。

科学と技術の功罪

小学校の頃、生物の最小単位が細胞であると学び、すごいと思いました。つまり自分も多数の細胞から成り立っているのだと、新しい自己認識に新鮮さを覚えました。もう少し学ぶと、今度は分子や原子が出てきます。なるほど、自分は原子から成り立っているのか。原子が集まってできた自分という新しい自己理解です。そのように自分が何者かという問い、自分はどこから来てどこへ行くのかという問いに、一つずつ詳しい答えを与えてくれるのが、僕にとっての科学でした。科学的に裏打ちされた真理こそ、自分にとっての真理でした。

祖父は自動車の整備士で、幼いころからエンジンの教科書を僕に見せながら、ピストン、シリンダー、燃焼室の仕組みやレシプロエンジンとロータリーエンジンの違いなどを教えてくれました。父は炭鉱の掘削機械の設計士で地元の博物館に行くと、父が設計した巨大なトンネルを掘りつつ壁を作るシールドマシンが展示してありました。子ども心に技術を通して世の中の役に立つのはかっこいいと憧れています。

しかし、科学や技術が常に善に用いられたわけではないことも学びました。『[はだしのゲン](#)』です。当時最先端の物理学と技術がもたらしたのが原爆投下という惨劇であり、それに続く核戦争と隣り合わせの偽りの平和でした。読むたびに恐ろしく、悲しく、この世界には問題があり、それがなぜか解決されない今までいることを再び意識させられたのでした。

科学の壁

高校に入ると、生物、化学、物理はもっと詳しく自分を成り立たせている事柄を学ばせてくれました。学校の勉強はある程度にして、休み時間には図書館で日経サイエンスを読み、最新の科学的発見に目を輝かせていました。また、物理学について他よりもっと関心が深まり、素粒子物理学、量子物理学、相対論、宇宙論、超ひも理論などの入門書を読みました。原子よりもっと基本的な自分の構成要素を知ろうとし、またそれを生み出した契機、ビッグバンについて知ろうとしました。しかし結局のところ、自分は何者で、どこから来てどこへ行くのか、この問い合わせへの答えは見つかりませんでした。最先端の物理学の概要を知ることで、科学が答えられることの限界という壁に突き当たったのでした。

ディラックの熱弁

ただ、その中で2冊の本に出会います。1冊がヴェルナー・ハイゼンベルクの『[部分と全体](#)』です。特に印象に残ったのは、1927年の第5回ソルベー会議で、僕が尊敬してやまなかつたアインシュタイン、プランク、パウリ、ハイゼンベルク、ディラックなどの現代物理学の巨頭たちが、なぜか僕が今まで見向きもせず関心もなかつた宗教と神について議論し、その会話をハイゼンベルクが記録していました。いろいろな意見が出ましたが、自分にしつくりきたのはポール・ディラックの意見でした。彼は熱弁し、神が人間の想像上の産物であり、宗教は支配階級が非支配階級をだますために用いたまやかしの夢であり、不必要であり悪であるというものでした。ただ、その熱弁が、当時カトリックだ

ったヴォルフガング・パウリによる「我々の友人ディラックは一つの宗教を持っている。その導く原理は『神はない。そしてポール・ディラックがその預言者だ』」の一言で皆の笑いものになってしまいます。

なぜ、真剣に誠実に自分の意見を語ったディラックが、皆から笑われなければならないのか、その時は理解できず、置いてきぼりを食らったような感じを受けました。それと同時に、決して交差することのないはずだった科学と宗教が、なぜか科学の最高峰の会議で交差していたことに驚きました。

進路

もう1冊がロビン・ハーマンの『核融合の政治史』でした。この本は、自分の進路選択に決定的な影響を及ぼすことになりました。原子力科学はそれがいくら平和利用を叫ぼうとも、核廃棄物や事故の危険性を考えれば受け入れがたいものでした。それは僕にとって、『はだしのゲン』の恐ろしい記憶がこびりついた学問でした。

核分裂は、ウランやプルトニウムなどの重い元素が分裂するときに膨大なエネルギーが放出されるものです。これとは反対に、三重水素や重水素などの軽い元素が融合するときに膨大なエネルギーを放出する反応が、核融合と呼ばれています。太陽をはじめとする恒星の中では、星が誕生したその時から核融合反応が起きています。そして太陽系においては、太陽から安全な距離にある地球に、その光と熱が毎日届けられ、人をはじめとする生命を育んでいます。星の中では、正の電荷を持った原子核同士の反発力を星の巨大な重力が抑えて原子核を近付け、融合させます。その重力を超電導磁石の強力な磁場で再現し、真空の容器の中で核融合を起こさせ、放出された熱エネルギーを取り出してタービンを回すというのが核融合発電です。

解決策の発見

核分裂は簡単に起こりすぎて止めるのが非常に大変ですが、核融合はその逆で起こすのも継続させるのも非常に難しく、ちょっとのことで反応が止まってしまいます。核分裂の廃棄物は毒性が高く、量も多く、種類も多様で、半減期も非常に長いのですが、核融合の廃棄物は毒性が低く、量は少なく、半減期も短いと書かれていました（現在では異論があります）。また、燃料は海水中に含まれるリチウムから取り出せるので、安価で無限に近くあります。このような科学があると知り、僕はこれだと思いました。自分の好きな物理学を応用することで、無限のエネルギーを作り出す技術の完成に貢献できるのです。

『核融合の政治史』には、国際熱核融合実験炉計画というものが紹介されており、日本・EU・ロシア・米国・韓国・中国・インドが参加しています。過去の世界大戦で互いに戦い、現在も核兵器で互いに威嚇（いかく）し合う国家が互いに予算を持ち寄り、国籍の異なる科学者や技術者らが協力して世界のエネルギー問題を終わらせようと努力している。国際的な仕事場で働いてみたい。こんな素晴らしい仕事は他にはない。そう思いました。この世界には問題があり、それがなぜか解決されないまままでいることに終止符を打つ解決策の一つになると。九州大学工学部は、父の出身大学・学部であり、原子炉物理及び核融

合理工学研究室があります。夢を持った僕は、九州大学工学部に出願しました。

挫折

九州大学の入試当日、数学の試験で頭が真っ白になりました。合否発表がなくても、はっきりと落ちたことが分かりました。一方、キリスト教に対し良い思いを抱いていた母は、僕に黙って国際基督教大学（ICU）にも出願していたのでした。ICUには工学部もなく、行く気はありませんでしたが、やむなく試験を受けると、受かってしまいました。浪人するわけにもいかず、ずっと理系でやってきたのになぜか文系の大学に行くことになりました。入学式の時に撮った写真には、夢破れ、人生の目標を喪失してがっかりした表情の自分が写っています。将来自分の人生がどうなるのか、見当がつかないでいました。

キリスト教との出会い

ICUにはキリスト教概論という授業があり、必須科目でした。当時のキリスト教概論は並木浩一先生が担当されていました。キリスト教に対しては、高校の頃から持っていた偏見の眼差しがありました。キリスト教概論の授業を通してその偏見に割れ目が生じました。キリスト教とは自分が思っていたような単純なものではない、何かもっと深いものがある。そう感じました。キリスト教について関心を持ち始めるようになりました。授業で学んだことはほとんど忘れていましたが、十数年ぶりに、授業で配布されたプリント類を探してみると、自分が書いた文字や図でびっしり埋まったキリスト教概論のプリント類が出てきました。キリスト教について何かを学び取ろうとしていた当時の自分に不意に向き合うことになり、「17年後の自分よ、まだこの情熱を持っているのか?」と問われたようにも感じました。「情熱くらいしか取り柄がないよ」と答えるしかありません。

東京ソフィア教会

大学生活も1年が終わり、2年生の新学期が始まる前の2004年、春休みに地元に帰省しました。その帰省の途上、韓國の大韓イエス教長老会合同福音教団（以下、合同福音）から派遣された宣教師と、その宣教師たちが開拓していた教会に通う日本人信徒が路傍伝道している場面に出会いました。「聖書を学んでみたいですか？」と聞かれ、大学で学んでいるので興味があると答えると、近くにあったその開拓教会に行き、入門者の学びを受けました。その時は、聖書の最初の書である創世記の1章の1節から、神様による天地の創造について聞きました。ただ、この頃の自分はまだ科学的真理が何よりも確実で有効な真理だと確信していたところもあり、またディラックの主張の通りを信じる無神論者でしたので、ことごとく反発し、反論し、詰問するような態度でした。学びが終わって夕方になりました。敵対的な態度をとっていた初対面の僕を、教会の人たちは「一緒にご飯を食べていきませんか」と誘ってくれ、温かい交わりに加えてもらいました。

その後、実家に帰ろうとしたとき、次はいつ来られるのかと聞かれたので、実家から東京に戻るときに、途中でまた寄ることにしました。その教会に再び行ったとき、東京に行く僕に、池袋で開拓をしている別の教会を紹介し、連絡先を書いた紙を手渡してくれました。東京に戻った後、紹介されて行った池袋の教会でも同じように聖書の話を一度聞きました。

その教会は、早稲田にあった東京ソフィア教会の枝教会であったため、そちらに通うことを勧められました。当時、合同福音の宣教師らは土地も建物もない中で、ビルの一室やアパートの一室を借りて、それを教会として、伝道していました。そのような教会が、日本に数カ所あったのを記憶しています。東京ソフィア教会はそのような開拓教会のうちの一つでした。そして、その東京ソフィア教会に初めて行き、ドアを開けて目に入ってきたのが、現社長の矢田喬大が掃除をしている姿でした。矢田は当時、千葉に在住していましたが、日曜日の礼拝は東京ソフィア教会に来ていました。同じ年で、教会に来始めた時期も似ていたため僕たちは友だちになり、親しくなりました。

救い

僕は、東京ソフィア教会で本格的な聖書の学びをし、創世記、出エジプト記、ヨシュア記、ヨブ記、ヨナ書、福音書、使徒の働き、ローマ書、ガラテヤ書、第一・第二コリント、ピレモン書などを学びました。興味があるものや好きなことには極端に集中する性分なので、頻繁に教会に行って学んでいました。また、聖書を自分で読むことも推奨されたので、ヨハネの福音書やヨブ記を一人で最初から最後まで読むことなどもしていました。教会の窓際の角の椅子に座っていつも聖書を読んでいました。

自分の中で大きなテーマだった、解決されないでいる世界の問題や科学的真理の絶対性、善と惡の問題を、聖書はどのように扱っているのかを最初は注目していましたが、肩透かしをくらいました。絶対的な真理である方、つまり神は愛だというのです。自分が人間であり、社会的存在である以上、人間関係の中で生き、喜びや悲しみを共有して共に生きていくことを必要としていることは、自分が自分で感じるので否定できません。つまり、自分が愛し、愛されることを根源的に願っていることは自覚しているので、「絶対的な真理、神は愛」という聖書の教えは、今までよりどころにしてきた科学的真理とはまったく似つかぬものでしたが、否定できないのです。

また、完全に利他的になること、完全に善であること、そのように人を愛することが自分には無理なこともすでに分かっていました。しかし、聖書は言います。完全に善であり、愛である方が、自分を含めた全人類を愛するために、創造し、今も愛していると。そのような完全な神の愛で自分が満たされるとき、隣人を同じように愛することができる。だが、その神の愛をどうやって罪深い人間が知ることができるのか？人間の力ではそれはできない。しかし、その神の愛を、イエス・キリストがこの地上に来られ、言葉と行いで示し、最後には十字架上の死をもって示された。まだ自分が罪人であったときに、イエス・キリストが自分の罪のために死んでくださったことにより、神様がその愛を明らかにされた。神様はご自分の御子をお与えになるほどに、この世界を愛された。それは僕を含め、イエス・キリストを信じる者が一人として滅びることなく、永遠のいのちを得るためだった。

イエス様は、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、隣人を自分のように愛しなさいと教えられました。また、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とし、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい、とおっしゃいました。もしクリスチャンと呼ばれる人たちがこのような教えを、あらゆる国の

人々に教えるなら、世界の解決されていない問題は解決されるだろう。どんなに強力な科学技術があっても、それを使う人の心次第で、剣にも鋤（すき）にもなる。ならば、科学技術の発展に先立って、まずは人の心から変わっていく必要があるのではないか？ そう思ったのです。

ただ、口だけでそう言っていたなら、僕の心は動かなかつたでしょう。東京ソフィア教会の人たち、合同福音の人たちは、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神様を愛そうとしていました。また、隣人を自分のように愛そうとしていました。そして、その教えを全世界の人に伝える者の一人であろうとしていました。共に教会にいながら、聖書を学ぶだけではなく、彼らの生き方を観察して、口だけではなく、実行しているのを見て、これは本物だと思ったのです。そして、クリスチヤンが皆で、イエス様の教えたような愛で愛し合う共同体をつくっていくのなら、自分もそれに属して一生を過ごしたい。この働きに参加したい。そう思ったのです。2004年7月1日、僕はイエス・キリストが自分の罪を贖（あがな）い、十字架にかかり、死なれ、3日後に復活され、死に打ち勝たれたことを信じ、イエス・キリストを僕の救い主として受け入れ、救われました。これが僕の信仰告白です。

張在亨牧師

東京ソフィア教会で開拓していた宣教師の派遣元である合同福音は、当時、中国や米国などの数カ国に宣教師を派遣し、教会開拓をしていました。合同福音の総会長をしていました張在亨（ジャン・ジェヒヨン）牧師は、僕が後に留学先でも非常にお世話になる先生で、当時は派遣先の開拓教会を訪問し、礼拝で説教するだけでなく、伝道や牧会、信仰生活について相談に乗ったり、助言をしたりしていました。一言で言えば、メンタリングをしていたということです。僕も張牧師の説教を聞いたり、信仰について相談して助言をもらったりしていました。東京ソフィア教会以外の他の都市の開拓教会の人たちも来て助言を受けていました。張牧師の教えたことは、イエス・キリストの十字架によって人は罪を贖われ、救われること。イエス・キリストの十字架は失敗ではなく、勝利であったこと。そして救いを受けたクリスチヤンとして、大宣教命令に従い、世界宣教の夢を見て福音を世界の果てにまで伝えていこうということ。伝道とは自分の救いの証しを紹介することであること。さまざまな教派や教団があっても、教会はキリストのからだだから互いに尊重し、宣教のために互いの重荷を負い合っていこうということ。次世代の宣教に必要なのはメディアと情報技術をよく理解した伝道者の養成であること。キリスト教主義の大学やキリスト教のメディアは、福音宣教に寄与することを第一義にして存在しなければならないこと、でした。僕から見た張牧師は福音主義に立ち、聖書信仰を持つ一人の牧師であり、神学者であり、世界宣教の夢を見て語る一人のクリスチヤンでした。

キャンパス伝道とACM

イエス・キリストを自分の救い主として受け入れ、クリスチヤンになった僕は、大学でキャンパス伝道を始めました。東京ソフィア教会では路傍伝道は普通にされていましたし、僕もクリスチヤンなら伝道するのが普通だろうと思っていたからです。自分だけこの良い知らせを持って、他の人たちに知らせないでおくことなどできませんでした。自分にして

もらったことを、そのまま大学のキャンパス内で実行しました。休み時間にキャンパス内を歩き回り、出会った学生に聖書に興味はないかと聞いてみました。興味があると答えた学生とは、互いの授業のない時間を選んで調整し、ICUのキリスト教図書室で共に聖書を読んで学びました。当時ICU教会の副牧師だった北原葉子先生が、キリスト教図書室で聖書の学びをする許可をくださったのは感謝なことでした。

しかし、ICUのキャンパス内で伝道していると、ICUの宗教主任兼ICU教会牧師だった永田竹司先生に呼ばれて、キャンパス内で伝道してはいけないと言われました。聖書にはイエス様がガリラヤ湖の湖畔で伝道し、ペテロやヨハネなどの弟子を信仰に導かれたのに、なぜ伝道してはいけないのですかと聞きました。すると、それは2千年前のイスラエルという当時の歴史的・地理的背景があったことだからあり得ることであり、現代の日本で同じことをやると宗教の押しつけになるよと言われ、「君の聖書理解は原理主義だね」とも言われました。当時の僕はクリスチヤンになり立てで、何を言われているかその時は分からなかったのですが、自由主義神学的な観点からの話だったのかと今では思います。

その後、永田先生の考え方を学ぼうと思い、永田先生の新約聖書の授業を取って、授業内でもいろいろ議論しました。使徒の働きで、エチオピアの宦官（かんがん）がイザヤ書53章の話をピリポとしますが、それがイエスの話とは言い切れないとか、新約聖書学者の田川建三はこう言っているとか、永田先生はそのように説明していました。それに対して僕は、それは明らかにイエス・キリストのことを指しているでしょうと食ってかかって、白熱した議論になったこともあります。そして、自由主義神学というものもあることを学びました。しかし、自分の福音主義的な立場が変わることはありませんでした。互いに相容れない立場ながらも、ICU教会の牧師室に遊びに行っていろいろ議論したり、話したりして永田先生とも仲良くなりました。永田先生は学生時代、水泳部に所属しており、僕も水泳を6年間やっていましたため、水泳の話など、キリスト教とはあまり関係のない話もしました。僕は、ICUでは教養学部の理学科でしたが、並木先生のヘブライ語の授業やヨブ記の授業も取り、キリスト教についてもっと学ぼうとしました。並木先生は昼食後、学生有志と教授室でお茶を飲んで話をしていたので、そこにも通つていろいろな話を聞きました。

一方、当時、合同福音の米国の開拓教会に通っていた大学生たちによって始められたアPOSTロス・キャンパス・ミニストリー（ACM）という学生伝道団体の活動を、日本でも本格的に始めようという動きがありました。ACMは、キャンパス・クルセード・フォーライスト（CCC）や韓国の大學生聖書読み宣教会（UBF）のような団体です。僕は、ICUではキリスト者学生会（KGK）の集まりにも時折参加していました。しかし、KGKは学内でノンクリスチヤンの学生を伝道するというよりは、むしろクリスチヤンの学生が交流し、聖書研究と祈りの時間を持つことが活動の主眼でした。そのため、日本でもACMを立ち上げ、キャンパスでの積極的な伝道をしたいと願うようになりました。米国のACMのサイトを翻訳したり、日本語のコンテンツを探してきてサイトに入れたりし、日本での活動を始める準備を進めました。当時、同じ年の大学生で千葉にいた矢田や、仙台にいた現副編集長の内田周作にも、ACMをしようと声掛けました。

しかし先に述べたように、僕の当時の伝道スタイルはICUの雰囲気になじまず、キャン

バス内での学生伝道は難しくなりました。ACMもサークル登録をしようとしましたができず、結局 ACM は日本では実際的な活動はできず、当時のウェブサイトもその後閉鎖しました。

クリスチャンとして世間を知る

またある日、並木先生に牧師になりたいと言って、進路相談をしてもらったことがありました。並木先生は、すぐに献身者になるよりも、まずは社会経験を積んでおいた方が良いと助言してくださいり、在学中でも何か仕事をしてみようと思って人材派遣会社に登録しました。惣菜工場、携帯電話の請求書の袋詰め、解体工事、家具運送の助手、ブラジル産冷凍鶏肉20キロの袋が満載のコンテナトラックの荷降ろしを一日中やる仕事、コンビニのレジ、物流倉庫の棚卸しなど、いろいろな職場を経験しました。

医療系の専門書を印刷している工場で働いたときには、表紙が少し切れているだけで、定価数万円もする本がボンボン捨てられているのを見てショックを受けました。その職場には年の近い同僚がいて、僕がICUの学生だと言うと、「お前なら出世できるから正社員にならないか」と勧めてきました。仲良くなつたので、別れるのがつらかったのを思い出します。引っ越しの仕事では、夜中まで作業が続いた現場があり、最後に主任から「今日は君が一番仕事した」と言われたのがうれしかった思い出もあります。

コンビニのレジをしたときには、生まれて一度もタバコを吸ったことがないのに、銘柄と棚の場所を覚えることになりました。いつも決まった時間に「わかば」を買いに来るお客様がいて、その人が店に入った瞬間、棚から出してスタンバイしていました。オリジン弁当では、「いらっしゃいませ」のあいさつができるだけ気持ちを込めて言うようにしていました。また、カツを切るときのサクッとした感覚が好きでした。

いろんな人と出会って、世の中の人たちがどんなことを考えて生きているのか、共に働きながら感じることができました。どの現場も、世の中の役に立つ何らかのことをしていました。表では見えないけど、社会の裏舞台でそういうふうに活躍する人がいるおかげで、この便利な生活を享受できることを学びました。クリスチャンも彼らの世話になっているのです。道端を歩いている人を、単なる「伝道の対象」と見るのではなく、この社会が成立し、回っていくのに必要な何かをしてくれている人としても見るようになりました。

クリスチャントゥディ

福音宣教への熱意があるのに状況的にそれができない。そういう時期を過ごしていたら、東京ソフィア教会で会ったことのある高柳泉さん（前社長）がやっているクリスチャントゥディというインターネットのキリスト教新聞を一緒にする人を探していると聞きました。矢田と一緒にその働きをやってみないかと声を掛けられました。僕はもともと物理学が専攻でしたが、クリスチャンになった後は、物理学を学ぶよりももっと福音宣教に役に立つことを学ぼうと思い、専攻を計算機科学に変更していました。ちょうどインターネットの新聞なので、自分の学んでいるIT技術を通して福音宣教に貢献できるのではないかと思いました。大学で学んだことを実際に使うことで腕試しする機会にもなります。こうやっ

て僕と矢田は、2005年からクリスチャントゥディを手伝うようになりました。当時は記事を書いたり、ウェブサイトの技術的な改善をしたりしていました。

当時を振り返って、印象に残っているエピソードを一つ思い出しました。クリスチャントゥディの事務所が御茶ノ水付近にあったころ、JR御茶ノ水駅から事務所に向かって歩いていたときに、ちょうど駅前でオアシス福音センターの人たちが「今から集会をやります」と宣伝していました。それで「クリスチャントゥディの記者ですが、一緒に参加して取材してもいいですか?」と聞いたら、「マスコミが釣れた!」と言って喜んで、会場の御茶ノ水キリストの教会に連れて行かれました。そこで初めて、全盲の牧師である影山範文先生と出会いました。集会の話を夢中でノートパソコンにタイピングしてまとめ、記事になったのが「[オアシス福音センター 創立20周年記念集会を開催](#)」です。普通はイベントの予定を事前に調べ、連絡して取材許可を取り、取材するのですが、この日の取材は駅前での出会いにより即決で決まったものでした。後にも先にもこんな取材はありませんでした。行き当たりばったりでしたが、神様が与えてくださった取材の機会だと信じます。

東京ソフィア教会、ICU教会、TBC

一方、クリスチャントゥディで働く話を受けたころ、もともとそんなに裕福ではなかった東京ソフィア教会の財政状況が悪化し、教会開拓を続けるのが難しくなりました。残念なことですが、教会が解散することになったのです。教会として借りていた早稲田の事務所の一室から、家具を出して掃除し、最後にみんなで輪になって賛美歌を歌ったのが今でも思い出されます。ある人は韓国に帰り、ある人は別の教会に移っていました。

矢田は淀橋教会に、僕はICU教会の礼拝に出るようになりました。ICU教会は英語と日本語のバイリンガルの教会で素晴らしい教会でした。ただ、教会の特徴として、外に出て行って路傍伝道しようというタイプではなかったので、そのような熱い福音派の雰囲気につかっていた自分にはあまり合わない感じがしました。そのため、ICU教会の礼拝には結局、数回しか出席しませんでした。その後、クリスチャントゥディでも取り上げたことがあります。ICUのKGKメンバーの中にも通っている人がいた東京バプテスト教会(TBC)の存在を知り、そちらに通うようになりました。

TBCは、英語で福音主義的な説教をしている教会でした。自分が東京ソフィア教会というところでクリスチャンになったこと、クリスチャントゥディの記者をしていること、またそれらが事実無根の誹謗中傷を受けていることなどを話しました。その後、メンバーシップのクラスを受け、浸礼による洗礼を受けて教員になりました。TBCは路傍伝道や海外宣教もします。伝道担当の専任の牧師もいるくらいです。バイリンガルな教会で、いろいろな国出身のクリスチャンたちが集まつた国際的な教会でもありました。先生方も僕の置かれた状況を理解してくださり、自分に合った教会に通えるようになって感謝しました。

特に感謝したいのは、TBCの主任牧師を長年務められたデニス・フォルズ先生です。デニス先生の説教を通して、クリスチャンとして聖書の言葉をどのように人生に、また生活や仕事のさまざまな場面に適応させ、実践して生きるかを学びました。最も心に残ってい

るのはマタイの福音書5章3節の講解で、「靈的な乞食（spiritual beggar）」として神の前に出ていく人の姿についてでした。行いによる救いではなく、信仰による救い。心から神様に賛美をささげること。デニス先生は、言葉と行いによって確固たる信仰と愛の模範を示してくれました。

同信会

大学に通いつつクリスチャントゥディの記者をしていたある日、クリスチャントゥディの事務所に一枚の毛筆の手紙が届きました。キリスト同信会からでした。訪れて、同信会の歴史やこれまでの働きについてさまざまな話を聞かせてもらい、毎週火曜日に開かれていた聖書の学びにも参加するようになりました。そのような交わりの中で数冊の本も頂き、同信会に関連する3人の人物を知るようになります。

互いを「兄弟姉妹」と呼ぶ同信会の伝統にならって、ここで紹介する男性3人は敬称を「兄弟」として紹介させてください。1人目がハーバード・ブランド兄弟（1865～1942）。彼は若干23歳の時、英国のプリマス兄弟団（プリスマ・ブレザレン）というクリスチャンの群れから単身、宣教のために日本にやって来た人でした。このプリマス兄弟団は、牧師職や教会制度を不要とするほど強烈な万人祭司主義と深い聖書の学びを貫いた群れでしたが、同信会から頂いた『ブランドさんとその群れ』には、ブランド兄弟について以下のように記されています。

さて、プリマス兄弟団の信仰に立ち、日本伝道を志すブランドさんは、ケンブリッジ大学を卒業した翌年、すなわち一八八八年（明治二一年）秋、万里の波涛をこえて、ひとり日本へと渡って来た。プリマス兄弟団から派遣されたのではない。兄弟らは異教国伝道にゆくより、われらはキリスト教国といわれるくにぐにて信仰の革新につとめるべきだという意見が強かったからだ。たしかにダービーの海外伝道も、すべてキリスト教国であった。またブランドさんは外国伝道会から派遣されたわけではない。いまどちがって日本にかんする正確な情報は皆無に近かった。親戚も大反対で、集会としての送別会も開かれなかつた。しかし、この弱冠二三歳の青年ブランドは、自分の財と身を、いまだ見ない東海の一小国の伝道にささげるべく、ただ主を仰ぎ、その召命のままに、勇敢な信仰的冒険者として、二〇〇〇トンの船にひとり身をゆだねてイギリスを出帆した。

このブランド兄弟の宣教への情熱は、僕がキリスト信仰に導かれるきっかけとなった合同福音の宣教師たちの情熱と同じものです。時代も出身地も違うキリスト者が、ただ伝道の熱意に燃えて言葉の異なる国に福音の種をまきに来た。このことへの感謝の念を忘れることはできません。

2人目が乗松雅休（のりまつ・まさやす）兄弟（1863～1921）です。日本人最初の海外伝道者とされている乗松兄弟は、ブランド兄弟に出会ってその群れに連なり、その後、植民地時代の朝鮮に渡ります。乗松兄弟は現地の人たちと同じ格好をし、福音を聞いたことのなかった人たちに韓国語で福音を伝え、教会を開拓し、そして何より現地の人たちを愛しました。クリスチャンとなった現地の人たちからも愛されました。植民地時代が

終わっても破壊されずにはほぼ唯一残った日本人の記念碑が、乗松兄弟の愛を刻んだ記念碑でした。そこにはこう書かれています。

生きるも主のため、死ぬるも主のため、始めも人のため、終わりも人のため、その生涯忠愛、おのれ主の使命を帶びて、その一切の所有を捨て、夫婦同心福音を朝鮮に伝う、数十年の風霜、その苦しみいかにぞや、心肺疼痛（とうつう）し、皮骨凍飢し、手足病敗す、その朝鮮における犠牲きわまりぬ、しかるに動静ただ主に頼り、苦に甘んずるの楽しみを改めず、その生涯は祈祷と感謝なり、わが多くの兄弟を得、会するに主を同じくす、主の名は栄を得、その生涯苦にしてまた栄なり、臨終の口に朝鮮の兄弟のことを絶たず、その骨を朝鮮に遺さんことを願う、これわれらの心碑となすゆえんにして、しこうして主の再臨の日に至るなり。

同信会から頂いた『乗松雅休覚書 最初の海外伝道者』を読んで非常に感化され、そのように民族が違っても、憎まれるしかない関係にあっても、他者を愛して生きたいと願うようになりました。この本は、クリスチャントゥディでも紹介しました（[記事](#)）。僕が韓国語を学ぶようになった動機の一つが、乗松兄弟のように韓国語で話し、韓国の人たちと兄弟姉妹として交わり、彼らを愛して生きたいと願ったからでした。

3人目が小山晃佑（こやま・こうすけ）兄弟（1929～2009）です。同信会の持田勝（まさる）兄弟から、乗松兄弟と同じように、小山兄弟は戦後初の海外伝道者としてタイに赴いたのだと聞きました。米国のプリンストン大学で博士号を取った小山兄弟は、タイの農村に赴き、人々に福音を伝えようとします。しかし彼らにとって、高尚な神学の言葉はそのままでは使い物にならないことを学んだといいます。そして、彼らの言葉であるタイ語を使うだけでなく、生活の基盤となる水田、またその農耕の営みを支える水牛など、現地の文化や風習を作り上げる生活の中の言葉を用いて福音を伝える術を、小山兄弟は学んだそうです。この時の経験が後に『水牛神学（Water Buffalo Theology）』などの著作として、海外で反響を及ぼすことになります。同信会から頂いた小山兄弟の『時速五キロの神』や『助産婦は神を畏れていたので』を読み、聖書を通して語る神の言葉が、自分の罪や、自分が属する社会の罪を深くえぐるとともに、その上でそれらを清くされようとする愛であることを学びました。

3人に共通していたのは、聖書の深い学びを通して知った神の愛と正義を、どんな遠くの人にでも、言葉や文化の違う人にでも、へりくだって愛することを通して伝えたいと願う伝道への熱意でした。

留学

大学4年になり、卒論の準備もしようかというころ、自分のアドバイザー（担任の先生）であった計算機科学の先生の研究課題の一つが、原子・分子の物理・化学的な特性のデータを集めることであり、これを核融合の研究のために応用していることを知りました。高校時代の夢だった核融合の研究に貢献する道が、ちらっと見えた瞬間でした。しかしその頃には、科学技術と社会の問題解決について、すでに自分なりに結論が出ていました。科学技術がいくら発展しようと、人間の心がそれを善用するか悪用するかを決めてしまう。

つまり、前提条件として善用する人の心が必要になる。そのためには何よりもまず、人の心が人種や国境、貧富の差を超えて互いを無条件に愛するように変わらなければならない。つまり、イエス・キリストの十字架に示されたえこひいきのない神様の愛によって、人の心が変わらなければいけない。自分の人生を費やす最も価値のある仕事は、福音宣教への貢献であると、自分の中には確かな「答え」がありました。

一方、それ以前から、東京ソフィア教会に通っていたときに知り合った宣教師の一人から、張牧師が米国に渡り、宣教学者の故ラルフ・D・ウィンター教授の下で世界宣教についての助言を受け、世界宣教に貢献する人材育成を目的とした大学を設立したことを聞いていました。その大学の名前はオリベット大学。オリベット大学において一番大事な学部は神学部です。神学の中でも宣教學は最も重要な分野の一つとして捉えられています。もちろん、聖書神学、組織神学、歴史神学なども当然重要な学問として学びます。ただ、神学部の学生だけが学ぶのではなく、神学部以外のすべての実学を学ぶ学部学生が、必須科目として神学の単位を相当数取ることが義務となっています。これは、オリベット大学という大学が、神学を学ぶ人は伝道と牧会によってキリスト教宣教に貢献する献身者として派遣され、実学と神学を学ぶ者は実学に裏付けられたプロフェッショナルな技能や職能によってキリスト教宣教に貢献する献身者として派遣されるという、ウィンター教授直伝の実践的宣教學を基礎にした大学だからです。

音楽専攻、ジャーナリズム専攻、グラフィックデザイン専攻、情報技術専攻、言語学専攻、経営学専攻、都市工学専攻、建築学専攻、農学専攻など、いろいろな専門分野はありますが、学部学生においては全員神学関連科目が必須であり、職能を生かして全員キリスト教宣教のために奉仕する献身者となることを前提に入学する大学だということです。

ここに、僕が強く共感したオリベット大学のミッション（建学の理念）を紹介します。

オリベット大学は、献身者を聖書的な学者やリーダーにならしめるべく訓練し、ネットワーク世代とその後に続く世代に福音を効果的に伝える上で実用的な能力を備えさせ、キリスト教宣教を通して世界を革命するためにささげられた聖書的な高等教育機関である。

僕は個人的にラディカルなものが好きです。「ほどほどにしましょう」が嫌いです。世界革命をうたうほど、オリベット大学は世界宣教においてラディカルでした。またこの理念は、神様の助けさえあれば、この世の知恵とスキルを世俗社会から宣教の場に持ってきて応用することによって、世界宣教が「半ば諦めの入ったスローガン」でも、「机上の空論」でも、「絵に書いた餅」でも、「口だけの約束」でもなく、いつ実現するかは分からなくても、「現実に実行可能な、暫時改善と効率化の可能な、そして達成可能なプロジェクト」となるという信念を表しています。

このオリベット大学のミッションに共感した僕は、まずは通信課程で神学学士（B.A. in Theology）を取得しました。そして祈った結果、米国に留学して、このオリベット大学で学ぶのが、ICU卒業後の進路として一番合っているという思いが与えられ、神学部の神学修士課程に入りました。その後、工学部（Olivet Institute of Technology）の情報工学修士課程に転科し、情報工学修士（M.A in Information Technology）を取得しました。

さらにその後、神学修士（Master of Divinity）の取得に欠けていた単位を取ることを条件に博士課程に進み、情報工学と教会論の学際研究をするようになりました。

プリンストンやハーバードなどの大学には、確かに神学校や神学部があります。しかし、神学部以外の学生が、キリスト教宣教のために一生をささげる召命を受けた献身者でしょうか？ そのために工学や経営学と一緒に必須な学問として神学を学ぶでしょうか？ 卒業後それら実学の学徒の全員が、キリスト教宣教のために奉仕者として派遣されるでしょうか？ プリンストンやハーバードも当初は「教会の子」と呼ばれ、牧師を養成することを第一義的目的として設立され、存在していたのに、いつの間にか世俗的な学問の追求を目的とした機関になってしまったのではないか？と、存命中のウィンター教授は語っていました。そして、ある講演の中でオリベット大学の学生や教職に問い合わせました。「大学とは何か？」と。僕もその場に座ってその問い合わせを直接耳にし、自分が今学んでいる大学とはどんな存在なのかを再確認する機会となりました。

フラーやゴードン・コンウェルは素晴らしい神学校です。学校を卒業する人たちは、キリスト教宣教に貢献する献身者となることが前提となっています。しかし、伝道や牧会の現場で情報技術や建築などの実践的な技能を持った献身者が万全のサポート体制をつくる支えてくれたら、総合病院の心臓外科医が心臓の手術だけに専念するように、使徒たちが7人の執事を任命して自分たちは御言葉の奉仕に専念したように、シラスとテモテがマケドニアから下ってきた後のパウロのように、牧師や宣教師は伝道と牧会により集中することができるのではないでしょうか。

キリスト教データジャーナリズム

僕の個人的な関心分野は、神学（教会論）、情報工学、ジャーナリズム学、教育学の4分野が交差する学際領域です。そして、キリスト教世界宣教の戦略策定における世界レベル、国レベル、都市レベル別の教会成長、宣教の進捗の可視化などを目的としたキリスト教データジャーナリズムという分野を開拓する際に、例えば、このようなグラフデータベースのスケーラビリティーに関する論文にある技術を応用できるほどの次世代のキリスト教データジャーナリストを育成するために必要な大学院レベルのカリキュラム構成、卒業後のOJT（On the Job Training）の訓練課程を開発することなどが、具体的な関心事の一つです。同様の学際領域としては「キリスト教報道機関に特化したサイバーセキュリティ技術者の育成」「異なるキリスト教報道機関同士の安全かつ効率的な情報共有システムの開発者訓練プログラム」などがあり、このようなものも僕の関心事です。

碎けて言えば、「世界宣教がどれくらい進んでいて、どういう人材を、どこのどういう団体に送ったら一番うまく行くの？」「そういう情報をどうやって集め、どうニュースとして加工して報じればいいの？」「そういう情報を扱えるのは、何百個ものコンピューターに仕事をやらせる人じゃないといけない。しかし、そういう人材を育てる先生たちはどのように生徒を学ばせ、訓練したらいいの？」「そして、その人たちを卒業後、経験のあるベテランに育てるにはどう鍛えたらいいの？」「メディア運営のデジタルな仕組み作りをする技術屋さんを育てるにはどうすればいいの？」という問い合わせへの答えを探す研究をし、得た知恵で、仲間の仕事場をより良く変えていき、若い人を育てることを生きがいとして

います。

ウィンター教授は、米国世界宣教センター（U.S. Center for World Mission）の働きをする中で、世界宣教戦略に役立つ統計を作るのが夢だったそうです。ウィンター教授がメンターをした張牧師はこの夢を受け継ぎ、オリベット大学を設立したときには、他学部に加えてジャーナリズム学部と情報工学部も創設し、教授陣をそろえ、福音宣教のためのメディア教育とＩＴ教育を始めました。その教育機関の苗床に僕はまかれ、今の自分に育ててもらい、同じ夢を共有し、ウィンター教授や張牧師のように次世代の福音宣教に奉仕するプロフェッショナルな人材の育成に人生を尽くしたい。これがこの分野に僕が関心を持つ理由です。

ある神学生の話

今回の編集長の就任に関して、一番大きな影響を与えたと感じているある恩師の話があります。その恩師を仮にN先生と呼びましょう。ある年に日本に帰国する機会があり、N先生の家に遊びに行ったことがあります。昔の話をいろいろするうちに、N先生が神学生だったころの話になりました。N先生は若い頃、伝道熱心な教会に通っていたそうです。その教会では熱心に路傍伝道もしていたそうです。そして、福音派のとある神学校に行くことを勧められ、入学することになります。

「イエス」という映画

その神学校には幾つか校則があり、そのうちの一つが「在校生は映画館に行って映画を見てもならない」というものだったそうです。映画の中には信仰的にも学ぶべきところがある良い映画もあります。しかし学校の方針としては、映画館の立地する場所や上映前のコマーシャルなどが良くないと理由で禁止でした。これをおかしいと思ったN先生は、「あえて」学生寮の神学生みんなを連れ出して、ちょうど当時上映されていた「イエス」という映画を観に行きました。寮に一人も人がいないわけですから、神学校の先生たちも気が付きます。帰ってきたN先生は問われます。「何をしてきたのか？」「『イエス』という映画を観てきました」。教授会が開かれ、わざと校則を破ったN先生と、映画問題について議論が始まりました。それは夏休みになろうとする時期でした。映画問題に結論が出ないので、夏休み明けに議論を再会するまでは、それぞれの神学生の母教会にはこの問題について、神学生も教授会も話さないようにするという紳士協定が結ばれました。ところが蓋を開けてみると、それぞれの母教会にN先生の主張とそれを否定する内容のお達しが届いていました。紳士協定は破られたのでした。

神学校と日本国憲法第39条

さらにN先生は、授業の内容にも不満があり、それを抗議するために授業ボイコットもしました。教授会はこれに目をつけて、N先生を退学にする大義名分にしようとしました。教授会は新しい校則を作りました。授業の出席日数が一定数に満たない者には単位を与えない。単位を一定数取得できなければ退学。そして、教授会は「法の不遡及（ふそきゆう）」の原則に反して、新しい校則を過去の出欠にも適応させました。N先生はこのまま

では退学になります。そのような時に「N君」と、一人の教授が呼びました。「これは僕の授業の出席簿だが、君はこの日とこの日には出席していたよね？」と、その教授は出席のマークをつけていくのでした。このような助けがあり、N先生は事後法による退学を免れます。

リンチ

教授会は新しい規則を作りました。N先生はいかなる教会にも通ってはならないという規則です。神学校が神学生に礼拝出席を禁じたということです。この時も、とある教授が助け舟を出しました。こっそり自分の通う教会の礼拝にN先生を連れて行ったのでした。また自分の家にも連れていき、ご飯を食べさせてくれたそうです。しかし、N先生の後輩の別の神学生が一人、この教授が通う教会の礼拝に出席していたのです。後輩の神学生が心の中でこれをどう感じたのかは分かりません。しかしある日、N先生はその後輩に呼び出され、寮の一室に連れて行かれました。入ると5、6人の別の神学生が取り囮み、出入り口は閉ざされ、N先生は一方的に殴る蹴るの暴行を受けました。N先生は絶対に仕返ししないと腹に決めたそうです。ひとしきりリンチが終わると、N先生はすぐさま暴行の事実を教授会に報告しました。教授会はN先生に泣きつきました。このことはどうか口外しないでほしい。神学校で暴行事件だなんて事が明るみになつたら学校はおしまいだ。N先生は図らずも学校の弱みを握ったことになりました。N先生は「あれがあつたから僕は卒業できたんだよ」と振り返ります。

卒業と通達

卒業の日が近付いてきたころ、N先生の神学校から、全国津々浦々の福音派の教会にお達しが届きました。「これからNという者が卒業するが、この者を決して牧師として雇用しないように」とのお達しでした。N先生が福音派の中で生きていく未来は絶たれたのでした。教授会からのいじめに遭う中で、その神学校に新しく赴任してきた宮村先生はN先生に優しく接し、よく一緒にご飯に連れて行ってくれたといいます。宮村先生は、N先生がこれまで神学校で経験した長い話を聞き、N先生のために祈り、助言していました。宮村先生はN先生に米国留学を勧めました。そしてN先生は留学中に、日本のあるキリスト教大学の付属教会に副牧師として招聘され、帰国することになりました。

学生時代には分からなかったこと

僕が学生だったころは、むやみにN先生に反発して先生の心の中など考えもしませんでした。今考えてみると、もしかしたらN先生は反抗的な僕の姿の中に神学生時代の自分の姿を重ねて見ておられたのかもしれません。僕は、N先生から助言や訓戒を受けはしましたが、僕の信仰を否定されたことはありませんでした。また、N先生が神学生時代に一部の教授から受けたような仕打ちを僕にするようなことは決してありませんでした。

東京ソフィア教会に通っているときも、キャンパス伝道をしていたときも、聖書の内容について論争したときも、クリスチャントゥデイに加わったときも、ICU教会に通っていたときも、TBCの教会員になったときも、長い年月を経て再会したときも、僕を一人の

クリスチャンとして扱ってくださいました。宮村先生が神学生時代のN先生に接した恩が、順繰りになって自分の元に来たようでした。

根田祥一氏が15年にわたって主導してきたクリスチャントゥディ異端捏造問題の本質は、イエス・キリストの十字架によって罪から救われたと告白する人たちの信仰告白を否定し、うそつき呼ばわりし、本人らが信じてもいない異端教理を信じていると自白せよと強要し、キリスト教界の意思決定を握る少数の人物に干渉して、その宗教的権威を濫用して、関係の断絶を宣布させ、特定の人々に異端のレッテルを貼って差別し、また周囲にも差別させ、その人たちをクリスチャンとして扱わず、また周囲に扱わせないように強要することにあります。

これはN先生を排除した教授会の手口とまったく同じであったことが、今になって分かるようになりました。

召命の意味

編集長の打診を受けたとき、祈りながら上記のような自分の人生で神様が出会わせてくださったさまざまな人々、経験させてくださったさまざまな出来事を思いめぐらしました。与えられた英語、韓国語、多文化適応、情報技術、宣教学など、それぞれの熟達度は不足しているながらも、取材、情報の取得、整理、報道の現場で使うには便利な道具となるものです。神様としてはこれらを渡したのだから、使ってこの仕事をしなさいということなのだろうと解釈しました。また、日本のキリスト教界には、クリスチャントゥディ異端捏造問題前にも、N先生のように陥（おとしい）れられ、不当に名誉を毀損させられ、泣き寝入りし、キリスト教界の権力の濫用によって被害を受けた弱者たちがいることも学びました。

祈りつつ考えました。このような経験を通らされてきた自分が編集長として召されたとすれば、何を神様は自分に求められているのだろうか？ まずは、クリスチャントゥディの基本信条と報道理念を忠実に守り、実践していくこと。そして、個人的なものを一つ挙げるとすれば、「キリスト教界の権力の濫用によって拡散された偽りによって隔離された被害者の口となり、真実を伝え、差別の壁を打ち壊し、イエス・キリストにある兄弟姉妹の交わりに戻すジャーナリズム」だと思います。

皆さんにお祈りの課題を分かち合えるとすれば、編集長として歩む中で経験するであろういろいろなことも神様の用意されたこととして、神様の取り扱いを受け、それに愛で応答し、隣人を愛することをこの仕事を通して実践する中で、イエス・キリストの福音を伝える者の「足」として用いられるようお祈りください。

よろしくお願ひします。

主にあって
クリスチャントゥディ
編集長 井手北斗

印刷

2019年12月25日20時23分

編集長就任あいさつ 井手北斗

記者：井手北斗



この12月から、故宮村武夫名誉編集長の後を継ぎ、編集長に就任させていただきました井手北斗です。以前、クリスチャントゥディで記者をしていた経験があり、また宮村先生の孫弟子に当たることもあり、これまでの歩みを振り返りつつ、祈った末、編集長として働くことを決めました。就任のあいさつに当たり、自己紹介と抱負を述べさせていただきたいと思います。なお、私の信仰の証しについては、クリスチャントゥディの[公式ブログ](#)で詳しく記していますので、ご興味がある方はそちらをご覧ください。

私は、国際基督教大学（ICU）在学中に、韓国出身の宣教師との出会いが与えられ、教会に導かれました。そして聖書を学び、イエス・キリストを救い主として受け入れ、クリスチャンになってからは、キャンパス内で学生伝道をしたり、宣教に役立てたいと、専攻を物理から計算機科学に変えたり、理系でありながらも、永田竹司先生の新約学や並木浩一先生の旧約学、ヘブライ語など、キリスト教関係の授業も受けたりしました。永田先生は当時、大学の宗務部長でありICU教会の牧師でもあったため、頻繁に牧師室兼宗務部長室に遊びに行っては信仰や宣教について議論したり、助言や指導を受けたりしました。

しかし、私の当時の伝道スタイルはICUの雰囲気になじまず、キャンパス内での学生伝道はなかなかうまくいきませんでした。そんな中で出会ったのが、キリスト教のインターネット新聞であるクリスチャントゥディでした。当時は、記者として記事を書いたり、大学で学んだ情報技術を生かしたりして、この文書伝道の働きに貢献することができました。クリスチャントゥディ創業者の高柳泉や、当時は記者だった現社長の矢田喬大とはこの頃一緒に働き、困難を共に乗り越えた戦友のような存在です。一方、当時通っていた開拓教会が経済的な理由により解散したため、同級生が通っていた東京バプテスト教会（TBC）に通うようになるという信仰生活の変化も、ちょうどこの頃にありました。

ICU卒業後は、自分が学んだ情報技術を宣教のために生かしたいと考え、キリスト教宣教のための情報技術者を養成する学部のある米国のオリベット大学に進学し、修士課程で神学と情報工学を学びました。修士課程修了後は博士課程に進み、情報技術を生かした実践的な宣教学の研究をしつつ、大学の非常勤講師やスタッフとして働きました。また、オリベット大学の卒業生らが

開拓伝道した教会が形成した教団であるオリベット・アッセンブリーで牧師按手を受け、情報技術者の伝道団体・奉仕団体であるG & I T (Gospel & Information Technology) でも、献身者として奉仕をしました。

そのようにして米国で10年ほど学びと献身の生活を送っていたころ、永田先生が宮村先生の教え子であり、自分は宮村先生の孫弟子に当たることを知るようになりました。日本に帰国した際には、宮村先生や永田先生にお会いして、各先生と親しい交わりの機会を持つことができました。しかし米国に戻ってしばらくして、宮村先生が天に召され、クリスチャントゥディが新編集長を探しているとの知らせを受けたのです。そして長年、牧師・神学校教師として歩まれてきた宮村先生が、それらの経験を「この時のため」(エヌテル4：14)と受け止め、編集長に就任されたように、私も、これまでの経験は神様が自分をこの道に召し出すためのものだったと信じ、宮村先生の後を引き継がせていただくことになりました。

さて、編集方針としては、まずはクリスチャントゥディの報道理念に従い、これから逸れない紙面を作りたいという抱負があります。そして、それを踏まえた上で、短い人生経験ながらも、日米韓のキリスト教界でさまざまなクリスチヤンと接してきた経験から、自分なりに考えたキリスト教ジャーナリズムのあるべき姿、自分の代で目指したいクリスチャントゥディの編集の在り方を以下に述べたいと思います。

1. ジャーナリズムは、中立公正を基盤としながらも、特定の価値観に基づいてなされます。キリスト教ジャーナリズムは、十字架につけられ、復活され、われわれを救ってくださった神の子、イエス・キリストの教えに基づいていなければなりません。私は、聖書はすべて誤りなき神の御言葉であり、信仰と生活の唯一の基準であると信じます。そしてその基準に照らし合わせ、個人や団体の政治的傾向にかかわらず、その都度その言動に対して「はい」と言うべきことは「はい」と言い、「いいえ」と言うべきことは「いいえ」と言うべきだと信じます(マタイ5：37)。これは、宮村先生が編集長就任のあいさつで語っていたことでもありました。一方、賛否の分かれる事象は両論併記を目指し、読者に判断の助けとなる材料を提供するよう努めるべきだと信じます。

2. ジャーナリズムは、それを担う個々の媒体においてそれぞれの方針に基づいて行われます。クリスチャントゥディの報道理念には「実践的大大方針」があり、その第2項で「宣教第一主義」を掲げています。この言葉は、宣教以外のことを第一とし、宣教を第二とするすべての事柄に対するアンチテーゼであり、優先順位の確認でもあります。キリスト教ジャーナリズムは、日本と世界の宣教に寄与し、良いことの知らせ(福音)を伝える足(ローマ10：15)となることを第一の存在理由にすべきだと信じます。

3. ジャーナリズムは、権力が濫用されていないか監視する責務があります。キリスト教ジャーナリズムは特に、キリスト教界の権力が適正に用いられているかを検証する義務があります。「裁きを曲げてはいけない」と叫ぶ者の声になるべきであり、悪の道や不正から離れて生き延びるように警告する者の声になるべきだと思います。警告することで悔い改めが起きればそれですし、悔い改めが起きなくてもキリスト教ジャーナリズムはその責務を果たしたことになります。

しかし、気を付けるべきことは、鼻で息をする人間を恐れ、死んだ後でゲヘナに投げ込む権威のある神を畏れず、警告すべきときに警告をしないとき、神はキリスト教ジャーナリズムにその責任を問われると信じます（エゼキエル3：17～21）。

4. ジャーナリズムは、読者の「知る権利」の行使を補助する道具でなければいけません。読者の知りたいと願う情報を、さまざまな制約のある読者に代わって取得し、読者に伝える使命があります。キリスト教界に関わるさまざまな人々、キリスト教に関心のある一般の人々をはじめとして、求道者もクリスチヤンも牧師も神学者も、教会の役員も教団の理事も皆、読者であり、それぞれ平等に「知る権利」を持っています。キリスト教ジャーナリズムは、キリスト教界を一つの体に例えると、神経のような役割を担う存在ではないかと思います。神経が機能しなければ、痛みも、満腹か空腹かも感じないのと同じです。宮村先生が生前、[編集会議](#)で語っていたように、クリスチヤントゥディがキリスト教ジャーナリズムとして健全に機能すれば、一つの教会の中だけでなく、より広くキリスト教界全体が、「喜ぶ者と喜び、泣く者と泣く」（ローマ12：15）ことを可能とする存在になれると信じます。

以上をもって、編集長就任のあいさつとさせていただきます。



[トップページ](#) > 会社案内 > 報道理念

基本情報

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

報道理念

I 福音による個人変革と社会変革を標榜

- わたしは彼の上にわたしの靈を授け、彼は國々に公義をもたらす。（イザヤ42章1節）
- 彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、國は國に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。（ミカ4章3節）

クリスチャントゥディは、イエス・キリストの御言葉の真理に基づき、地に神の公義と愛をもたらす、キリスト者の働きを報道をもって支援する従僕としてのメディアです。非キリスト教国である日本の社会にあって、世の激しい誘惑と誤った価値観に接する日本のキリスト者が、福音的個人変革を遂げ、いよいよ「地の塩」、「世の光」としてその尊い使命を貫徹するために有益な国内外のキリスト教界の働きを紹介し、かつタイムリーな諸情報を報道します。

クリスチャントゥディは、複雑な諸問題を抱える現代社会にあって、国内外のキリスト教界が発する福音的言論と働きを的確に報道することにより、各個教会とキリスト者がいよいよ今日の社会の中で果たさなければならないその重要な役割を強く認識し、福音的社会変革に積極的に寄与し得るよう仕えて行く所存です。また国家に対しキリストにある正しい政策のあり方を示唆し、人命を奪う戦争という手段に安易に加担することなく、聖霊の働きによる国家間の和解と一致、真の世界平和の実現を提唱します。

II オンライン報道の使命

■ 良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしよう。（ローマ10章15節）

インターネット社会に突入し、あらゆる情報がパソコンを通して閲覧可能となった現代社会は、世俗の価値觀に基づいたあらゆる情報で満ちています。のみならず何よりも恐るべきことに、世俗宗教や異端がインターネットを巧みに駆使し、その勢力拡大のために巧妙な闇の権勢による情報を発信して日々に一般大衆の巻き込みを図っています。この災禍の中から同胞を救い、キリストの真の福音の下に靈魂を懐かせるためには、今こそお互いキリスト者が並みでない危機感をもって切に祈り、今こそ彼らに優る力量をもってインターネットの世界に切り込んで行かなければなりません。

そこでクリスチャントゥディは、インターネット空間において主イエス・キリストの福音を伝え、福音的価値觀に基づいて精力的に神の御心に適った真理と事実を時宜を得て報道し続けることによって、闇の勢力を打破して行くことを使命とし、かくしてキリストと教会に真心こめて仕えて行くことを決意するものです。

インターネット空間では、巨大掲示板やソーシャルネットワークなどを通して情報が瞬時に広がります。福音の情報が広がれば、多くの人々が聖書の御言葉に関心をもち、教会に足を運ぶようになります。その可能性は無限大です。

かくしてクリスチャントゥディのオンライン報道の目的は、インターネット空間上で主のことばを聞くことのききんに苦しむ一億三千万の同胞を救い出すことがあります。

III 実践的四大方針

■ 福音主義の堅持

福音を変質させ破壊する如何なる勢力とも妥協せず、純粋な福音主義信仰を堅持し、如何なる孤独も甘受し、福音主義を貫きます。

■ 宣教第一主義

福音は宣べ伝えられてこそ命を生むことを覚え、宣教第一を主張します。福音を真摯に伝える教会と諸団体、個人の最新情報を速やかに取材、報道し、日本宣教、世界宣教に貢献します。

■ 教会一致とグローバルな視点の提示

唯一の神と主イエス・キリスト、聖霊に仕える教会の多様性を重んじ、かつキリストにある教会とキリスト者の相互の和解と一致に仕えます。かつ常に国際的視野の下で海外のタイムリーな福音的情報を収集し、適宜報道することにより、教会とキリスト者のグローバルな視点を培うことになります。

■ 福音文化の普及と社会貢献

目まぐるしく変化する世俗社会に常に福音文化を育み、キリスト者を世俗文化の影響から守ると共に、情報化社会の中でキリストの美しい知らせを示し、福音文化が日本の代表的な文化となることを目指し、常に報道に当たります。また理論止まりの信仰に警鐘を鳴らし、社会奉仕を通じた愛の実践を推奨し、キリストの愛に満たされた教会形成や、貧しい人たちや阻害されている人たちを守り、日々福音の証しに励む教会やキリスト者のために有益な国内外の情報を報道します。

Copyright © 2002-2018 Christian Today Co., Ltd. All Rights Reserved.

信仰告白

この頃、一連の討論と対話の中で、諸方面の方々から、私たちの信仰の告白、イエス・キリストを救い主として受け入れた経緯、また、私たちの献身の姿勢と奉仕の意味について問い合わせがありました。使徒ペテロが、「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えて」(第一ペテロ 3章15節)おくべきであると教えているとおり、私たちも私たちの抱いている希望について説明を要求する人たちに、私たちの信仰を告白したいと思います。

クリスチャントゥディで働いている社員たちがそれぞれ異なる過程を経てきたとしても、皆が同じ唯一の救いの道に導かれて永遠のいのちを与えられた一人ひとりであることを先ず告白したいと思います。私たちは信仰によって救われましたが、真の「信仰」とは何を意味するのでしょうか。私たちは次のように教わり、心が熱くなりました。その信仰とは、私たちが罪人であるにもかかわらず、イエス様が私たちの罪を赦し、私の全てを受け入れてくださったこと。私の罪を代わりにご自身が背負われ、十字架の上で死なれ、復活してくださったことにより示された無条件の愛、その限りない恵み (Gratia) を確信し、受け入れることでした。ですから、私たちが告白する信仰の確信と私たちの得た自由は、唯一の道である主イエスから与えられたものです。「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」(ローマ10章17節) からです。では、私たちは何を伝え聞いたのでしょうか。それは、神様の啓示であるイエス・キリストの愛です。私の罪のために流された贖いの血、それだけが愛と恵みに富みたもう神様の完全な自己啓示であったことを私たちは知っています。

主が私を知っておられるように、私が主を知ることになるということです。(Iコリント13章12節) 私たちは、この偉大な愛の喜ばしい知らせを福音と呼んでいます。私たちはその福音を心で信じ、口で告白して救いに至ったのです。罪から自由に至る唯一の方法は、ただ恵みによって、信仰によって、イエス・キリストによってのみであり、これ以外の道は一つとしてありません。この地上においてイエス様のお名前以外に私たち人間には与えられていないのです。そして、イエス様が救いに至る唯一の真理の道であり、いのちそのものです(ヨハネ14章6節)。キリスト教はこの基本的な信仰告白の上に建つ共同体ではないでしょうか。ですから、イエス・キリストの血の代価によって買い取られた教会であり、共同体です。これが私たちの信仰の告白です。

しかし、どこで私たちは信仰の道を踏み外すのでしょうか。救いの手段はイエス・キリストの十字架です。その十字架を別のものに置き換えたり、条件を付加させたりしてしまうとき、福音は変質し、腐敗します。十字架の意味を見失うとき、その共同体は異教と化してしまうのです。私たちはもう一度告白します。救いは、主イエス・キリストの恵みを知るただ一つの方法、すなわ

ち信仰によって（Sola Fide）のみ可能なのです。イエス・キリストは、神様の御姿であられる方なのに、私たちを救うために神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を卑しくし、罪深い地上に介入して来られ（ピリピ2章）ました。私たちを愛してください、その愛を余すところなく示され（ヨハネ13章1節）、人類の罪のためにご自分の命まで差し出されました。私たちは、神の御子の降誕と生涯、十字架と死、復活、昇天に至るその完全な神様の自己啓示の中でのみ神様ご自身を知ることができ、そのお方を通してのみ神様に至る道が示されていることを私たちは聞いて告白します。罪にけがれた私たちのために十字架を背負ってまでご自分を低くして無となられた、その謙遜さ（Kenosis）、へりくだつた人だけが高く揚げられるという真理。そして全ての名に勝る御名はイエス様ただお一人であるという信仰を私たちは告白します。私たちは、この素朴かつ永遠に深いキリスト教の信仰告白の上に立っています。ですから私たちは、イエス・キリストの愛に借りのある者です。ユダヤ人もギリシア人も下僕も自由人も、誰も皆、例外なくイエス・キリストの愛に借りのある人々といえるのではありませんか。キリストの贖いの血によって救われた私たちは、一生を費やしても返すことのできない、その限りない愛に借りのある人々であると私たちは考えます。

張ダビデ牧師は再臨のキリストではありません。張ダビデ牧師は在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部が韓国の教団本部を通して聞いていた質疑に対し、次のように答えています。

—以下引用—

主イエス・キリストの恵みを賛美します。先日、在日大韓イエス教長老会・合同福音教団宣教部から韓国・大韓イエス教長老会合同福音教団を通じて私の信仰に関する問い合わせがありましたので、私が韓国の教団に送った信仰告白をお伝えいたします。

私はイエス・キリストの恵みによってイエスご自身を私の唯一の救い主として受け入れ、罪を赦された後、一度たりもイエス・キリストへの信仰を捨てたことがありません。

また、イエス・キリスト以外の福音を伝えたことも無く、ましてや自分自身をキリストと称したことなど一度もありません。

イエス・キリストの他に救いに至る道、自由に至る道がないことをはっきりと告白します。

そして、統一協会との関係は韓国キリスト教総連合会が韓国・合同福音教団に送付した公文書2通（2004年7月6日、2005年9月6日）を参照してください。

—以上引用—

私たちの信仰生活と献身は、ただ私たちを救ってくださったイエス・キリストの愛を一人でも多くの人に伝えたいという私たちの「もがき」です。たとえ私たちがどのように見られているとしても、何とかして一人でも多く救われてほしいという願いの一片に過ぎないことを告白します。

(第一コリント 9 章 22 節) 聖書は神様の救いの歴史を私たちに教えています。救われた者の中には、主イエスに対する感謝があり、賛美と礼拝と宣教があり、主イエスとその福音を人々に伝えたいという熱い思いがあります。そして、究極的に、私たちの人生は、自分はすでに(already)救われましたが、まだ(not yet)到来していない神様の御国に対する永遠の希望を抱いて生きる信仰の歩みであることを告白します。将来必ず地上に来られる主をただ待ちわびつつ、私たちはただ私たちに命じられた全ての国民を弟子としなさいという大宣教命令(マタイ 28 章 19-20 節)に従って生きているのであることを告白します。主が来られるそのときまで、私たちはただ神の御国を思い、神に生きることを許されている一日一日を敬虔に、熱心に生きることこそ、キリスト者の本望であることを告白します。使徒パウロが実存的な信仰生活について次のように語ったとおりです。

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。 (ピリピ 3 章 12 節)

この聖句をもって今日を生きる私たちの個人的かつ実存的な信仰を証したいと思います。そして、この告白を、キリスト者共同体の信仰として掲げていきたいと願っています。

Sola Fide Sola Gratia Sola Scriptura

東京都千代田区神田淡路町2-5 小川ビル3階
株式会社クリスチャントゥディ
代表取締役 高柳泉



[トップページ](#) > 会社案内 > 信仰告白

基本情報

- › 会社概要
- › 代表挨拶
- › 役員・論説編集
- › 基本信条
- › 報道理念
- › 信仰告白
- › 利用規約
- › English

信仰告白

1. 私たちは、新旧約聖書が66巻から成り、靈感された神の言葉であり、原典において何ら誤りがなく、信仰と生活の唯一の規範であり、正典であることを信じる。
2. 私たちは、神が唯一全能であり、父と子と聖霊の三位格をもつ三位一体であり、永遠に存在される方であることを信じる。
3. 私たちは、アダムが神のかたちに創造され、サタンの誘惑により罪の中に堕落し、その罪により全人類に罪が入ったことを信じる。
4. 私たちは、主イエス・キリストが眞の神にして聖霊によって処女マリヤからお生まれになった眞の人であること、罪のないこと、奇跡の御業を行われたこと、私たちの罪のために身代わりとなって十字架上で死なれ、肉体をもって復活されたこと、天にのぼり大祭司として御父の右に座しておられること、彼ご自身が栄光のうちに再び来られることを信じる。
5. 私たちは、救いとは、罪の許し、キリストの義の転嫁、行為によらずただ信仰により得られる永遠のいのちであることを信じる。
6. 私たちは、信じた者と信じなかった者が復活し、信じた者は永遠のいのちと喜びに至り、信じなかった者は永遠の刑罰に至ることを信じる。
7. 私たちは、教会すなわちキリストの体が、救われて生まれ変わった者、聖霊によって新生した者によって構成され、これらの人々のためにイエス・キリストが天において私たちをとりなし、再び地上に来されることを信じる。
8. 私たちは、イエス・キリストの再臨は切迫したものであり、イエス・キリストご自身が目に見えるかたちで来られることを信じる。
9. 私たちは、罪の中に堕落した人間が聖霊による新生を通してのみ救われる信じる。
10. 私たちは、イエス・キリストが全世界に出て行って全ての国民に福音を宣べ伝え、信じた者たちにバプテスマを施すように教会にお命じになったことを信じる。

■ [2008年掲載の信仰告白](#)